

秋田県文化財調査報告書第372集

高野遺跡

— 県営ほ場整備事業(黒倉堰地区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2004・3

秋田県教育委員会

シンボルマークは、北秋田郡森吉町白坂(しろざか)遺跡  
出土の「岩偶」です。  
縄文時代晩期初頭、1992年8月発見、高さ7cm、凝灰岩。

たか の  
高野遺跡

— 県営ほ場整備事業(黒倉堰地区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2004・3

秋田県教育委員会



## 序

本県には、これまでに発見された約4,600箇所の遺跡をはじめとして、先人の遺産である埋蔵文化財が豊富に残されています。これらの埋蔵文化財は、地域の歴史や伝統を理解し、未来を展望した、彩り豊かな文化を創造していくうえで、欠くことのできないものであります。

一方、本県の基幹産業である農業においては、用水路網の整備と水田の大区画化により、大規模化と担い手の育成を目的とするほ場整備事業が行われております。本教育委員会では、これらの地域開発との調和を図りながら、埋蔵文化財を保存し、活用することに鋭意取り組んでおります。

本報告書は、県営ほ場整備事業田沢湖町黒倉堰地区に先立って、平成14年度に実施した高野遺跡の発掘調査成果をまとめたものであります。調査の結果、縄文時代の捨て場、配石遺構、平安時代の竪穴住居跡などが見つかри、当時の人々の生活の一端が明らかになりました。本書がふるさとの歴史資料として広く活用され、埋蔵文化財保護の一助となることを心から願うものであります。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本報告書の刊行にあたり、御協力いただきました秋田県仙北地域振興局農林部、田沢湖町教育委員会など関係各位に対し、厚く御礼申し上げます。

平成16年3月

秋田県教育委員会

教育長 小野寺 清

## 例 言

- 1 本書は、県営ほ場整備事業(黒倉堰地区)に伴い、平成14(2002)年度に発掘調査した田沢湖町高野遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本報告書に使用した地形図は、建設省国土地理院発行の25,000分の1「角館」・50,000分の1「角館」である。
- 3 遺跡基本層位と遺構土層中の土色の表記は、農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修『新版 標準土色帖』2000年度版によった。
- 4 第5章の「自然科学分析」は下記の機関に分析を委託したものである。  
放射性炭素年代測定・・・株式会社パレオ・ラボ
- 5 本報告書作成にあたり、以下の業者に作業の一部を委託した。  
土器実測・・・株式会社シン技術コンサル      石器実測・・・(有)三航光測
- 6 本報告書の執筆と編集は赤上秀人が行った。

## 凡 例

- 1 遺構番号は、その種類ごとに下記の略記号、検出順に通し番号を付した。精査の結果遺構ではないと判断したものは欠番とした。  
S I・・・堅穴住居跡      S K・・・土坑      S K S・・・土坑墓  
S Q・・・配石遺構      S R・・・土器埋設遺構      S K P・・・柱穴様ピット  
なお、遺構図面上に記したPは堅穴住居跡に伴うピット、Sは礫を示している。
- 2 遺跡基本層位にはローマ数字を、遺構土層には算用数字を使用した。
- 3 挿図中の遺物番号は、遺構内外の出土を問わず土器・石器ごとに通し番号を付し、写真図版中の番号と対応する。石器の番号にはSを付した。
- 4 基本的に遺構実測図は1/40及び1/20、遺物実測図は1/2及び1/3の縮尺で掲載した。しかし挿図割付の関係上、さらに若干の縮小を施した挿図がある。各頁に付したスケールを参照されたい。
- 5 挿図に使用したスクリーントーンは、下記の通りである。

### (遺 構)

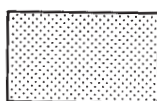


捨て場範囲

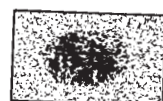


焼土

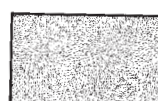
### (遺 物)



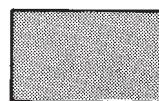
磨面



敲打痕



擦り面



赤変化



アスファルト

目 次  
序  
例言  
凡例

第1章	はじめに	1
第1節	調査に至る経過	1
第2節	調査要項	1
第2章	遺跡の立地と環境	2
第1節	遺跡の位置と立地	2
第2節	歴史的環境	2
第3章	発掘調査の概要	6
第1節	遺跡の概観	6
第2節	調査と整理の方法	6
第3節	調査の経過	7
第4章	調査の記録	8
第1節	基本層序	8
第2節	検出遺構と遺物	11
1	縄文時代	11
(1)	竪穴住居跡	11
(2)	土坑	11
(3)	土坑墓	17
(4)	土器埋設遺構	17
(5)	捨て場	20
(6)	配石遺構	20
2	平安時代	20
(1)	竪穴住居跡	27
(2)	土坑	28
第3節	捨て場出土遺物	28
1	縄文土器・土製品	28
2	石器・石製品	61

第5章 自然科学的分析 .....	83
第1節 放射性炭素年代測定 .....	83

第6章 まとめ .....	85
---------------	----

報告書抄録

図版



# 挿図・表・図版目次

## 挿図目次

第1図	遺跡位置図	2	第33図	捨て場出土土器(18)	49
第2図	地形区分図	3	第34図	捨て場出土土器(19)	50
第3図	周辺遺跡位置図	5	第35図	捨て場出土土製品	51
第4図	基本土層図	8	第36図	捨て場出土石器(1)	65
第5図	遺構配置図及びグリッド配置図	9・10	第37図	捨て場出土石器(2)	66
第6図	SI104堅穴住居跡、出土遺物	12	第38図	捨て場出土石器(3)	67
第7図	SK29・36・42・56・63・64・66・68・70・88土坑	14	第39図	捨て場出土石器(4)	68
第8図	SK137・164・202・203土坑 SKS30・32・85 土坑墓	16	第40図	捨て場出土石器(5)	69
第9図	SR27土器埋設遺構	18	第41図	捨て場出土石器(6)	70
第10図	SR27・84土器埋設遺構	19	第42図	捨て場出土石器(7)	71
第11図	ST33捨て場	21・22	第43図	捨て場出土石器(8)	72
第12図	ST77捨て場	23・24	第44図	捨て場出土石器(9)	73
第13図	SQ87配石遺構、出土遺物	25	第45図	捨て場出土石器(10)	74
第14図	SI105堅穴住居跡 SK92・120・141 土坑	26	第46図	捨て場出土石器(11)	75
第15図	SI105堅穴住居跡出土遺物	27	第47図	捨て場出土石器(12)	76
第16図	捨て場出土土器(1)	32	第48図	捨て場出土石器(13)	77
第17図	捨て場出土土器(2)	33	第49図	捨て場出土石器(14)	78
第18図	捨て場出土土器(3)	34	第50図	捨て場出土土製品	79
第19図	捨て場出土土器(4)	35			
第20図	捨て場出土土器(5)	36			
第21図	捨て場出土土器(6)	37			
第22図	捨て場出土土器(7)	38			
第23図	捨て場出土土器(8)	39			
第24図	捨て場出土土器(9)	40			
第25図	捨て場出土土器(10)	41			
第26図	捨て場出土土器(11)	42			
第27図	捨て場出土土器(12)	43			
第28図	捨て場出土土器(13)	44			
第29図	捨て場出土土器(14)	45			
第30図	捨て場出土土器(15)	46			
第31図	捨て場出土土器(16)	47			
第32図	捨て場出土土器(17)	48			

## 表目次

第1表	高野遺跡周辺の遺跡一覧	4
第2表	SR27・84埋設土器観察表	19
第3表	SI105堅穴住居跡柱穴観察表	26
第4表	捨て場出土土器観察表(1)	52
第5表	捨て場出土土器観察表(2)	53
第6表	捨て場出土土器観察表(3)	54
第7表	捨て場出土土器観察表(4)	55
第8表	捨て場出土土器観察表(5)	56
第9表	捨て場出土土器観察表(6)	57
第10表	捨て場出土土器観察表(7)	58
第11表	捨て場出土土器観察表(8)	59
第12表	捨て場出土土器観察表(9)	60
第13表	捨て場出土土製品観察表	60

第14表	捨て場出土石器観察表(1) ……………	80
第15表	捨て場出土石器観察表(2) ……………	81
第16表	捨て場出土石器観察表(3) ……………	82
第17表	放射性炭素年代測定および暦年代較性の結果…	84

## 図版目次

図版 1	調査区遠景(北西→) ST33近景(北西→) ST33状況(南→)
図版 2	SKS30状況(東→) SKS32状況(東→) SR27状況(東→)
図版 3	SI104炉断面(南東→) ST77・SQ87状況(南東→) SI105完掘状況(南東→)
図版 4	SI104出土土器 捨て場出土土器(1)・(2)
図版 5	捨て場出土土器(3)～(5)
図版 6	捨て場出土土器(6)～(8)
図版 7	捨て場出土土器(9)～(11)
図版 8	捨て場出土土器(12)～(14)
図版 9	捨て場出土土器(15)・捨て場出土土製品・捨て場出土石器(1)
図版10	捨て場出土石器(2)～(4)
図版11	捨て場出土石器(5)～(7)
図版12	捨て場出土土製品(1)・(2)

# 第1章 はじめに

## 第1節 発掘調査に至る経過

秋田県農林水産部は、農業の生産条件が不利な地域において地形条件に応じたほ場の整備を実施するために、県営ほ場整備事業を仙北郡田沢湖町黒倉堰地区において計画した。これは担い手への農地の利用集積を促進するとともに、収益性の高い畑作物等を導入可能なほ場にするにより、高付加価値型農業への転換を図ることを目的としたものである。また、農地の大区画と併せ、農道・用排水路網の整備を進めることにより担い手農家による大規模経営を目的とした土地利用型農業の確立を図るものである。

本地区の工事区域内には埋蔵文化財が包蔵されている可能性が強いことから、平成13年9月、秋田県仙北平野農村整備事務所は文化財保護法に基づき、この事実確認と今後の対応について田沢湖町教育委員会に調査と指導の依頼をした。これを受けて秋田県教育委員会は工事区域内に係わる埋蔵文化財包蔵地及び包蔵地と推測される地区については今後確認調査が必要であることと、確認調査の結果、記録保存の必要なものについては、発掘調査を実施すべき事を回答した。

平成12年度から13年度に実地した田沢湖町教育委員会による確認調査では事業計画区域内に遺跡が確認された。その結果、原則として遺跡保護の観点から盛土対応とすることを決めたと、事業区域内で水路工事の行われる箇所である東西南北方向排水路、そして、横断道路部分とその削平および切土を免れない箇所については、記録保存の措置をとることで合意し、平成14年5月14日から同年8月2日まで本調査を実施した。

## 第2節 調査要項

遺 跡 名	高野遺跡（遺跡番号 7TN）
遺 跡 所 在 地	秋田県仙北郡田沢湖町神代字高野296外
調 査 期 間	平成14年5月14日～8月2日
調 査 面 積	3,300㎡
調 査 主 体 者	秋田県教育委員会
調 査 担 当 者	秋田県埋蔵文化財センター 赤上 秀人（秋田県埋蔵文化財センター南調査課 学芸主事） 佐々木幸美（文化財主事 田沢湖町教育委員会より派遣） 田村 瑞保（秋田県埋蔵文化財センター南調査課 非常勤職員）
総 務 担 当 者	佐藤 悟（秋田県埋蔵文化財センター総務課 課長） 高橋 修（秋田県埋蔵文化財センター総務課 主任） 成田 誠（秋田県埋蔵文化財センター総務課 主事） （担当者・職名は調査時のものである。）
調 査 協 力 機 関	秋田県仙北地域振興局仙北平野農村整備事務所 田沢湖町教育委員会

## 第2章 遺跡の立地と環境

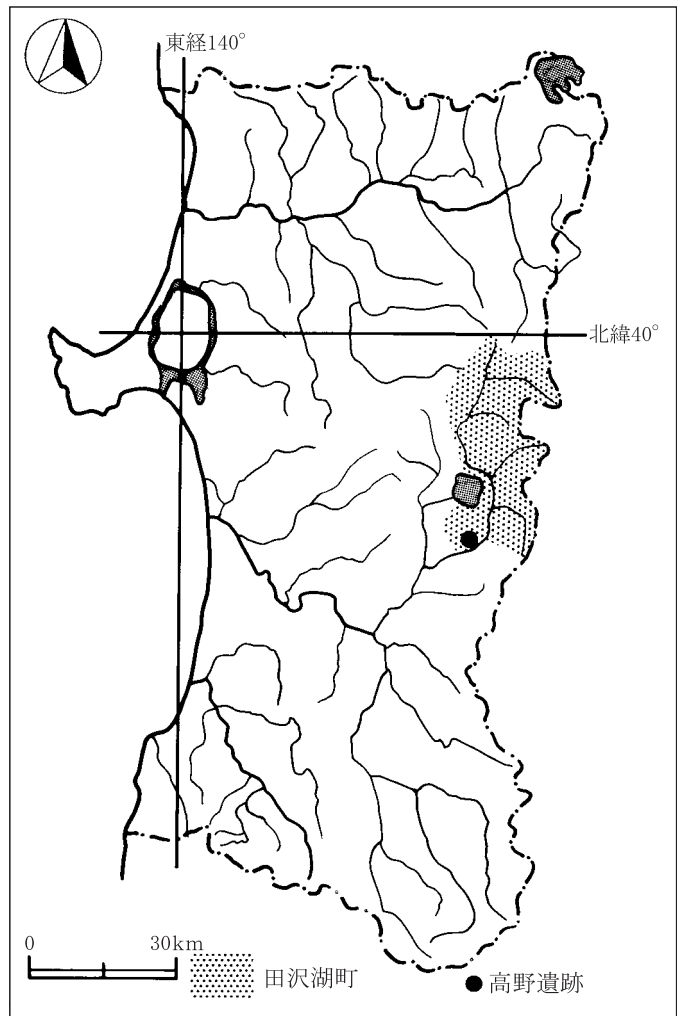
### 第1節 遺跡の位置と立地

田沢湖町は秋田県の東部ほぼ中央にあり、東側を奥羽脊梁山脈の分水嶺で岩手県、北側を鹿角市・北秋田郡に、西側は西木村、南側は角館町に接しており、その面積は672.06km<sup>2</sup>で、県内では鹿角市に次いで2番目に広く、南北に約44km、東西は約27kmの広がりがある。

高野遺跡は、田沢湖町神代字高野296外に所在し、JR田沢湖線生田駅の南西約1.5km、北緯約39°36′、東経約140°35′の位置にある。

田沢湖町の地形は玉川沿いの田沢・生保内低地と神代低地、それ以外の山地とに大きく分けることができる。山地はさらに第四期の火山地域と新第三期以前に形成された古い地層の地域に分けられる。また、奥羽山脈、大深岳（標高1,541m）を源とする玉川は、田沢湖町を南北に縦断し、抱返り溪谷を過ぎると平野部に入り、角館付近で桧木内川を合流させ、大曲に至ると雄物川と合体する。玉川流域にはやや発達した河岸段丘が、小先達から中生保内に、そして向生保内から堂田にかけて見られる。遺跡地はこの玉川が形成した河岸段丘のうち比較的高位の段丘面に位置し、標高は約70mである。

遺跡付近は現在、水田に利用されている。



第1図 遺跡位置図

### 第2節 歴史的環境

田沢湖町は、南北で気温・雨量・積雪に著しい差を生じ、地域性を特徴づけている。北部は那須火山帯の山々が連なり豊富な木材を産出しており、秋田駒ヶ岳など八幡平山系の山麓には、玉川・乳頭・田沢湖高原など豊かな温泉が湧き、水深日本一の田沢湖とともに、十和田八幡平国立公園や田沢湖抱返り県立自然公園に指定されている。南部は、抱き返り溪谷、桧木内川を控えた肥よくな穀倉地帯である。

自然豊かな環境に恵まれたところであり、縄文時代前期から中世までの遺跡も39箇所確認されて



●高野遺跡

- |  |   |
|--|---|
| <p><b>I 山地</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>I a 朝日岳山地</li> <li>I b 和賀岳・薬師岳山地</li> <li>I c 風鞍山地</li> <li>I d 大影山・小影山山地</li> <li>I e 白岩岳山地</li> <li>I f 小滝山・扇形山山地</li> <li>I g 大台山地</li> <li>I h 田沢湖山地</li> <li>I i 榎森山地</li> <li>I j 観音岳・赤平山地</li> <li>I k 諏訪山山地</li> <li>I l 長野山山地</li> <li>I m 明光沢岳山地</li> <li>I n 角館孤立山塊群</li> </ul> | <p><b>II 台地</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>II a 外谷地<small>(西中高野)</small> 洪積扇状地</li> </ul> |
| <p><b>III 低地</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>III a 齐藤川(白岩)扇状地</li> <li>III b 小滝川(五百刈田)扇状地</li> <li>III c 齐内川扇状地</li> <li>III d 川口川扇状地</li> <li>III e 东部扇状地前延扇状構造低地</li> <li>III f 神代低地</li> <li>III g 玉川下流冲積低地</li> <li>III h 山谷川河谷低地</li> <li>III i 入見内川河谷低地</li> </ul>  |   |

第2図 地形区分図

いる。これらのうち縄文時代中期の遺跡は、そのほとんどが玉川流域の川岸に分布している。しかし、後期・晩期になると生活圏は湿地帯、あるいは清水の湧き出る出裾などに移動しており、後期・晩期の遺物の出土はこれらの地域に集中している。

第2図の周辺遺跡位置図は、田沢湖町神代地区最南部に位置する南北12km、東西8kmの地域である。ここでは、本地域の縄文時代に関連する遺跡を中心に歴史的環境を概観する。なお、遺跡名称は『秋田県遺跡地図（県南版）』掲載の遺跡名称とし、文中の（ ）内の数字は『秋田県遺跡地図（県南版）』での遺跡登録番号である。

高野遺跡周辺の縄文時代の遺跡は、第2図の範囲で卒田(50-46)、都野(50-47)、黒倉B(50-61)、黒倉II(50-62)、黒倉III(50-63)、黒倉IV(50-64)、東田(50-65)、西田(50-68)、岡崎(50-69)、羽根ヶ台II(50-73)、中村谷地(50-74)の11ヵ所が確認されている。

このうち、高野遺跡の東4kmにある黒倉B遺跡では、縄文前期～晩期にかけての遺物が出土し、その主体をなすのは中期初頭の大木式土器である。また、円筒土器も少量出土しており、この両者が折衷した特徴を持つ土器も含まれる。この地域が円筒土器文化圏、大木式土器文化圏の接点であり、本遺跡にも類似した特徴が見られた。調査では、大型竪穴住居跡、石囲炉、捨て場等が検出されている。この他にも昭和23年には角館町の武藤鉄城氏による調査が行われており、環状に配置された組石群が検出され、後の『大湯町環状列石』報告書に紹介されている。

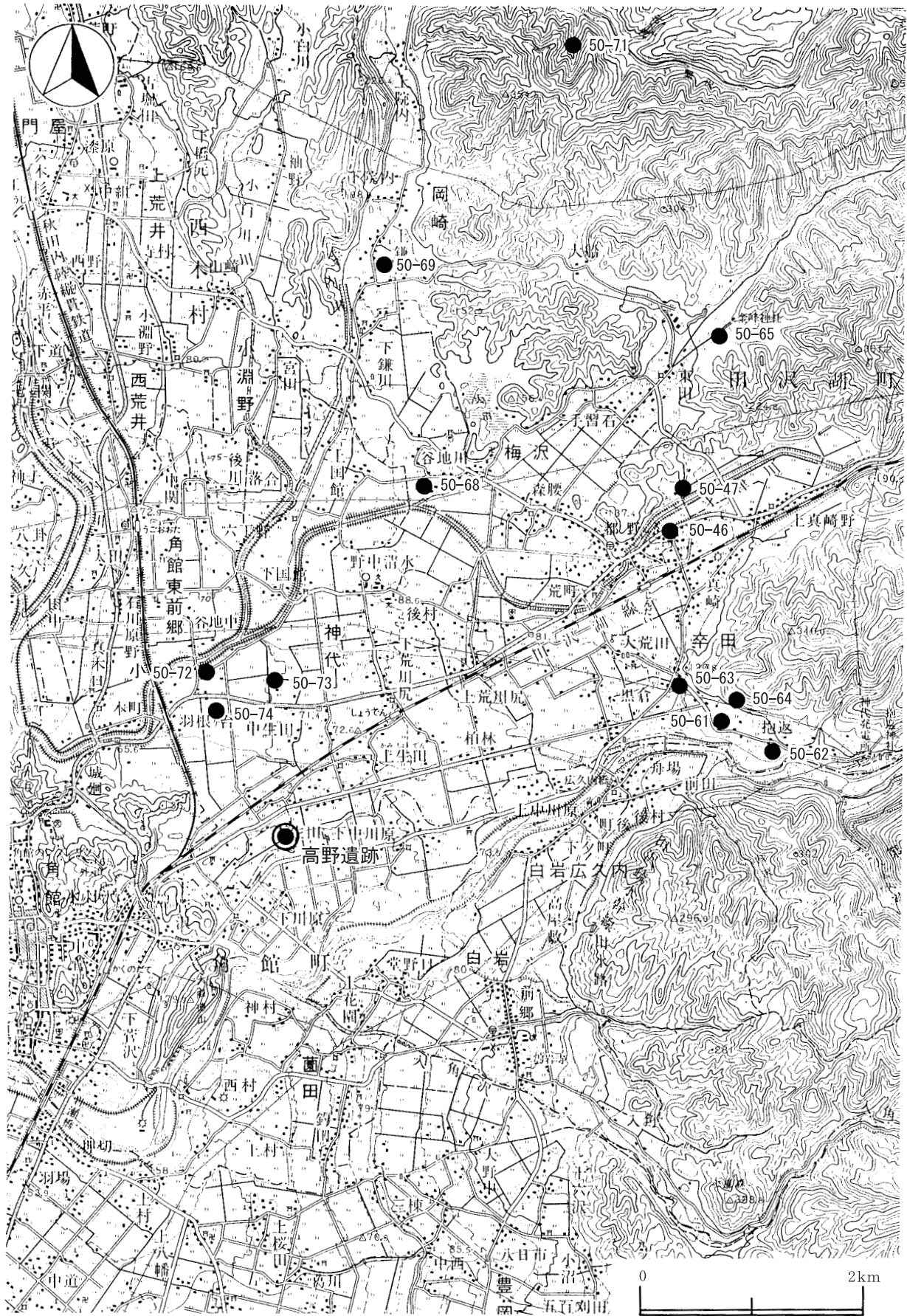
次に晩期の遺跡としては、才津川端から上清水の清水が湧き出るあたりまで広がる卒田遺跡、晩期から土師器、陶磁器まで出土した複合遺跡である都野遺跡がある。東田、岡崎、羽根ヶ崎、中村谷地倉遺跡でも晩期の土器片を中心に出土している。

参考文献

秋田県教育委員会 『秋田県遺跡地図(県南版)』 1987(昭和63)年  
 田沢湖町教育委員会 『黒倉B遺跡-第1次発掘調査報告-』 1985(昭和61)年  
 田沢湖町教育委員会 『黒倉B遺跡-第2次発掘調査報告-』 1986(昭和62)年  
 新田沢湖町史編纂委員会 『新田沢湖町史』 1998(平成10)年  
 文化財保護委員会 『大湯町環状列石』 1953(昭和29)年

第1表 高野遺跡周辺の遺跡一覧

地図記号	遺跡名	所在地	所在地	主な遺構・遺物
50-46	卒田	田沢湖町卒田字上清水38-5 外	縄文	縄文土器片、耳飾り
50-47	都野	田沢湖町梅沢字都野249-259 外	縄文	縄文土器片(晩期)
50-61	黒倉I	田沢湖町卒田字黒倉255-1 外	縄文	竪穴住居跡、石囲炉、竪穴住居跡柱穴ピット、土偶、縄文土器、土器片錘、石鏃、石匙、石斧、石皿、砥石
50-62	黒倉II	田沢湖町卒田字黒倉197 外	縄文	配石遺構、縄文土器片、石鏃
50-63	黒倉III	田沢湖町卒田字黒倉144 外	縄文	壺
50-64	黒倉IV	田沢湖町卒田字黒倉219 外	縄文	土器
50-65	東田	田沢湖町梅沢字東田235 外	縄文	土器
50-68	西田	田沢湖町梅沢字西田	縄文	縄文土器片
50-69	岡崎	田沢湖町岡崎字前村54 外	縄文	亀ヶ岡式注口土器、縄文土器片、石器
50-71	岩屋堂洞穴	田沢湖町岡崎字院内国有地	弥生	弥生土器片、石鏃、石匙
50-72	羽根ヶ台I	田沢湖町小松字羽根ヶ台129-3 外	古代	土師器片、須恵器片、古銭
50-73	羽根ヶ台II	田沢湖町小松字羽根ヶ台331-2 外	縄文	縄文土器片、石鏃、打製石斧
50-74	中村谷地	田沢湖町神代字生田中村383 外	縄文	縄文土器片



第3圖 周辺遺跡位置圖

## 第3章 発掘調査の概要

### 第1節 遺跡の概観

高野遺跡は、玉川右岸の河岸段丘上に立地し、縄文時代前期～晩期・平安時代の遺構群を検出した遺跡である。調査区は北西から南東にかけて細長い用排水路部分であるA区、南西から北東にかけての用排水路部分であるB区、北東部で一部B区と接する水田部分のC区の3箇所、合計3,300㎡である。

墓と考えられる土器埋設遺構、祭祀を行ったと思われる配石遺構、その遺構を取り囲むように多量の土器・石器を捨てた捨て場を内部に、そして、その外側を竪穴住居跡で構成されたと考え得る縄文時代中期の集落である。残念ながら部分的な調査に留まり、集落の一部分のみの検出となったが、出土した土器には、大木式土器、円筒土器、そして両方の特徴を有する土器など多種多量であり、この地域が両土器文化圏の交流域であることを雄弁に語っている。また、北陸系の要素を含む大木式土器も少数ながら出土しており、縄文時代における交流の範囲を土器を媒介にした形で考える上でも興味深い遺跡である。

平安時代の竪穴住居跡も1軒見つかっており、この時代にも集落としてこの地域が使用されている。

今回の高野遺跡発掘調査では、縄文時代中期の集落の祭祀場・墓域部分と、平安時代における小規模な集落の一部を調査したことになる。

遺跡から南側下には当時から人々の生活を支えてきたと考えられる道心坊清水と呼ばれる湧水が豊かな水量を称えている。遺跡地の現況は水田及び林である。

### 第2節 調査と整理の方法

発掘調査では調査区内に任意の点を1ヵ所選定し、この基準杭から磁北に合わせた南北基線とこれに直交する東西基線を設け、4×4mのグリッドを設定した。また、南北線には2桁の算用数字、東西線にはアルファベット2文字の線名を付し、各グリッドは南東隅の交点の算用数字とアルファベットを組み合わせて呼称した。

(遺構の記録) 検出された遺構は、図面と写真により記録を行った。図面に用いた縮尺は1/20を基本とし、遺物の微細図は1/10とした。まず、半截により遺構内部に堆積した覆土の土層を観察・記録し、平面実測図を作成するという手順をとった。遺構番号は、確認順に1から通し番号を付した。

(遺物の取り上げ) 遺物は、遺跡名・出土グリッドもしくは遺構名・遺物番号・出土年月日を記入した袋に入れ、取り上げた。遺構外の場合は層位毎にグリッド一括で取り上げ、遺構内の場合は遺構内一括もしくは遺物番号を付して分布図・微細図を作成し、取り上げた。

(写真の撮影) 記録のため撮影した写真は、35mm判モノクロフィルム・カラーリバーサルフィルムを用いた。

(室内の整理) 遺構は現場図面を検討して第2原図を作成し、トレースして挿図を作成した。遺物



は洗浄・註記の後に接合および実測図の作成、写真撮影を行った。

### 第3節 調査の経過

調査日誌にもとづいて、以下に調査経過を略述する。

- 5月14日 発掘調査開始。資材の整理と環境整備を行う。
- 5月16日 粗掘りを開始する。表土中から土器片が確認される。
- 5月下旬 A区の基本土層を記録。
- 5月23日 現場にて調査区付近の電柱撤去についての打ち合わせ。  
ミズホ測量によるグリッド杭打設終了。
- 5月30日 調査区A SR27精査開始、捨て場を検出。
- 6月5日 SR27精査終了。
- 6月11日 調査区A ブロックごとに遺物取り上げ後、地山まで精査。
- 6月14日 白岩小学校6年生24名セカンドスクールのため来跡、調査区A捨て場南端部実測。
- 6月18日 調査区B精査、遺物集中ブロックを何箇所か確認。土坑墓（SKS30）精査開始。
- 6月24日 調査区A実測終了。調査区B配石遺構（SQ87）・土坑墓（SK85）を確認。
- 6月26日 調査区A精査・レベリング終了。調査区B SX105検出（内部にSN31も検出→SI105へ）。
- 6月28日 SKS30・85精査終了。
- 7月2日 調査区B SI104、SR84検出。
- 7月5日 SQ87周辺部遺物取り上げ。平面図終了。
- 7月8日 調査区C精査開始。
- 7月18日 SI105完掘。写真撮影、平面図作成。
- 7月22日 SI105精査終了。SQ87図面作成。
- 7月26日 調査区C精査終了。
- 7月30日 SQ87精査終了。
- 8月1日 平面図および断面図のチェックを行い、並行して未洗浄の土器を洗浄した。
- 8月2日 発掘現場の発掘機材を整理し、高野遺跡発掘調査の全工程を完了した。
- 8月4日 秋田県仙北平野農村整備事務所の立会いのもとに引渡しを完了した。

## 第4章 調査の記録

### 第1節 基本層序

調査区は河岸段丘上にあり、東西南北に細長い配置をとるが、後世の耕地整理の影響を受け、平坦な地形になっていた。土層は水平で単純な堆積状態を示す。遺跡の基本層位は次の通りである。

なお、基本層位の設定箇所については、第5図に●で明示しているので参照されたい。

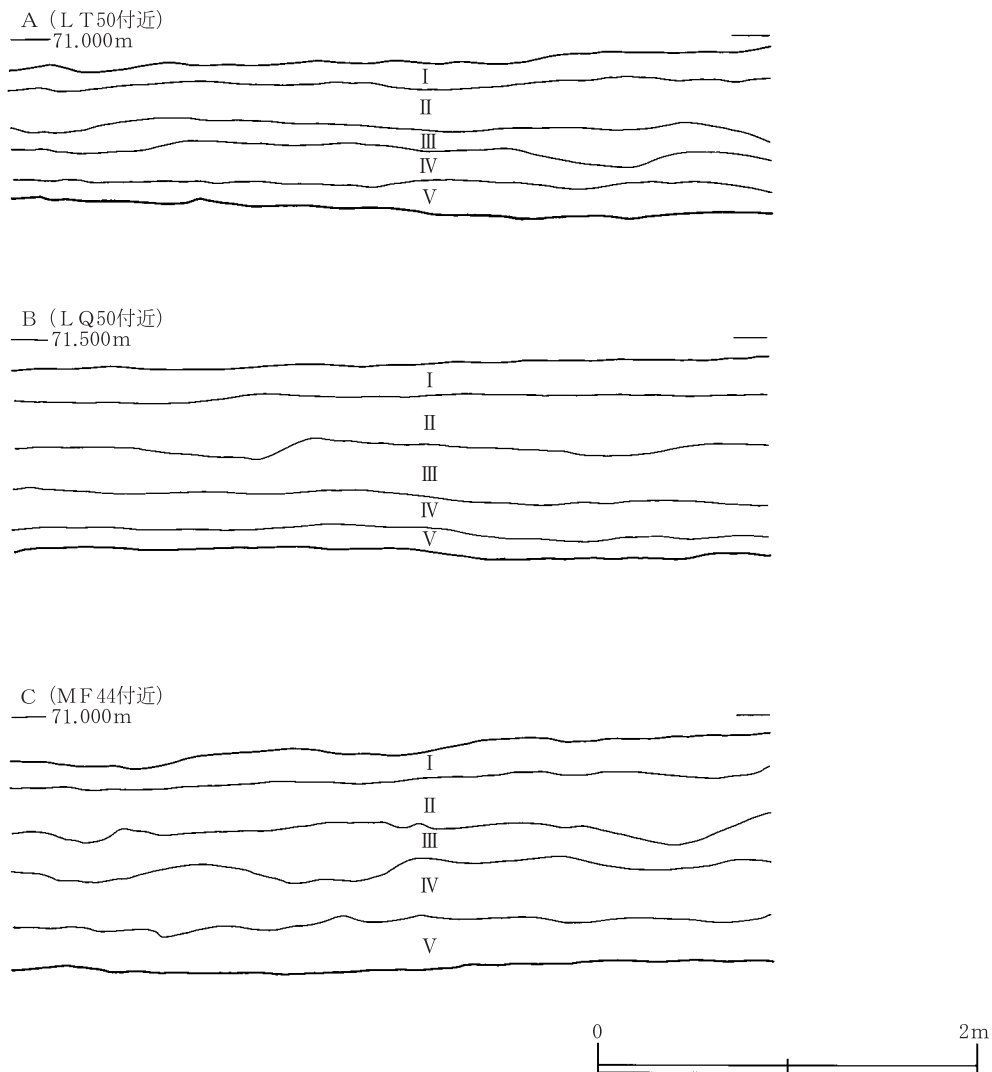
I層 暗褐色土 (10Y R 3 / 3) 現表土。植物根を含む。

II層 黒褐色土 (10Y R 2 / 2) 遺物包含層で土器埋設遺構上位部および、配石遺構はこの面で確認している。

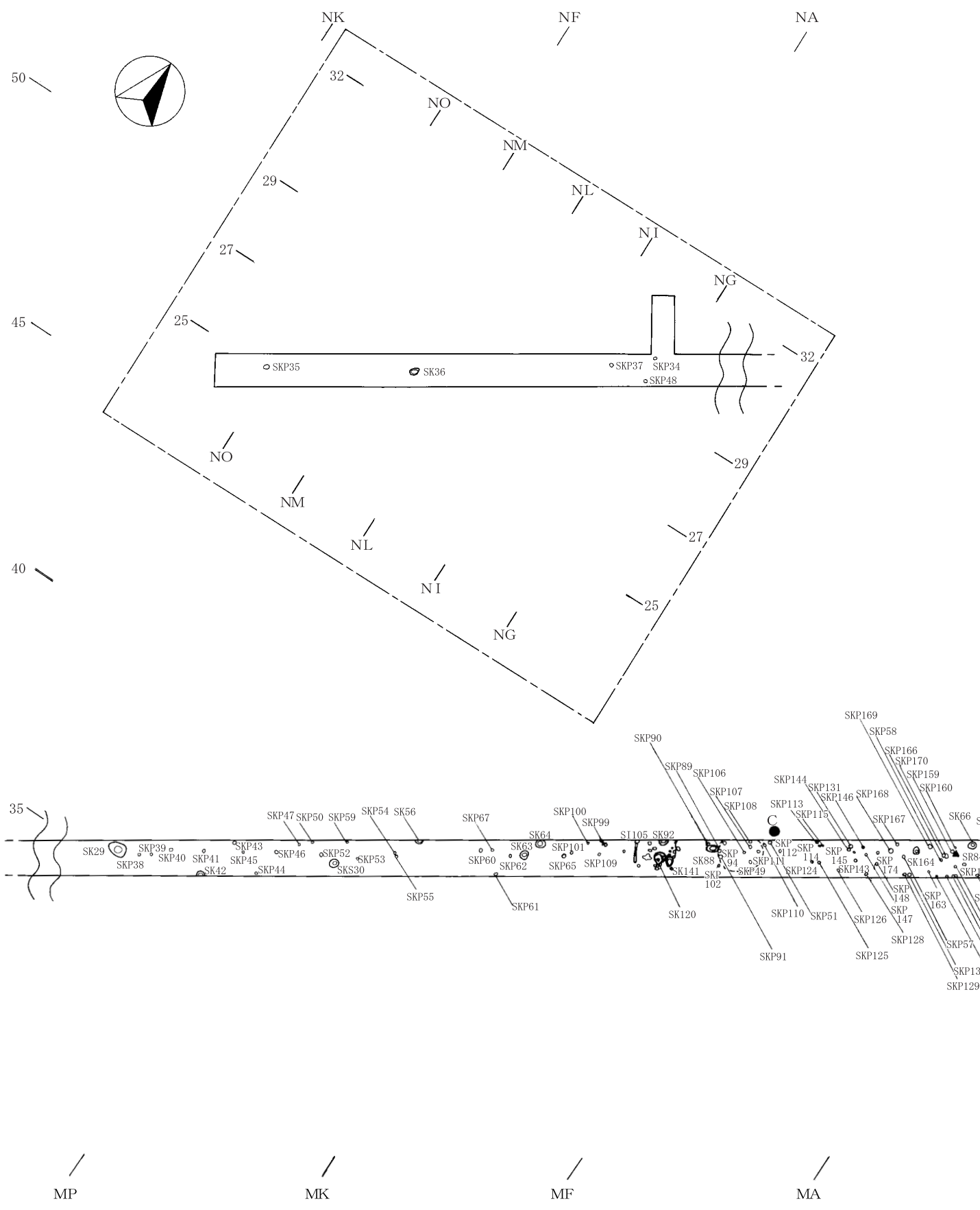
III層 黒褐色土 (10Y R 3 / 2) 遺物包含層。

IV層 にぶい黄褐色土 (10Y R 5 / 4) III層とV層の漸移層で、粘性が強い。

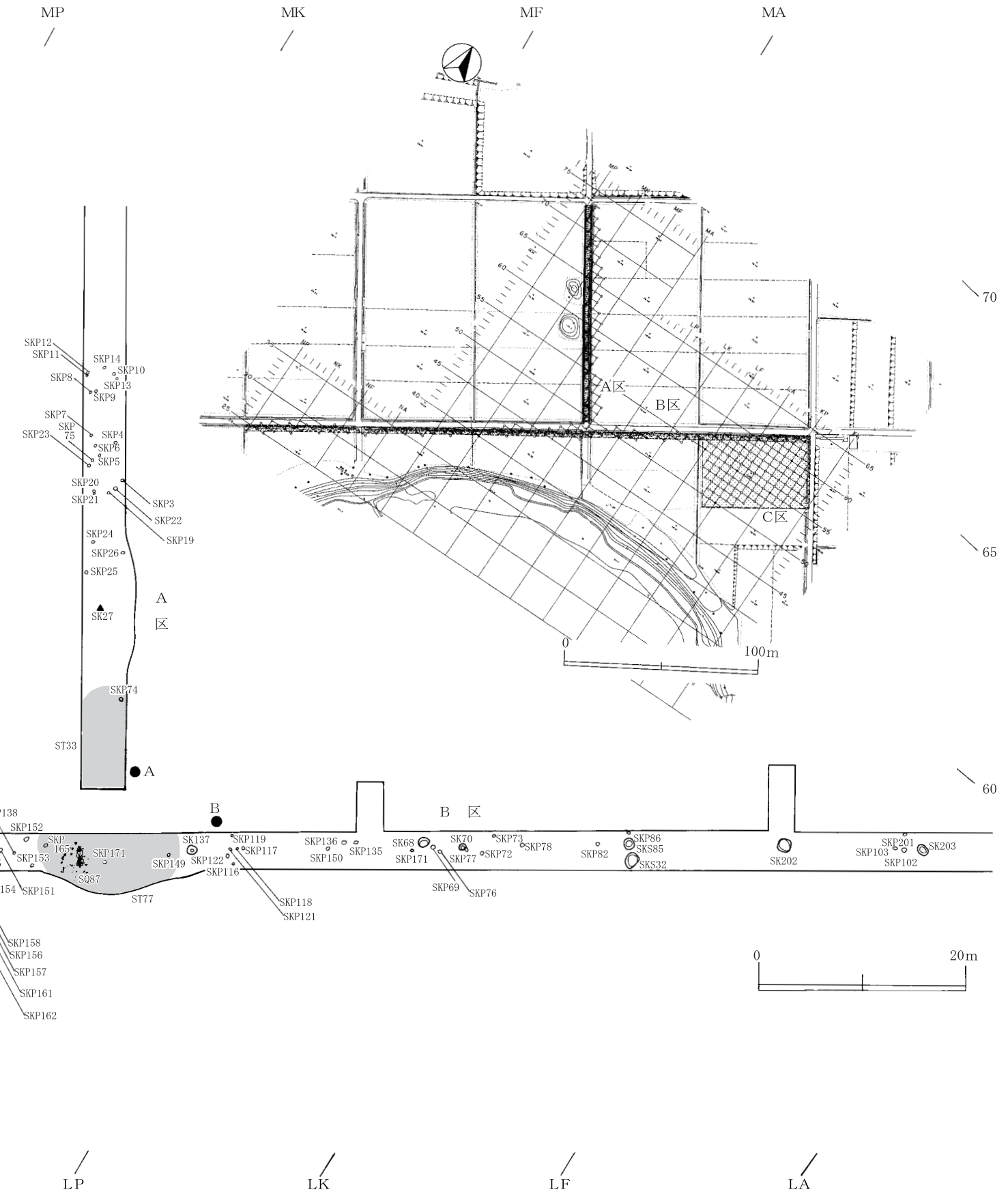
V層 明黄褐色土 (10Y R 6 / 7) 粘性が強い。地山である。



第4図 基本土層図



第5図 遺構配置図



及びグリッド配置図

## 第2節 検出遺構と遺物

発掘調査の結果、高野遺跡で検出した遺構は、縄文時代に属する竪穴住居跡1軒、土坑14基、土坑墓3基、土器埋設遺構2基、配石遺構1基、捨て場2箇所、平安時代に属する竪穴住居跡1基、土坑3基、時期不明な柱穴様ピット119基の総数146遺構である。

遺構内外から出土した遺物は、縄文時代中期初頭～後葉の特徴をもつ土器片・土製品（土偶・円盤状土製品等）、同時期のものと思われる石器、古代の土師器などである。これらの遺物は調査区中央部の捨て場から集中して出土した。

本節では、縄文時代の竪穴住居跡、土坑、土坑墓、土器埋設遺構、捨て場、配石遺構、平安時代の竪穴住居跡、土坑の順に記述し、竪穴住居跡に伴う柱穴、柱穴様ピットの規模等については第3表にまとめた。遺物については、文章の他、第4表～16表の観察表にまとめた。

### 1 縄文時代

#### (1) 遺構と遺構内出土遺物

##### ① 竪穴住居跡

###### S I 104 竪穴住居跡 (第6図、図版3・4)

MF43、MG43グリッドにある。Ⅲ層中で土器埋設炉を検出し、その周辺に柱穴が検出されたことから竪穴住居跡と判断した。覆土は、表土除去の際に取り除いてしまい調査できなかった。Ⅲ層上面から掘り込みがあったと思われるが、壁の立ち上がりも確認できなかった。土器は上部と底部を欠いた深鉢形土器であり、垂直に埋設され、その高さは確認できた部分だけで0.21mある。掘り込みは直径0.42mのほぼ円形であり、その深さは床面から0.16mである。炉を囲むように5基の柱穴を検出した。P1～4の4基はいずれも長径40～50cmほどの楕円形で60～80cmの深さがあるが、P5は長径約30cm、深さ約40cmとなっている。炉との位置関係からP1・P3・P4が主柱穴であった可能性がある。

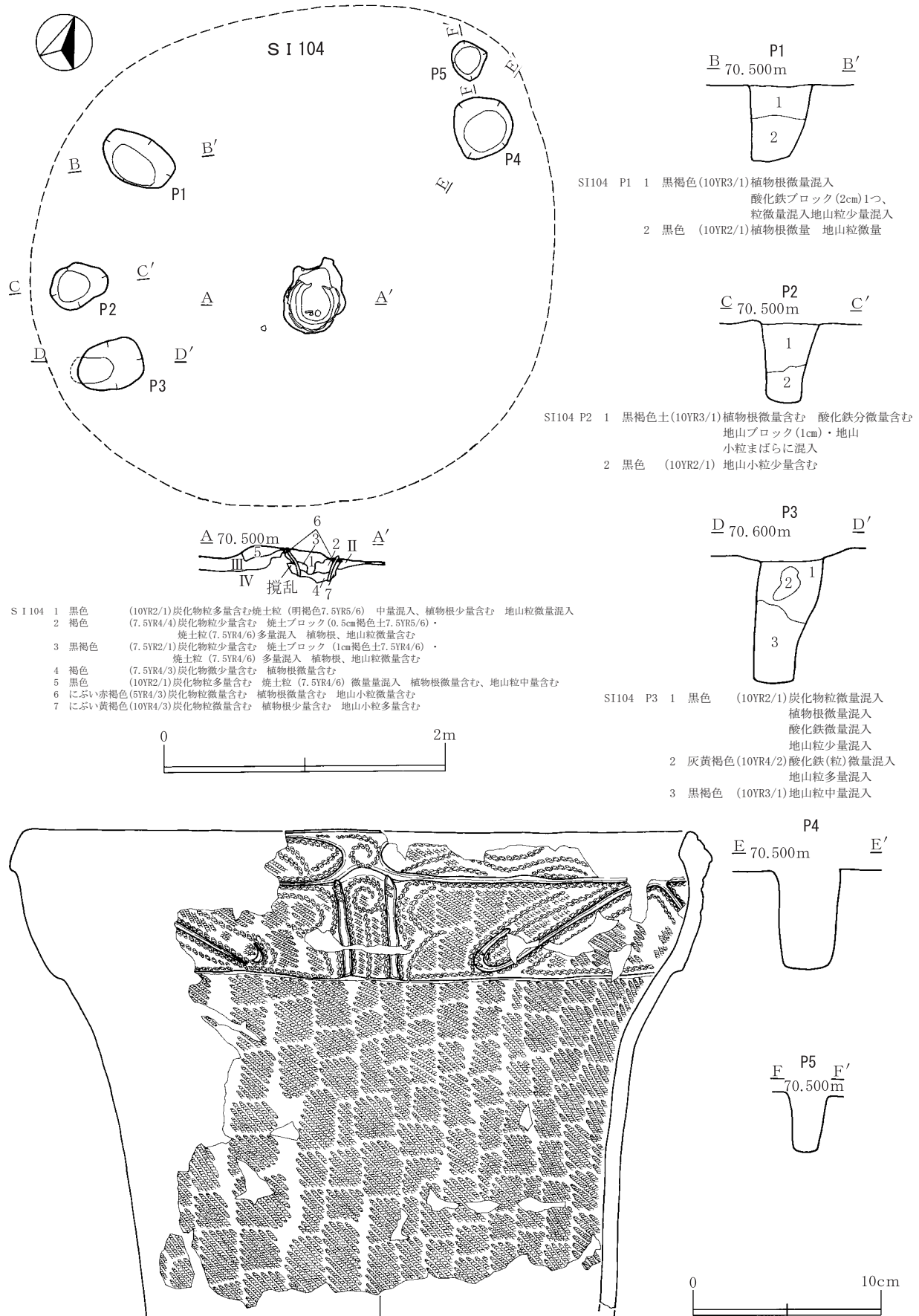
炉埋設土器は、キャリパー形の深鉢形土器と推測され、地文に縦位のLR縄文を施し、口縁部は粘土紐貼付による隆帯とそれに伴う側面圧痕文、押圧縄文により文様が描かれる。口唇部の隆帯による楕円形区画文、口唇部から垂下する2本の隆帯を挟んで、両側には鉤状の隆帯、押圧縄文、縦位LR縄文が施されている。また、胴部との区画に細い沈線を横位に描いている。

本住居跡に伴う遺物は炉埋設土器のみである。構築時期は、埋設土器から縄文時代中期中葉と思われる。

##### ② 土坑

###### S K 29 土坑 (第7図)

MS35グリッドにあり、Ⅳ層で確認した。平面形は最大径1.69m(西―東)、最小径1.32m(北―南)の不整な楕円形で、確認面からの深さは最深部で0.36mである。底面は西側に緩やかに傾斜し、壁は外傾しながら立ち上がる。覆土は4層で自然堆積と思われる。遺物は出土しなかった。時期は層位か



第6図 S I 104 竪穴住居跡、出土遺物

ら縄文時代と思われる。

#### S K36土坑(第7図)

N L26グリッドにあり、IV層で確認した。平面形は長軸0.66m(南西—北東)、短軸0.46m(北西—南東)の楕円形で、確認面からの深さは0.10mである。底面は平坦で、壁は浅いが急角度に立ち上がる。遺物は出土しなかった。時期は層位から縄文時代と思われる。

#### S K42土坑(第7図)

MQ36グリッドにあり、IV層で確認した。調査区境界に位置するため北側半分の調査である。平面形は長軸0.67m(南西—北東)、短軸残存値0.35m(北西—南東)の楕円形と思われ、確認面からの深さは0.15mである。底面はほぼ平坦で、壁は急角度に立ち上がる。覆土は1層で自然堆積と思われる。遺物は出土しなかった。時期は層位から縄文時代と思われる。

#### S K56土坑(第7図)

MM39グリッドにあり、IV層で確認した。平面形は長軸0.54m(南西—北東)、短軸残存値0.41m(北西—南東)の楕円形と思われ、確認面からの深さは0.20mである。底面は平坦で、壁は南西側がほぼ垂直に、北東側は急角度に立ち上がる。遺物は出土しなかった。時期は層位から縄文時代と思われる。

#### S K63土坑(第7図)

MK40グリッドにあり、IV層で確認した。平面形は長軸0.75m(南—北)、短軸0.74m(東—西)の円形で、確認面からの深さは0.39mである。底面はほぼ平坦で、壁は急角度に立ち上がる。遺物は出土しなかった。時期は層位から縄文時代と思われる。

#### S K64土坑(第7図)

M J41グリッドにあり、IV層で確認した。平面形は長軸0.86m(東—西)、短軸0.76m(南—北)の不整な楕円形で、確認面からの深さは0.34mである。底面はほぼ平坦であるが、西側はやや傾斜する。壁は急角度に立ち上がる。遺物は出土しなかった。時期は層位から縄文時代と思われる。

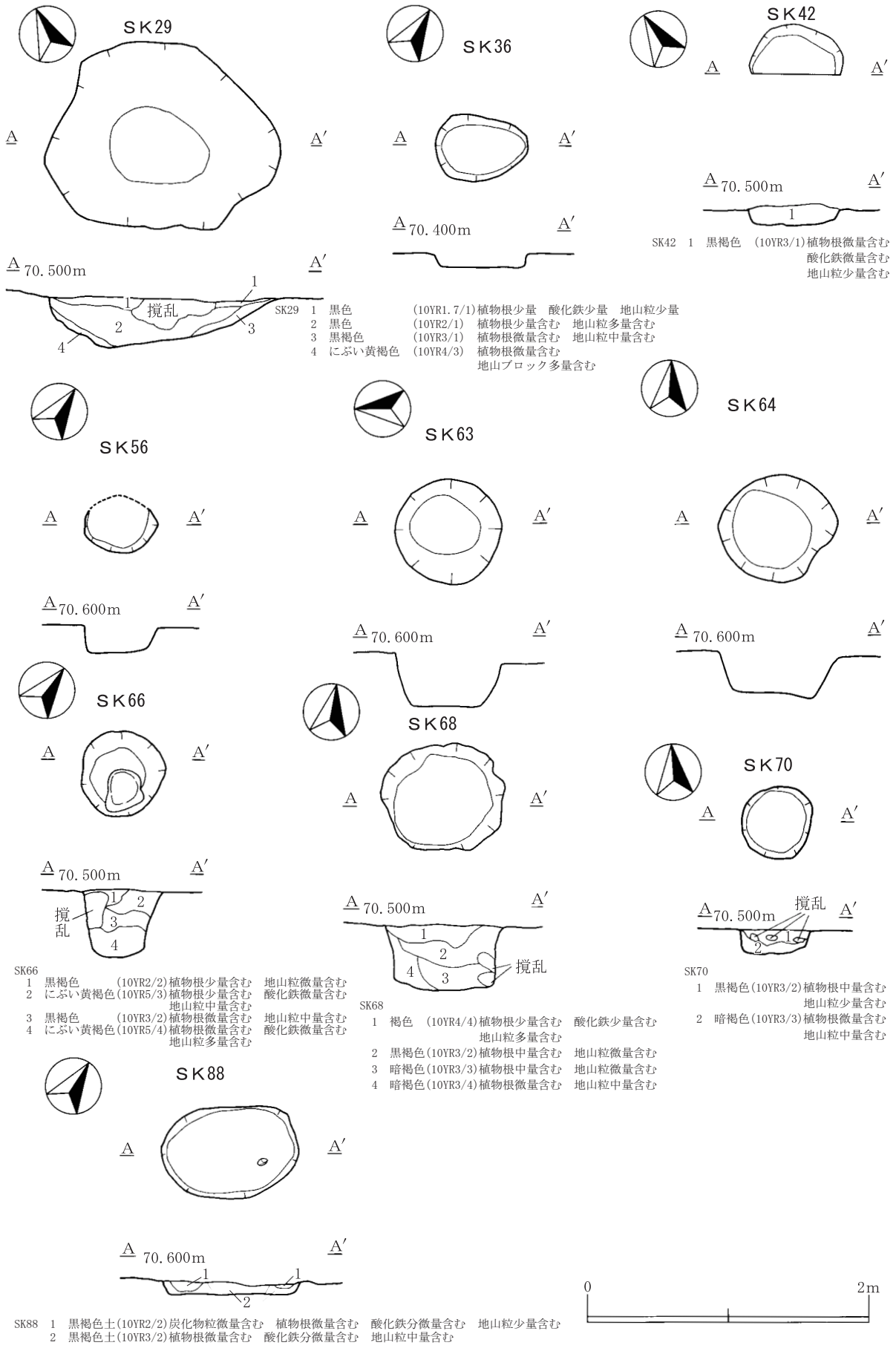
#### S K66土坑(第7図)

MB46グリッドにあり、IV層で確認した。平面形は長軸0.62m(南西—北東)、短軸0.62m(北西—南東)の円形で、確認面からの深さは0.49mである。底面は僅かに凹凸があり丸みを帯びる。壁は急角度に立ち上がるが、北西側はやや外傾する。土坑内には人頭大の石が含まれていた。覆土は4層で石の出土状況から人為的堆積と思われる。遺物は出土しなかった。平面形から柱穴様ピットの可能性がある。時期は層位から縄文時代と思われる。

#### S K68土坑(第7図)

L M52グリッドにあり、IV層で確認した。平面形は長軸0.90m(東—西)、短軸0.82m(南—北)の円

第4章 調査の記録



第7図 SK29・36・42・56・63・64・66・68・70・88土坑



形で、確認面からの深さは0.47mである。底面は僅かに凹凸があり丸みを帯びる。壁はやや外傾するがほぼ垂直に立ち上がる。覆土は4層で自然堆積と思われる。遺物は出土しなかった。時期は層位から縄文時代と思われる。

#### S K 70土坑(第7図)

L L 52グリッドにあり、IV層で確認した。平面形は長軸0.54m(東—西)、短軸0.52m(南—北)の円形で、確認面からの深さは0.18mである。底面はやや凹凸があり、壁は急角度に立ち上がる。覆土は2層で自然堆積と思われる。遺物は出土しなかった。時期は層位から縄文時代と思われる。

#### S K 88土坑(第7図)

MG 43グリッドにあり、IV層で確認した。平面形は長軸0.98m(南西—北東)、短軸0.65m(北西—南東)の楕円形で、確認面からの深さは0.10mである。底面は平坦で、壁は浅いが急角度に立ち上がる。覆土は2層で自然堆積と思われる。遺物は出土しなかった。時期は層位から縄文時代と思われる。

#### S K 137土坑(第8図)

L Q 49グリッドにあり、IV層で確認した。平面形は長軸0.93m(南西—北東)、短軸0.81m(北西—南東)の楕円形で、確認面からの深さは0.26mである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。断面形はすり鉢状である。覆土は3層で自然堆積と思われる。遺物は出土しなかった。時期は層位から縄文時代と思われる。

#### S K 164土坑(第8図)

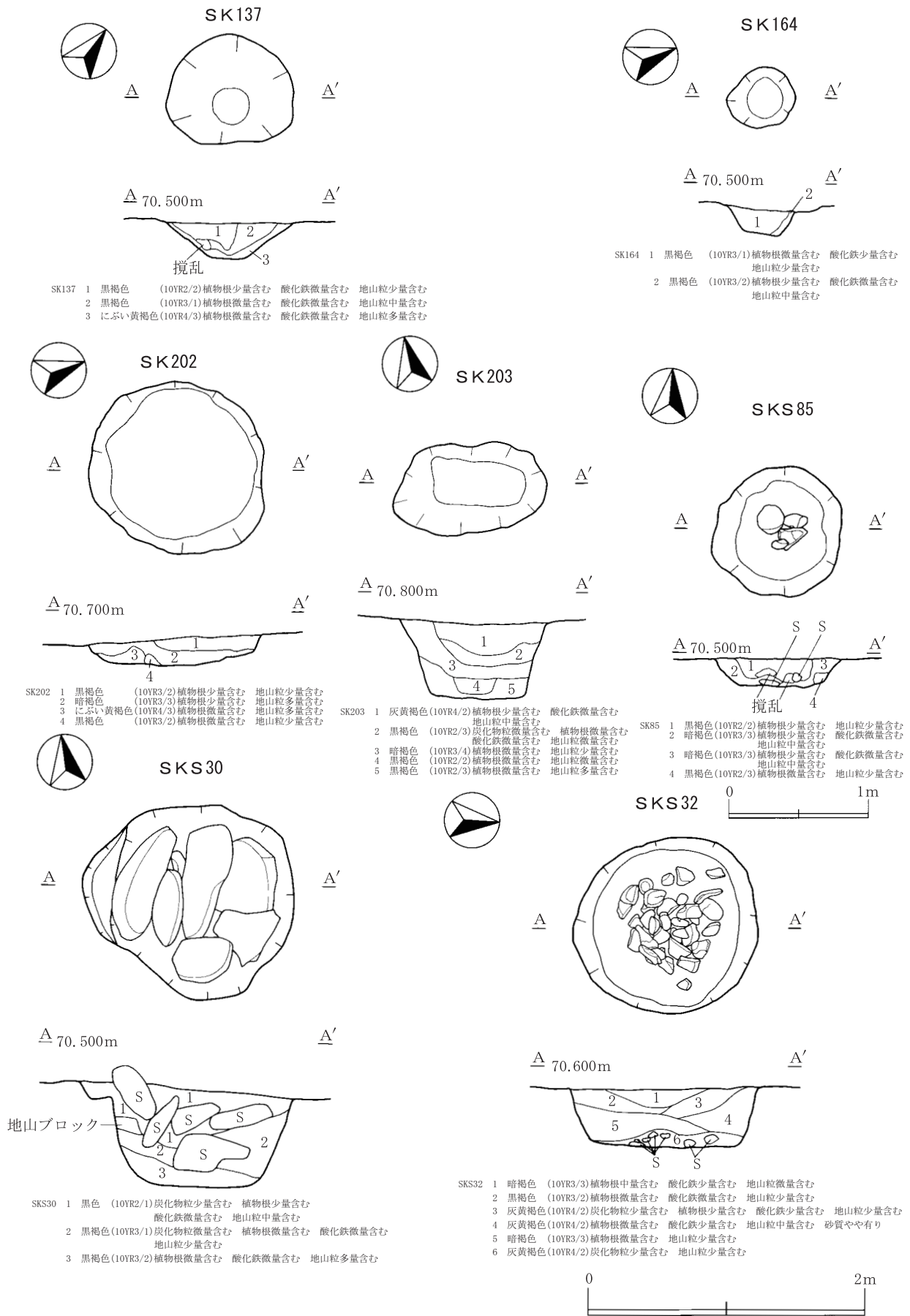
MC 46グリッドにあり、IV層で確認した。平面形は長軸0.50m(南西—北東)、短軸0.44m(北西—南東)の楕円形で、確認面からの深さは0.18mである。底面は北東側に傾斜し、壁は外傾しながら立ち上がる。覆土は2層で自然堆積と思われる。遺物は出土しなかった。時期は層位から縄文時代と思われる。

#### S K 202土坑(第8図)

L E 57グリッドにあり、IV層で確認した。平面形は長軸1.38m(南—北)、短軸1.23m(東—西)の円形で、確認面からの深さは0.21mである。底面は丸みを帯びながら、僅かに凹凸がある。壁はやや急角度に立ち上がる。覆土は4層で自然堆積と思われる。遺物は出土しなかった。時期は層位から縄文時代と思われる。

#### S K 203土坑(第8図)

L C 58グリッドにあり、IV層で確認した。平面形は長軸1.12m(南西—北東)、短軸0.66m(北東—南西)の楕円形で、確認面からの深さは0.54mである。底面はほぼ平坦で、壁はやや外傾しながら急角度に立ち上がる。覆土は5層で自然堆積と思われる。遺物は出土しなかった。時期は層位から縄文時代と思われる。



第8図 SK137・164・202・203土坑、SKS30・32・85土坑墓

## ③土坑墓

**S K S 30土坑墓**(第8図、図版2)

MN38グリッドにあり、IV層で確認した。平面形は長軸0.77m(東—西)、短軸0.71m(南—北)の楕円形で、確認面からの深さは0.36mである。長軸約60～80cm程の礫6個が覆土中に重なるように出土した。土坑の大きさに合わせて、礫を押し込んだようにも見える。底面は丸みを帯びており、壁は急角度に立ち上がるが、南西側は段差がある。覆土は3層で人為的堆積と思われる。遺物は出土しなかった。形態から土坑墓と推定される。時期は層位から縄文時代と思われる。

**S K S 32土坑墓**(第8図、図版2)

LH55グリッドにあり、IV層で確認した。平面形は長軸1.34m(南—北)、短軸1.28m(東—西)の円形で、確認面からの深さは0.42mである。底面付近に長軸約15cmの礫がまとまって出土した。敷かれたような状態から、意図的に埋められたものと思われる。底面は平坦で、壁は急角度に立ち上がる。覆土は6層で上位層は自然堆積、下位層は人為的堆積と思われる。遺物は出土しなかった。形態から土坑墓と推定される。時期は層位から縄文時代と思われる。

**S K S 85土坑墓**(第8図)

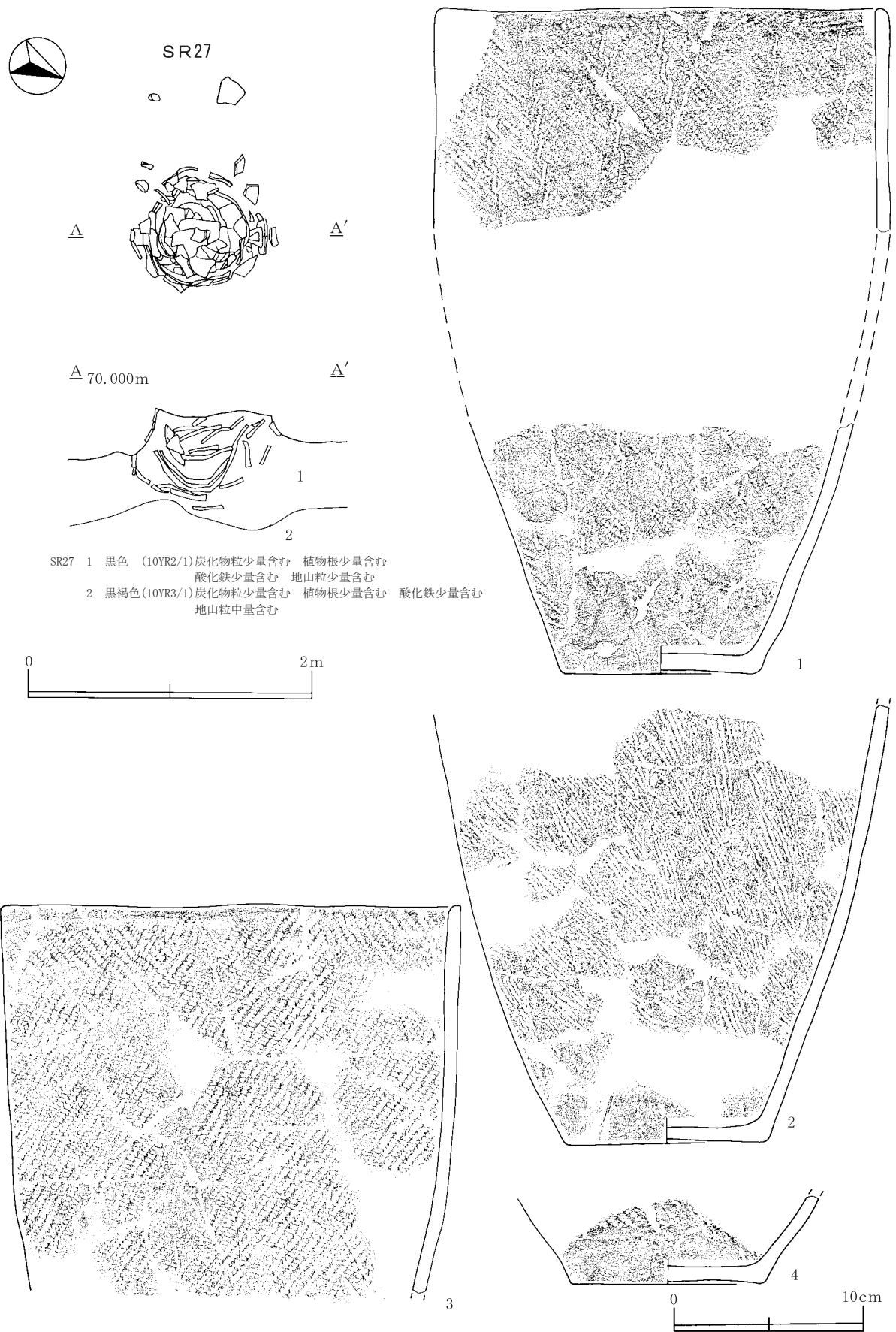
LI55グリッドにあり、IV層で確認した。平面形は長軸1.00m(東—西)、短軸0.94m(北—南)の円形で、確認面からの深さは0.21mである。底面は凹凸がありやや丸みを帯び、底面付近では長径約15～20cmの礫数個が土坑中心部にまとまって出土した。壁は急角度に立ち上がる。覆土は4層で自然堆積と思われる。遺物は出土しなかった。S K S 32土坑墓と隣接し、形態も似かよることから、本土坑は土坑墓と推定される。時期は層位から縄文時代と思われる。

## ④土器埋設遺構

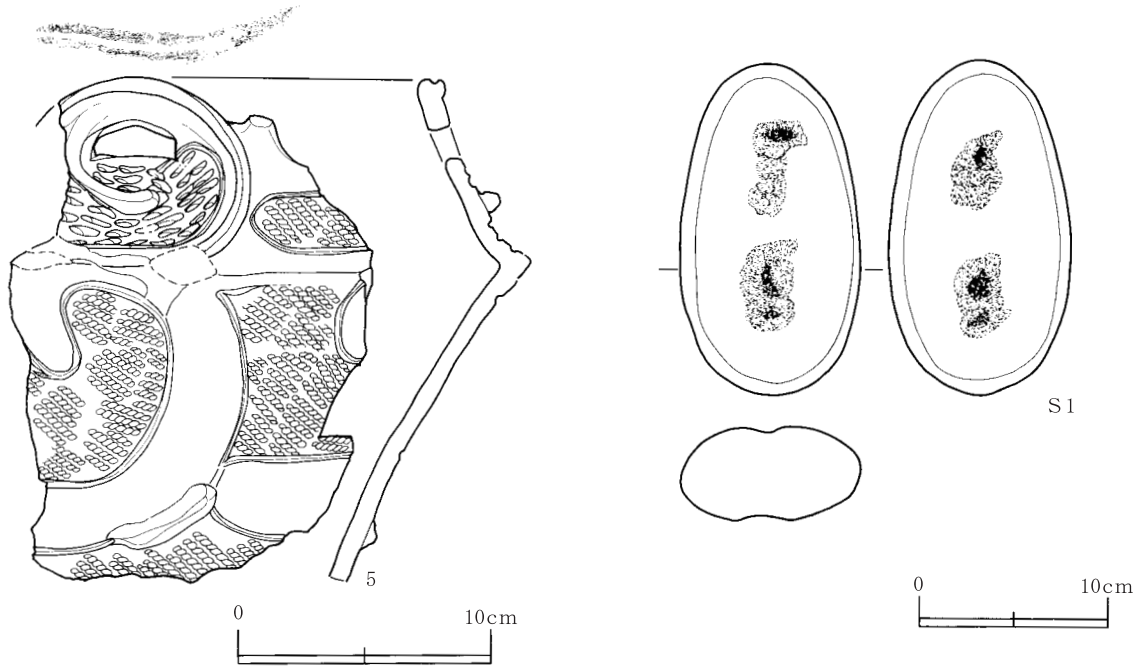
**S R 27土器埋設遺構**(第9、10図、図版2)

MB53グリッドにあり、II層中で深鉢形土器の口縁部が欠損した上位を確認した。掘り込みは直径0.8mのほぼ円形である。確認面からの深さは0.30m程であるが、本来はもっと上面から掘り込まれていた可能性がある。埋設土器は二重に重なっている。最も外側にある土器は、破片が散乱し、原形をほとんどとどめていないが、内側の土器は比較的遺存状態が良好で、胴部から底部まで完存していた。このことから、遺構は外側の土器を壊して内側の土器を埋め込んだものであると思われる。内側の土器は口縁部を欠きながら正位で埋設されており、外側の土器は破壊されていて、どのように埋設されていたか判断できなかった。

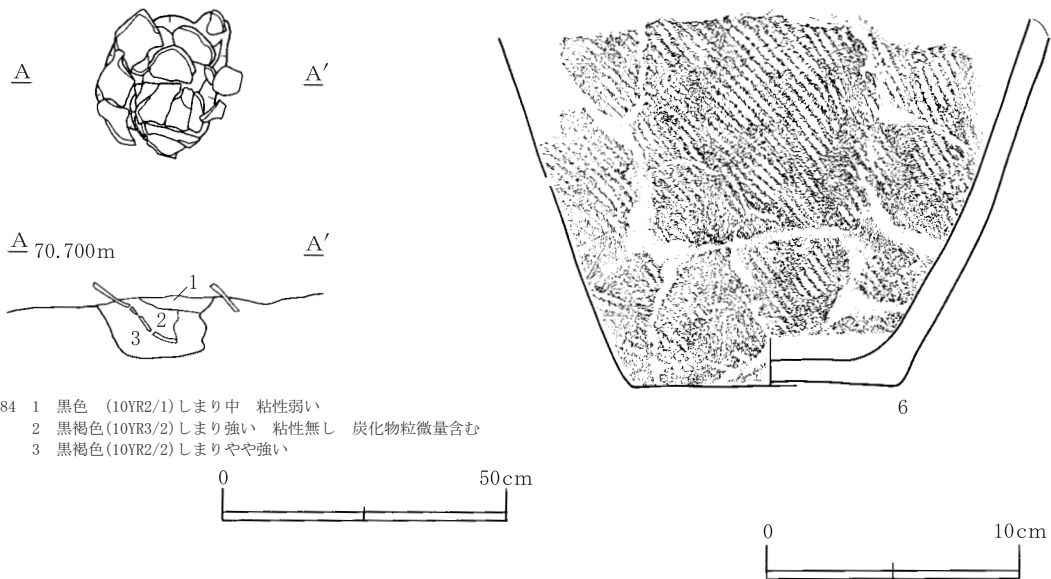
5は広口壺型の土器で口縁から胴部にかけての破片である。地文に縦位のLR磨消縄文を施し、口縁から胴部上位に隆帯による渦巻状のモチーフが見られ、その内部に沈線で区画した細長い刺突文が施されている。胴部には沈線による横位のC字状文が単位を構成し、横への展開を見せる。無文帯部分は丁寧に磨かれていた。埋設土器は大木10式前後に属すると推定する。遺物は凹石(S1)が1点出土している。素材は安山岩、平面形は楕円形で凹みが両面に2箇所ある。時期は埋設土器から縄文時代中期後葉～末葉と思われる。



第9図 SR27土器埋設遺構



SR84



- SR84 1 黒色 (10VR2/1)しまり中 粘性弱い  
 2 黒褐色(10VR3/2)しまり強い 粘性無し 炭化物粒微量含む  
 3 黒褐色(10VR2/2)しまりやや強い

第2表 SR27・84埋設土器観察表

挿図番号	遺構名	出土地点	層位	器種	部位	外面	内面	分類	備考
9-1	SR27	MB53	II	深鉢	口縁、底部	口縁：側面圧痕文、胴：綾絡文(縦位)、LR縄文(縦位)	ナデ	-	
9-2	SR27	MB53	II	深鉢	胴～底部	胴：捺糸文	ナデ	-	
9-3	SR27	MB53	II	深鉢	口縁～胴部	羽状縄文、LR縄文(横位)	ナデ	-	
9-4	SR27	MB53	II	深鉢	底部	RL縄文(横位)	ナデ	-	
10-5	SR27	MB53	II	深鉢	口縁～胴部	本文中	ナデ	-	
10-6	SR84	MB46	II	深鉢	底部	RL縄文(横位)	ナデ	-	

第10図 SR27・84 土器埋設遺構

**S R84土器埋設遺構(第10図)**

MB46グリッドにあり、Ⅱ層上面で深鉢形土器の胴部及び口縁部が欠損した上部を確認した。掘り込みは長径0.44m、短径0.42mのピット状で、確認面からの深さは0.21mである。土器内埋土は主に黒褐色土で炭化物を微量に含み、硬くしまっている。埋設土器は横位しているが、土圧により歪んでいる。6は地文に縦位のR L縄文を施したもので、大木9式前後に属すると思われる。

⑤捨て場

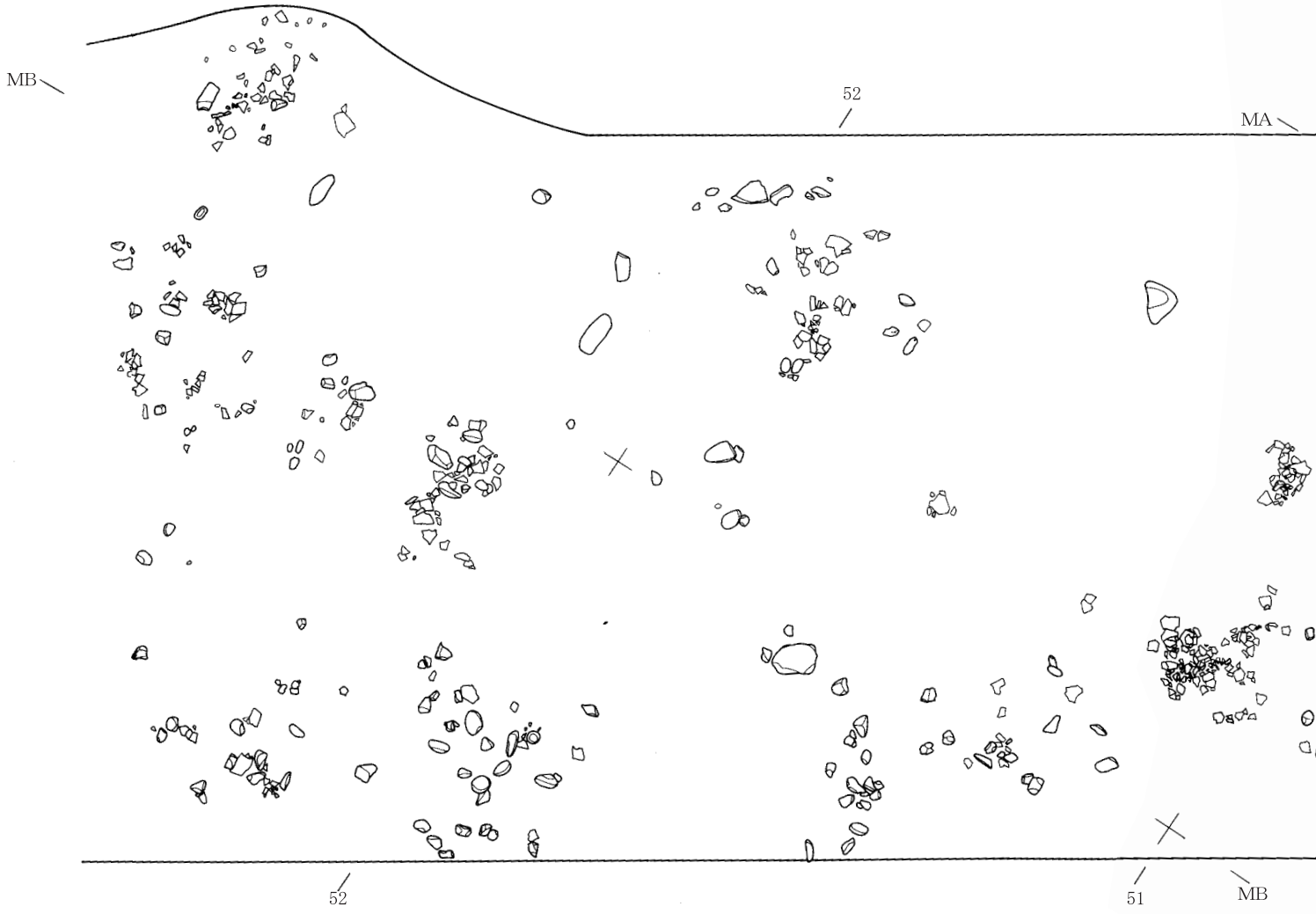
**S T33・77捨て場(第11、12図、図版1・3)**

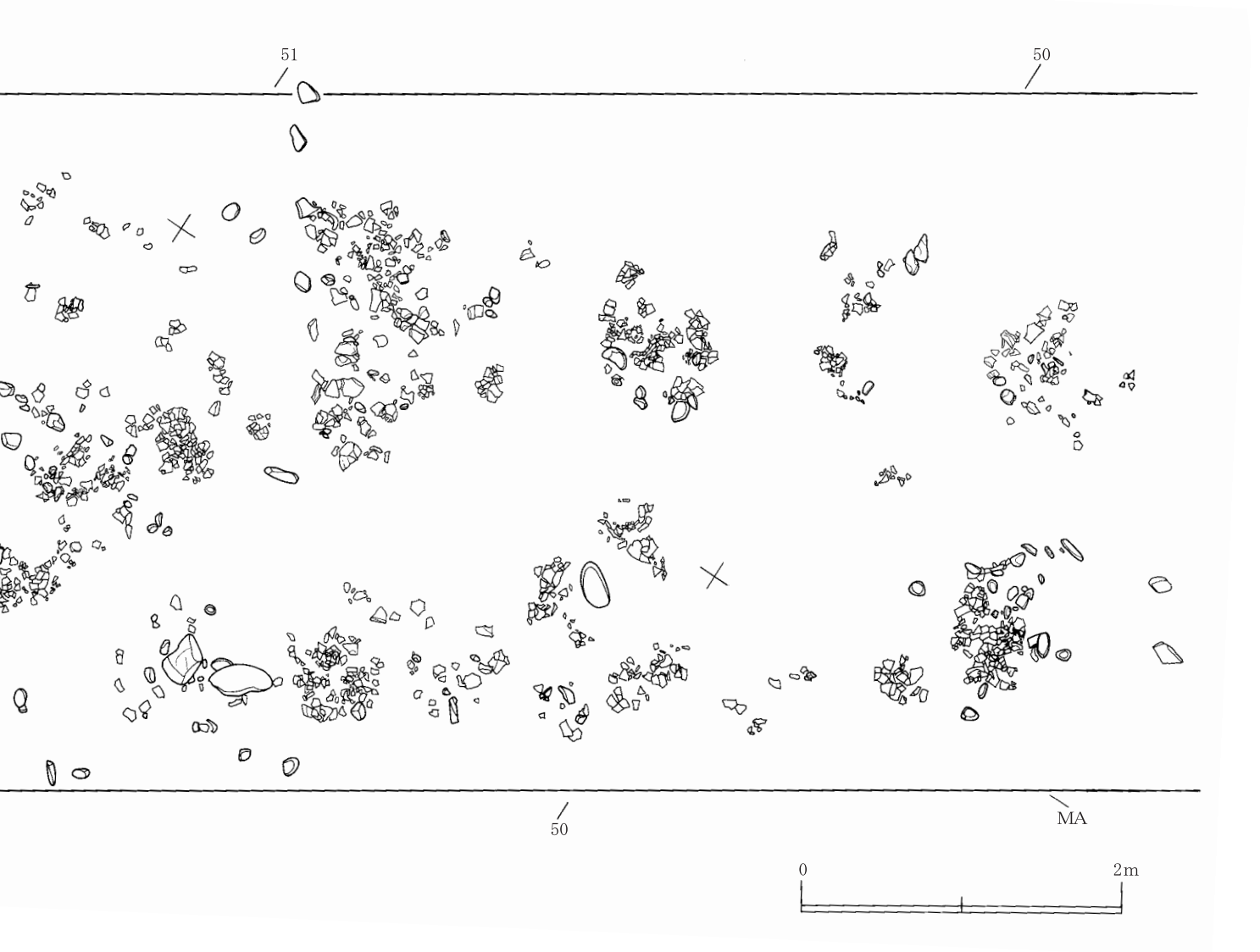
A区北東部、B区中央部にある。長軸推定13.3m、短軸推定7.6m、深さ0.65～1.0mの部分を調査したがB区の捨て場の位置、調査区外の遺物散布状況により、調査区外南側、B区北側に広がっていたと思われる。ここでは多量の土器・石器類が出土し、土器の出土状況はほぼ直立するものや、そのまま横倒したのが見られた。また、土偶・磨製石製品など、祭祀に関連する土製品・石製品類も6点出土した。捨て場の堆積土はⅠ～Ⅲ層に大別され、Ⅱ層～Ⅲ層が主たる遺物包含層である。Ⅰ層は表土であるが、縄文時代中期後葉～末葉の土器が含まれる。その出土量は全体出土量の1割程度と少ない。主たる包含層(Ⅱ層～Ⅲ層)は約40～60cmにわたり堆積し、縄文時代中期初頭～中葉の土器である、大木7a、7b、8a、8bに比定される土器を主に包含する。他にも円筒上層a、b、c式に比定される土器も少数見つかっている。同一包含層中でも出土する土器型式は幅広くわたっているが、これらの土器の共伴関係を包含層の中で明確に把握することはできなかった。縄文時代晩期に属する土器も微量ながら出土している。

⑥配石遺構

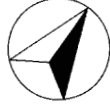
**S Q87配石遺構(第13図、図版3)**

L T47グリッドにあり、Ⅱ層で確認した。平面形は長軸2.0m(南東—北西)、短軸0.6m(北東—南西)の長方形で、縦40cm×横20cm×厚さ15cmほどの円柱形・扁平な礫と小礫を主体に人頭大の礫が混じる。礫の上面はほぼ水平であり、大きな礫ほど深く埋もれていて、積み重なった状態である。周辺にも礫の散らばりが多く、本配石遺構に伴った可能性がある。平面形状、配石の組まれ方は石棺墓にも似ているが、かなり歪な状態であり、後世による攪乱の影響が大きいものと考えられる。掘り方・下部施設は確認できなかった。配石を含む覆土は2層で、本配石遺構は多量の土器、石器、石製品などの遺物が出土している捨て場の中に構築されている。本配石遺構の周辺から青竜刀形石器、石冠状石製品、磨製石斧、土製品が出土しており、配石を構成する礫に石皿の破損品も見られた。S1は隅丸方形の石皿であったと思われ、使用面が皿状に凹んでいるが、縁取りはされていないものである。底面に凹凸が認められる。S2はやや先が尖る楕円形で、使用面が皿状に浅く凹んでいる。本配石遺構に伴う遺物はS T77に属する。構築時期は層位、S T77との関連から縄文時代中期後葉～末葉と思われる。









48

LT

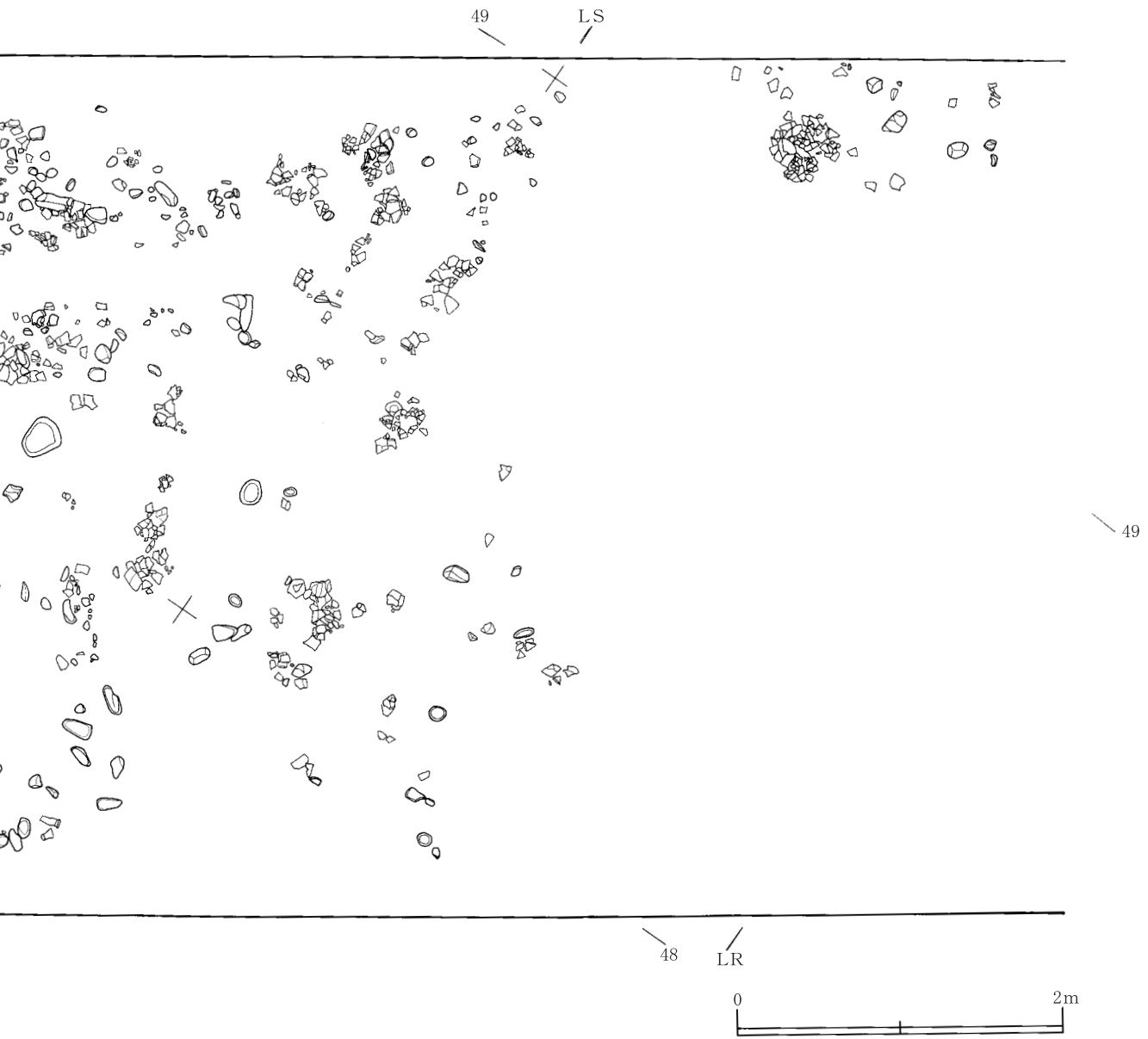
47



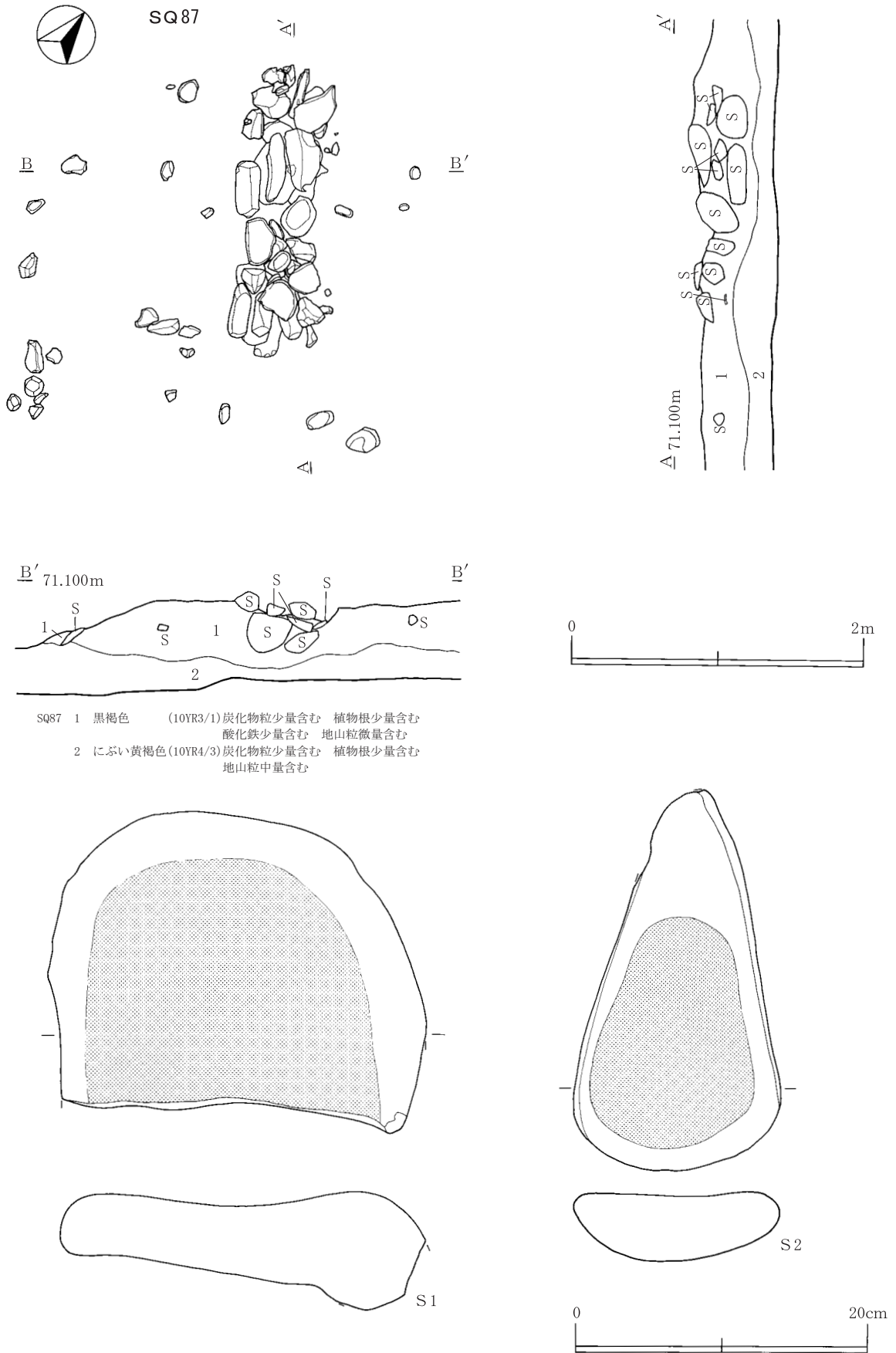
LT

47

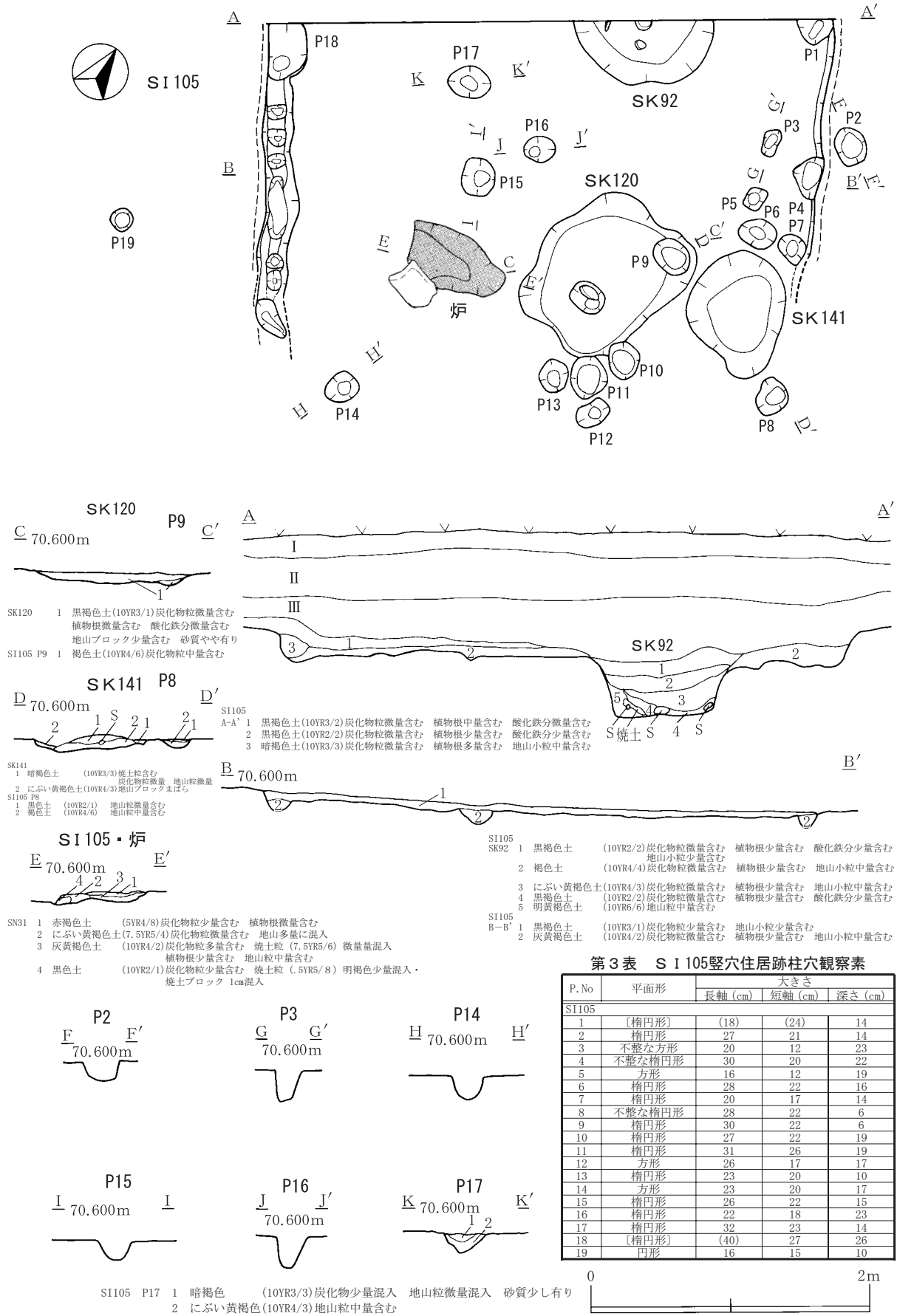
LS



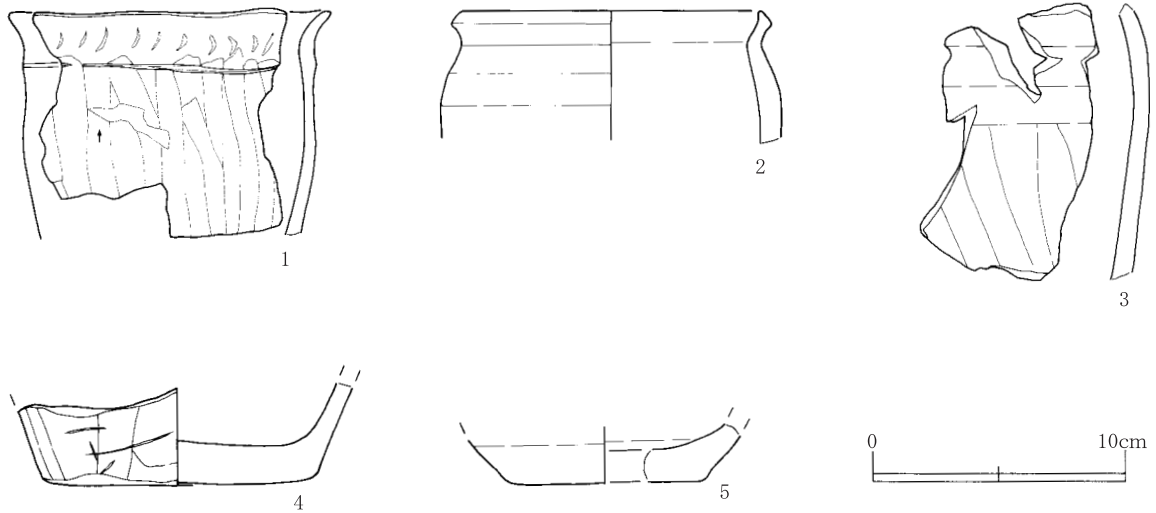
ST77 捨て場



第13図 SQ87配石遺構、出土遺物



第14図 SI105竪穴住居跡、SK92・120・141 土坑



第15図 S I 105 竪穴住居跡出土遺物

## 2 平安時代

### (1) 遺構と遺構内出土遺物

#### ① 竪穴住居跡

##### S I 105 竪穴住居跡 (第14、15図、図版3)

MH42グリッドにある。Ⅲ層精査中で焼土面が検出し、Ⅳ層でプランを検出した。南側は不明瞭であるが、カマドの一部と思われる。焼土面と西側の周溝内に柱穴があり、東側及び南側においては、規則的に柱穴が配列されていることから、竪穴住居跡と判断した。規模は北東側部分が調査区外のため残存部で長軸4.1m(南東—北西)、短軸3.3m(北東—南西)の大きさで、確認面から床面までの深さは最深部で0.10mである。平面形は壁溝の形状から方形であると思われる。壁は残存部が僅かであるが、急角度に立ち上がると思われる。南西壁で検出した壁溝は、長さ約2.60m、深さ0.32mであり、床面はほぼ平坦である。長軸1.0m、短軸0.6m程であるカマドの火床面の一部と思われる焼けた床面が石とともに検出され、その石も焼けていることにより、カマドの構築材と推定される。火床面覆土は硬くしまっており、また、その位置的状況から南側に敷設されたカマドであったと推定できる。柱穴は19基確認された。

遺物は床面より土師器が出土した。1は長胴甕の口縁～胴部であり、口縁はヘラ状工具による刻み、胴部はヘラケズリが縦位に施される。2～5はそれぞれ甕の口縁、胴部、底部であり、ロクロ調整によるものである。時期は平安時代以降と思われる。

#### ② 土坑

##### S K 92 土坑 (第14図)

MH42グリッドにあり、Ⅱ層中で確認した。北東部分は調査区外のため未調査である。S I 105と重複するが、断面形状から本土坑が同時期か、新しいと思われる。平面形は長軸0.92m(南西—北東)、

短軸残存値0.27m(北西—南東)の楕円形と思われ、確認面からの深さは0.47mである。底面はほぼ平坦で、長径約10cmの礫が3個検出した。壁はやや外傾しながら垂直に立ち上がる。覆土は5層で炭化物・焼土を含む。自然堆積と思われる。遺物は出土しなかった。S I 105に付随した土坑の可能性があり。時期は平安時代以降と思われる。

#### S K 120土坑(第14図)

MH42グリッドにあり、S I 105内で確認した。S I 105・S I 105ピット9と重複するが、断面形状から本土坑が新しいと思われる。平面形は長軸1.16m(南西—北東)、短軸0.84m(北西—南東)の不整な楕円形で、確認面からの深さは0.12mである。底面はやや凹凸があるがほぼ平坦で、壁は浅いが緩やかに立ち上がる。覆土は2層で自然堆積と思われる。遺物は縄文土器が数点出土したが流れ込みと思われる。S I 105との関係は不明である。時期は平安時代以降と思われる。

#### S K 141土坑(第14図)

MH42グリッドにあり、S I 105内で確認した。平面形は長軸0.91m(北西—南東)、短軸0.71m(南西—北東)の不整な楕円形で、確認面からの深さは0.10mである。底面はやや凹凸があるがほぼ平坦で、壁は浅いが緩やかに立ち上がると思われる。覆土は2層で自然堆積と思われる。S I 105と重複するが関連は分からなかった。遺物は出土しなかった。時期は平安時代以降と思われる。

### 第3節 捨て場出土遺物

今回の調査では、縄文時代中期初頭～中期後葉、後期、晩期初頭の土器・土製品、石器・石製品などが出土した。調査区内出土遺物のほとんどがA、B区にある捨て場、その周辺からの出土である。

土器は中コンテナ(規格54×34×10cm)で130箱分出土したため、分類の上一部を図示したに過ぎない。このうち全体の形状を把握できる資料は、接合復元によるもの9個で、他はすべて破片資料である。土製品は土偶が出土した。石器は石鏃27点・搔器(エンドスクレイパー)9点・削器(サイドスクレイパー)8点・石匙14点・篋状石器9点・石錐4点・石槍15点・打製石斧2点・半円状扁平打製石斧13点・磨石6点・凹石14点・磨製石斧12点・石錘6点・浮子2点・石皿6点・異形石器1点の計148点出土した。石製品は6点で、剥片などは多量に出土した。

ここでは捨て場内における高野遺跡出土遺物の特徴を記述する。

#### 1 縄文土器・土製品

縄文土器はほとんどがⅠ層～Ⅲ層にかけて出土した。Ⅰ層からは縄文時代中期後葉に推定されるものが多く、個数は少なくまばらな出土状況である。Ⅱ層～Ⅲ層にかけては縄文時代中期初頭～中葉に推定されるものが集中している。縄文時代の土器の多くは、中期、それも初頭から中葉に相当するもので、次いで中期後葉、後期、晩期の土器も出土している。

本地域は、円筒土器文化圏と大木式土器文化圏の接点に位置するためか、両者が折衷したような特徴を有し、円筒、大木式のいずれに所属させるべきか困難な土器もあるが、このような土器は、大木式

土器に含めた。また、数は少ないものの大木式土器の中に北陸系の要素を含むものもあり、これも、大木式土器に含めた。平安時代以降の土器も少数出土している。

土器の記述にあたっては文様要素・施文手法・文様構成の違いなどから時期別に第Ⅰ群から第Ⅳ群に分けて記載した。なお、捨て場出土遺物の大部分を占める縄文時代中期の土器については、円筒土器・大木式土器に分類して記載している。

#### 第Ⅰ群土器：縄文時代中期の土器（第16～31図、図版4～9）

##### 第Ⅰ群第1類土器（第16～18図、図版4・7）

主として平坦な口縁、あるいは大形で4個の突起を持つ肥厚した口縁で、頸部に隆帯を巡らして口縁部文様帯を区画し、隆帯上に押圧縄文を充填した円筒形の深鉢形土器である。口唇部と隆帯上は刻目状の捺糸圧痕文列で飾られる。隆帯間に充填施文された文様要素より4類に細分される。

##### 第Ⅰ群第1a類土器（第16図1～3、図版7）

出土量は少なく、3点を掲載した。口縁部文様帯の隆帯間、隆帯上に絡条体圧痕文、押圧縄文を施文するものである。胴部には横位LR縄文が施される（1）。胎土には若干の植物繊維を含んでいる。頸部に隆帯を巡らし、口縁部文様帯を区画するもの（1）、絡条体圧痕文、押圧縄文で区画するもの（2・3）がある。中期初頭期の円筒上層a<sub>1</sub>式に比定される土器である。

##### 第Ⅰ群第1b類土器（第16図4～7）

4点掲載した。口唇部と隆帯上は刻目状の捺糸圧痕文列で飾られ、隆帯間に、平行・波状・鋸歯状捺糸圧痕文、押圧縄文を施文するものである。胴部には斜行縄文が施される。中期初頭期の円筒上層a<sub>2</sub>式に比定される土器である。

##### 第Ⅰ群第1c類土器（第16～18図8～35、図版4・7）

出土量は第Ⅰ群土器中最も多い。27点掲載した。口唇部と隆帯上は刻目状の捺糸圧痕文列で飾られ、隆帯文は複雑化する。隆帯間に、馬蹄形・弧状・爪形状捺糸圧痕文を施文するものである。

複雑な隆帯文に沿いながら押圧縄文が施文されるもの（8～15・28・32）、橋状把手が付くもの（19）、口唇部に波状の隆帯文を持つもの（20・22～24）などがある。24は地文にLR縄文を充填施文し、口唇部・頸部の刻目状、C字状の押圧縄文を施した隆帯で胴部と区画する。隆帯上には押圧縄文を施していて、口唇部から垂下する隆帯を境に口縁部の文様に変化する。胴部には波状の隆帯文、渦巻状の押圧縄文も見られ、随所に大木式土器の要素が見られるものである。34・35は半截竹管を使用している。これらは中期前葉期の円筒上層b式に比定される土器である。

##### 第Ⅰ群第1d類土器（第18図36～47、図版7）

隆帯間の圧痕文が刺突文に置き換えられるもので、12点掲載した。メルクマールとなる刺突文には、隅が角ばった篋状工具による[状（36～43）、爪形状（44～46）があり、割合としては[状が卓越する。47は押圧縄文を施した突起を持つ口縁部である。中期前葉期の円筒上層c式に比定される土器である。

第I群第2類土器 (第19～32図、図版4～9)

第I群第2a類土器 (第19、20図48～109、図版7)

62点掲載した。施文方法から、①連続する三角形陰刻文、W字文、刺突文の描かれるもの(48・49・54・58・61・70・75・100)、②2～5、6本の櫛状工具による沈線文(50・51・56・57・59・67・91)、体部には縦位の綾絡文を主とする文様が施文されるもの(48・90)、③口縁部から垂下する1、2本の隆線を中心として、この両側に横位に平行沈線、鋸歯文、波状文などを描いて口縁部文様帯を形成するもの(52・72・73・76・84・87・88・90・98・105)、④主として半截竹管を使用して連続爪形文や平行線、弧線が描かれるもの(53・55・60・64～66・68・69・71・74・76～83・85・86・89・95・97・99・102～104)、⑤沈線による弧線文、同心円文、綾杉文、渦巻文をもつもの(63・106)⑥交互刺突文が描かれるもの(62・92～94・96・107)、⑦粘土紐隆帯が主に口縁部突起から垂下するもの(99・109)に分類される。83は半截竹管を使用して波状・平行文を縦位にはっきりと施したもので、北陸系の要素かと思われる。84・87・88は縄文が施文された、垂下する隆線が見られ、円筒土器の要素かと思われる。中期初頭期の大木7a式に比定される土器である。

第I群第2b類土器 (第21～26図110～193、図版4・5・8)

2a類土器で見られた半截竹管を使用しての文様や沈線文が少なくなり、撚紐の側面圧痕文と粘土紐貼付による隆帯が一体となって施される。復元土器の器種には深鉢と浅鉢が存在する。深鉢の口縁部形態は平坦なものとは4個の波状突起・山形突起を有するものに大別され、平口縁に小さな突起が付くものもある。口頸部の多くは僅かながらも内湾する。文様は、口縁部と胴部に分割して描かれ、口縁部・胴部とも連動して4単位の文様帯に区画されることが多い。口縁部には、①隆帯とこれに沿う側面圧痕文による半円状区画文、楕円形区画文等が描かれるもの、②W字状文、渦巻文、交互刺突文による連続コ字状文が描かれ、その内部に側面圧痕を施すもの、③撚紐の側面圧痕文と粘土紐貼付による細かい隆帯が横位に平行するもの、またその内部に側面圧痕文を施すものがある。胴部には、④隆線によるY字状文が施され、地文は、斜縄文の他、縦位の羽状縄文、綾絡文が施される。

168・174は刻み目のある隆線と側面圧痕文で区画され、その内部に沈線文、押圧縄文が施文されている。177は口縁部に側面圧痕文と粘土紐による楕円形区画文が描かれた浅鉢形土器である。179は4単位の波状口縁の深鉢形土器で、肥圧する口唇部下に側面圧痕文と隆帯が波状に展開する。口頸部にも施され、胴部と口縁部を区画する。胴部には羽状縄文が施文される。180は口縁部が大きく外反した深鉢で、口唇部の刻目状に押圧縄文が施文された粘土紐が横位に展開する。また、頸部に粘土紐による平行な隆帯により口縁部文様帯を区画している。その内部は口縁部から胴部まで垂下する粘土紐による隆帯と側面圧痕文で区画され、弧状文・渦巻文などが施される。円筒土器の要素が見受けられる土器といえる。185は4単位の波状口縁の深鉢であり、口縁部文様帯には側面圧痕文と粘土紐による隆帯により区画され、渦巻文が見られる。地文は斜縄文が施される。189は口縁部の山形突起であり、弧状の側面圧痕文が施され、内面には刺突文、弧状の沈線文が見られる。190・191は円筒形で口縁部に側面圧痕文と粘土紐貼付による隆帯が平行に施文される。192はやや口縁部が外反し、側面圧痕文・刻みが施され、胴部には縦位に綾絡文が施文されるものである。中期前葉期の大木7b式に比定される土器である。



**第 I 群第 2 c 類土器** (第27図194～210、図版5・8)

2 b 類土器で盛行した側面圧痕文は影が薄くなり、粘土紐による隆線とその両側にめぐる沈線による文様が基本となる。粘土紐は波状や渦巻となるが、渦巻は上下に連続せず、未発達である。深鉢の口縁部形態にはキャリパー形になるものと外反するものがある。

194は複数の山形突起を持ち、粘土紐と側面圧痕文が多様された深鉢形土器で、大木7 bの要素が濃いものである。195・199は粘土紐貼付による平行・弧状・渦巻文が施される。196は口縁部片で、粘土紐による吊手状把手が付き、口頸部付近に爪形文が施文される。197は粘土紐と沈線、側面圧痕文で弧状・楕円形文が施された山形突起部分である。198・202・207は隆線と沈線による縦位の波状・弧状文を施す。200はキャリパー形の深鉢であり、口縁部文様帯には粘土紐と沈線を使用し、工字状に区画している。地文に横位R L縄文を施している。201・203・205はキャリパー形の深鉢と思われる。剣尖状渦巻文の剣尖部分が発達するが、渦巻は未発達な感じである。203は口縁部にすす状炭化物がつく。206・208・210は横位に連続刺突文を施している。209は渦巻文から縦位に側面圧痕文が垂下する。中期中葉期の大木8 a 式に比定される土器である。

**第 I 群第 2 d 類土器** (第28～31図211～268、図版6・8・9)

粘土紐とその両側の沈線が胴部にまで施文され、口縁部から胴部まで渦巻文が連続する。口縁部突起にも渦巻文が施文される。

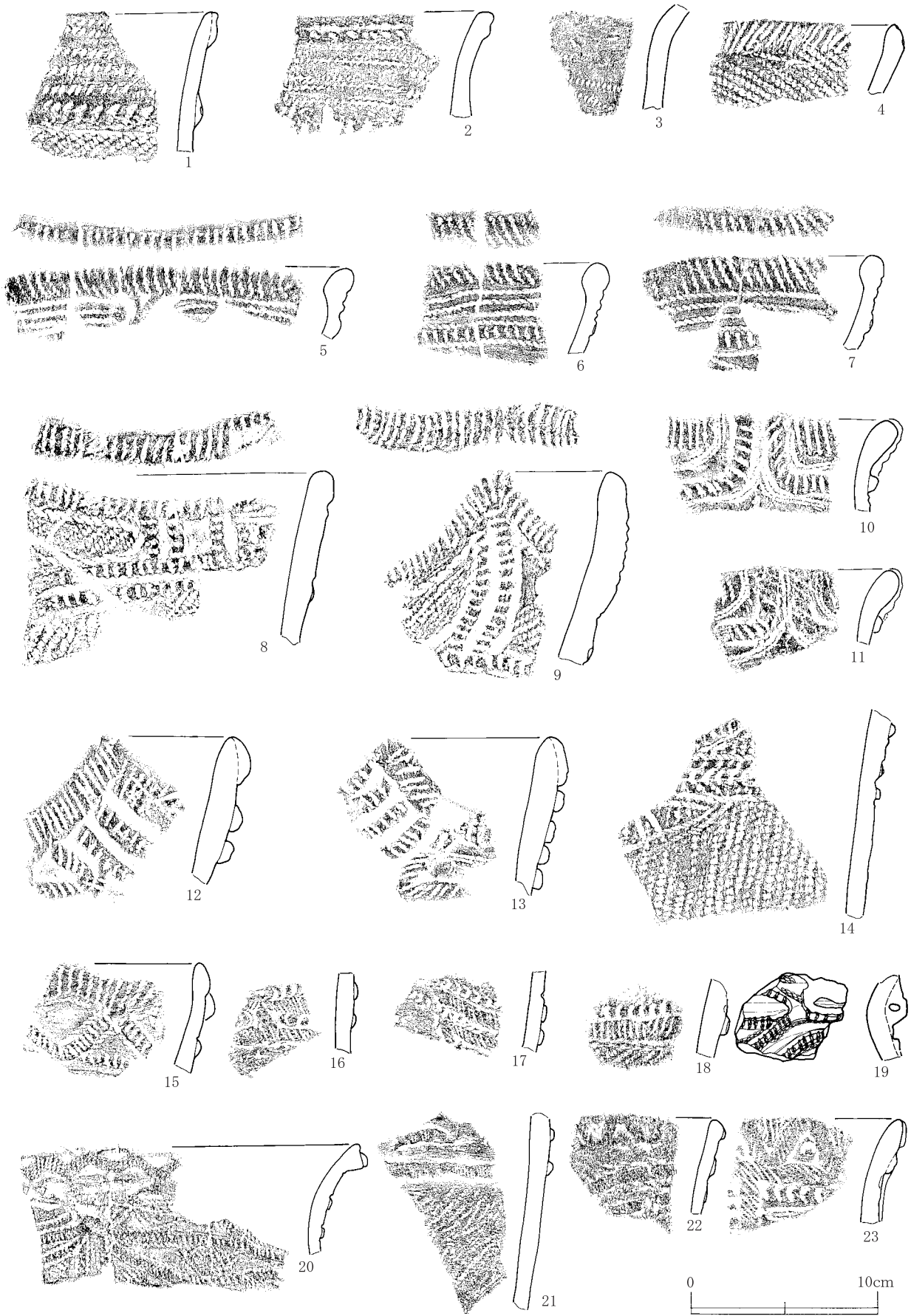
第28図・234・235・237・238は隆沈線による渦巻文、S字状文によるモチーフである。211は口縁部に横位の連続刺突文を施し、胴部には隆沈線による渦巻文が横斜位方向に曲線を描きながら展開する。地文に縦位R L縄文が施文される。212は胴部破片で、地文に横位L R縄文が施文され、隆沈線による曲線・直線文様が施される。213は胴部破片で隆沈線による渦巻状の懸垂文が施され、地文には縦位L R縄文が施文される。216は沈線による渦巻文・孤線文などを施し、地文にR L縄文を施文している。254はキャリパー形の深鉢で隆帯、隆沈線による横位のS字状、渦巻文が施された口縁部を持ち、横位L R縄文が充填施文される。外斜する口頸部は横に平行な隆沈線により区画され、内部は無文帯になる。胴部には横位の渦巻文、縦位L R縄文が施される。器形、渦巻文の展開の仕方など大木8 aの要素が見受けられる。255・256・257・260・261・262は渦巻状のモチーフの突起又は、把手部分である。263はやや外反した口縁部片で山形突起部分に隆帯、その両側に刺突文を施す。さらに穿孔された部分を持つ。267は横位の刺突文と沈線の組み合わせである。中期中葉期の大木8 b 式に比定される土器である。

**第 I 群第 2 e 類土器** (第31図269～274、図版9)

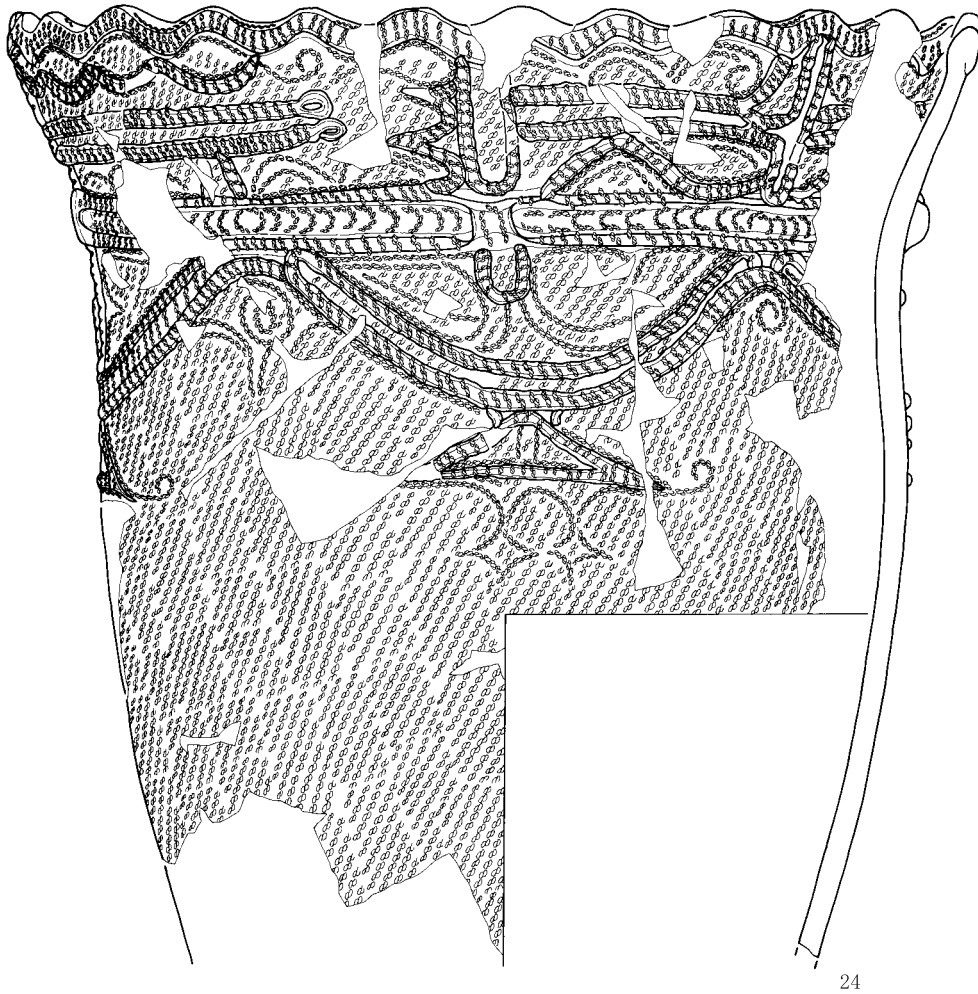
幅広の沈線によって縦長の楕円形を基調とする区画性が強いものとなり、磨消縄文手法が用いられる。269・270・272・274は沈線による縦長の楕円形区画文を描き、その内部に磨消縄文を施すものである。271・273は口縁部突起であり、粘土紐による渦巻突起が施される。271は四方に渦巻突起が展開する要素を持つ。272は粘土貼付部分に円形の窪みが見受けられた。中期後葉期の大木9 式に比定される土器である。

**第 I 群第 2 f 類土器** (第31図275～280、図版6)

275は口縁部に隆帯による突起、それに併行又は内部に刺突文を施す。胴部にかけて2本の隆線による楕円形区画文、磨消縄文が組み合わせられる。隆線の内部は無文帯であり、磨かれている。中期末葉



第16図 捨て場出土土器(1)



24

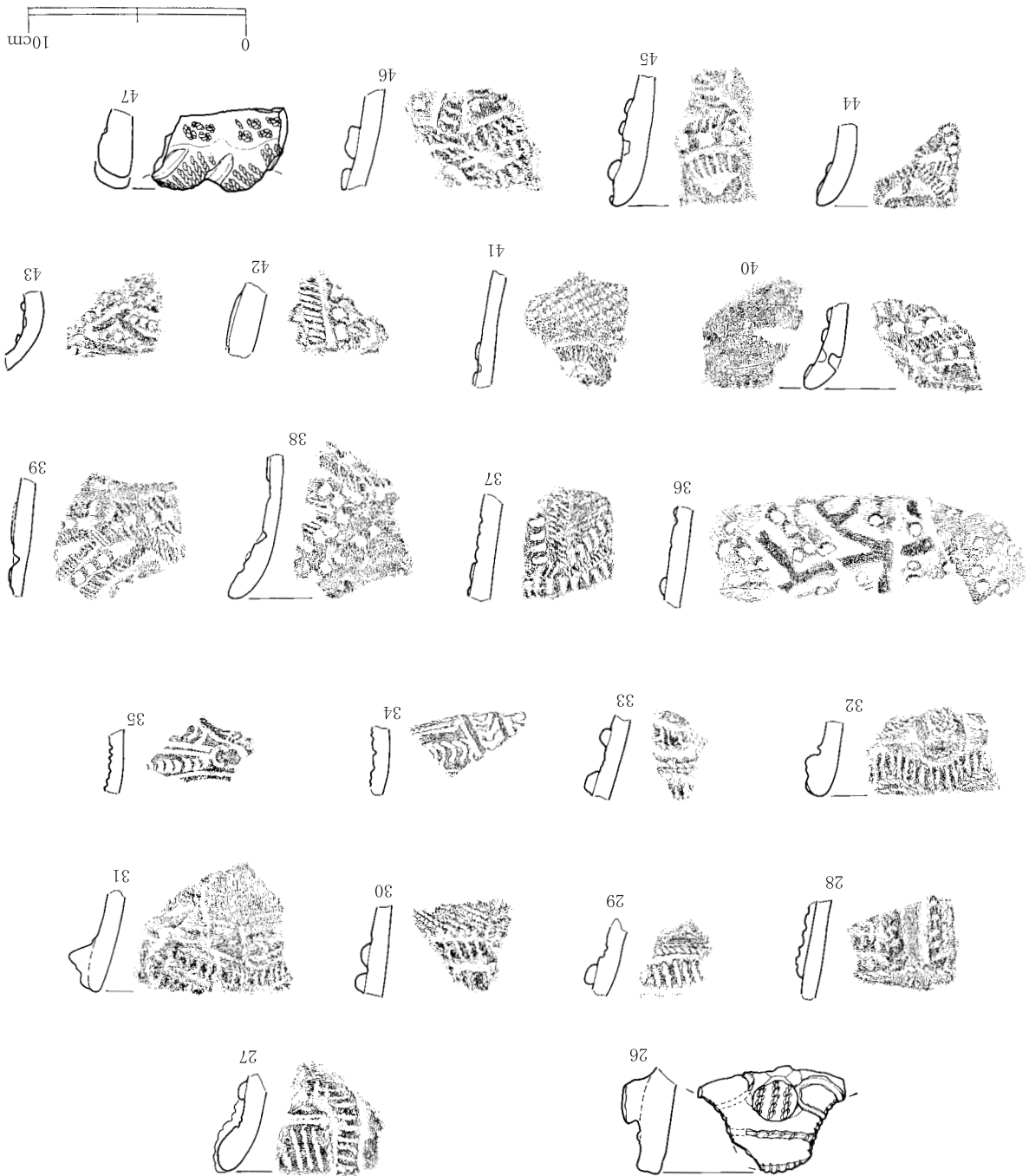


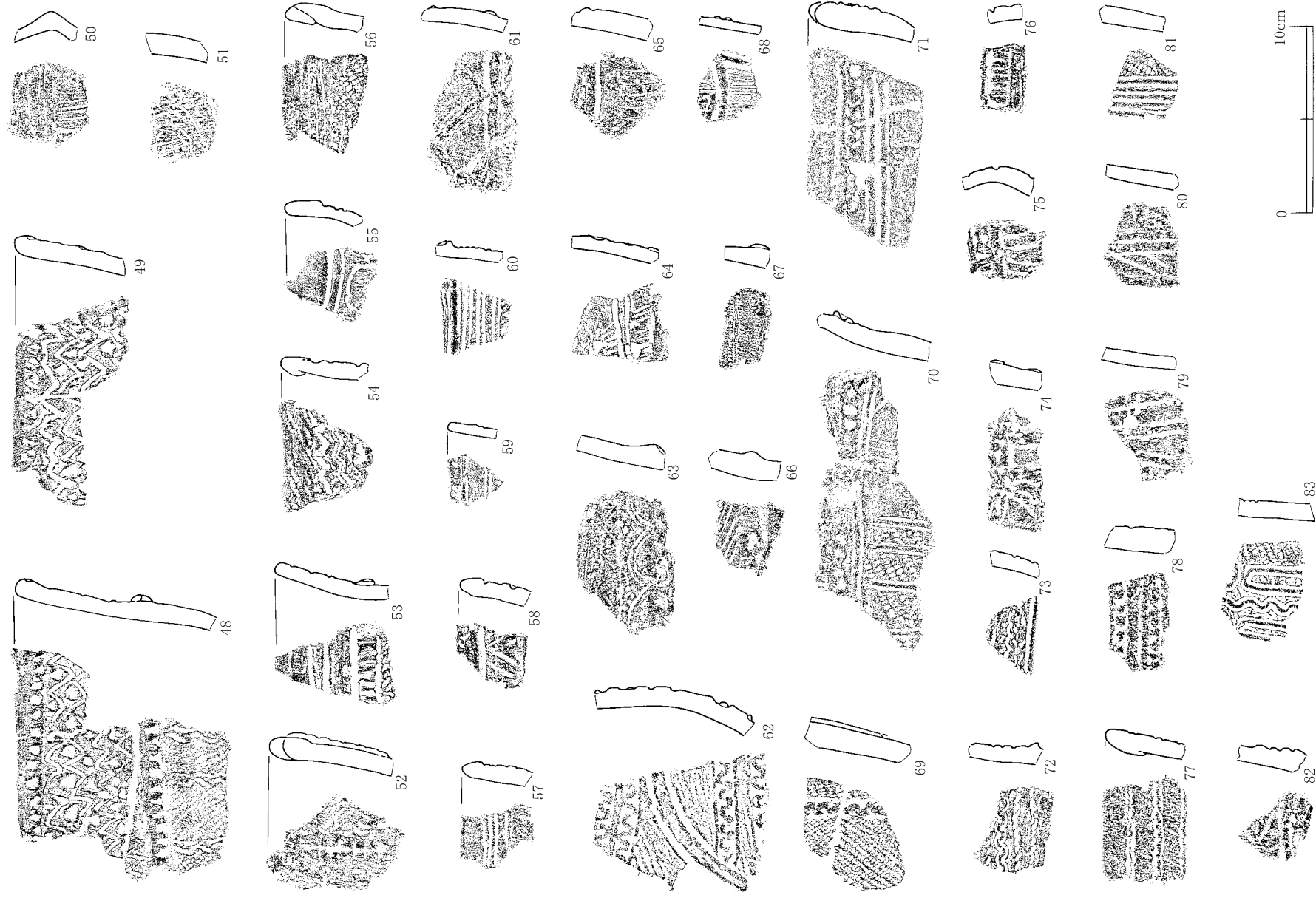
25



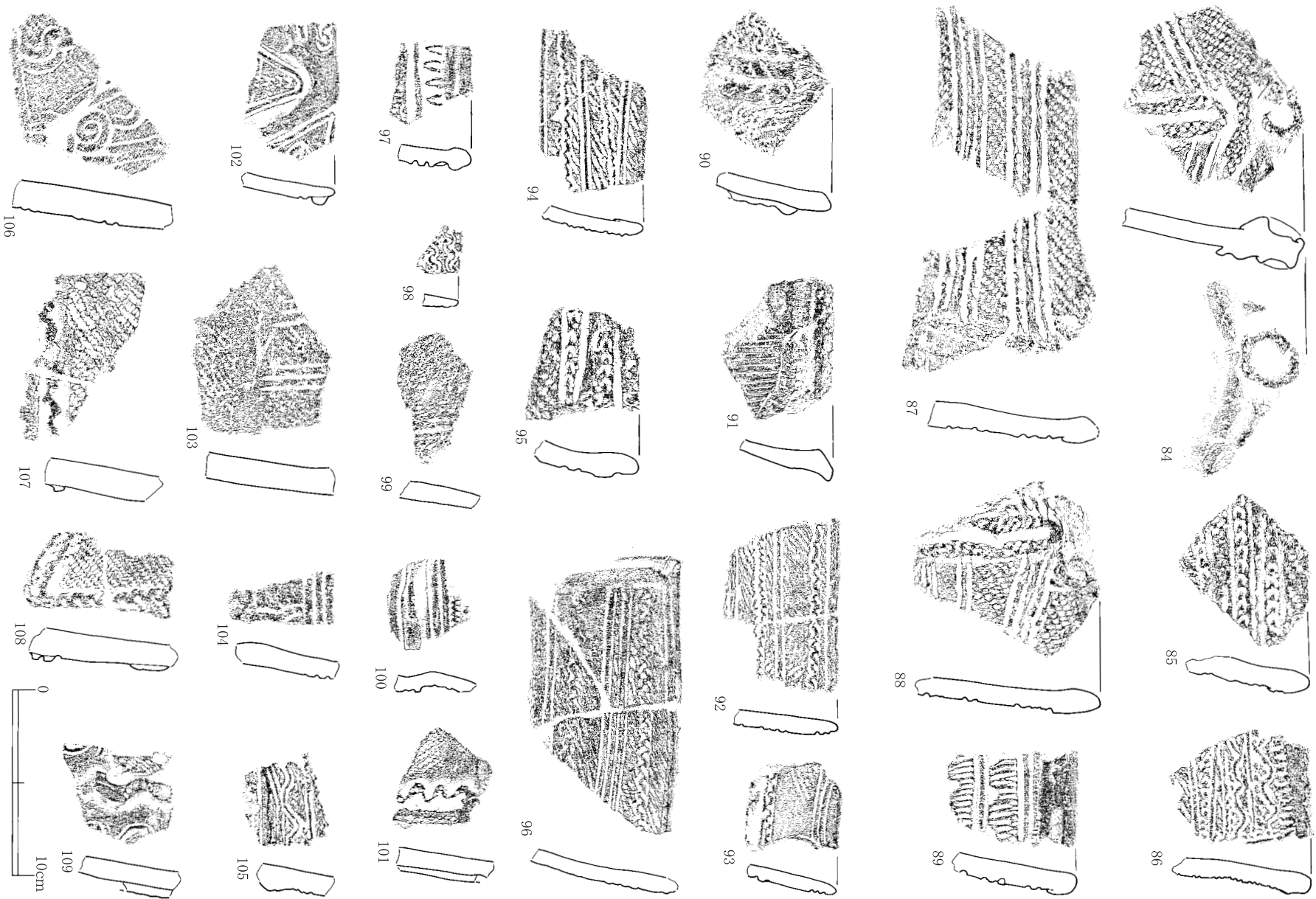
第17図 捨て場出土土器(2)

第18図 捨て場出土土器(3)



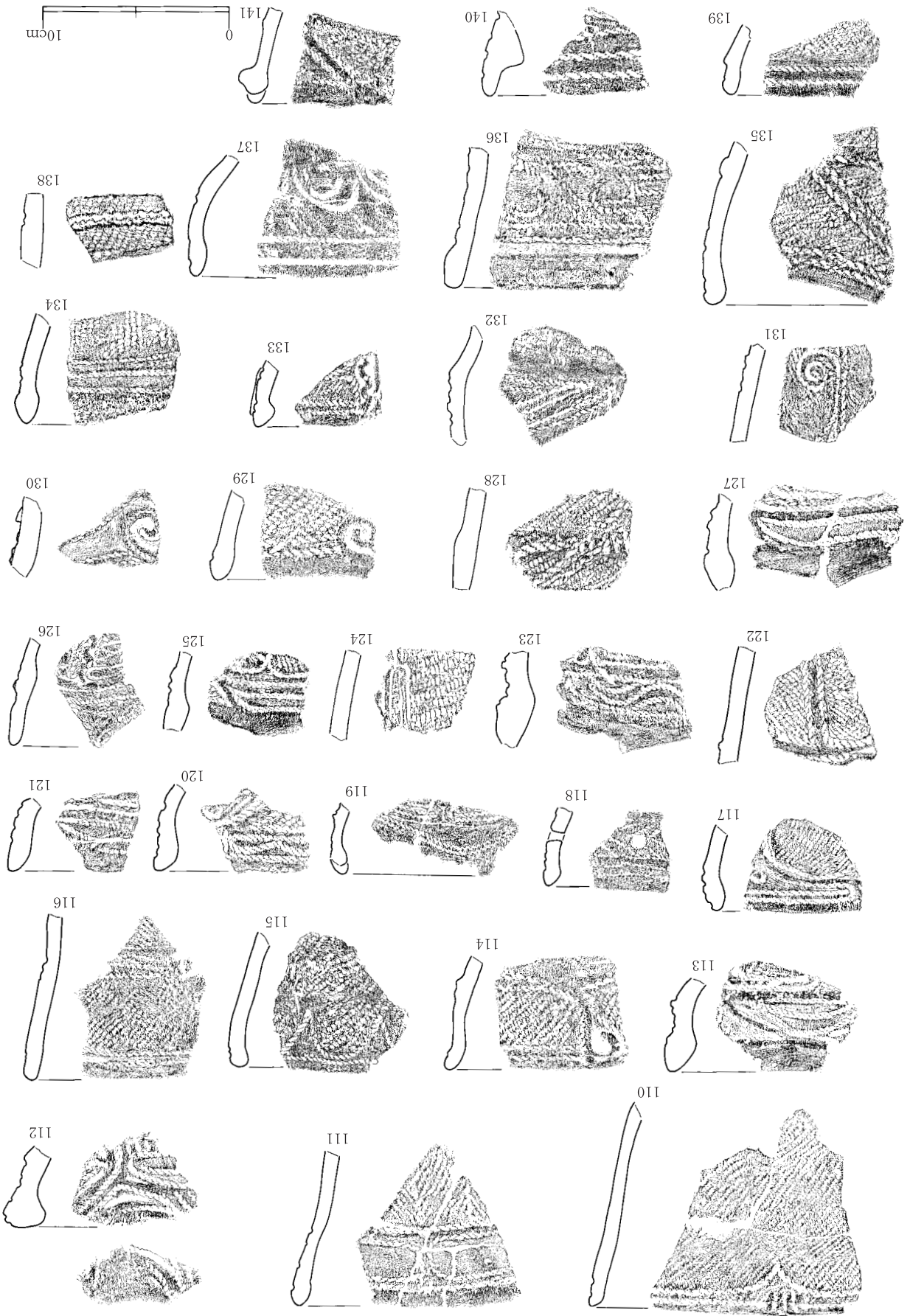


第19図 捨て場出土土器(4)

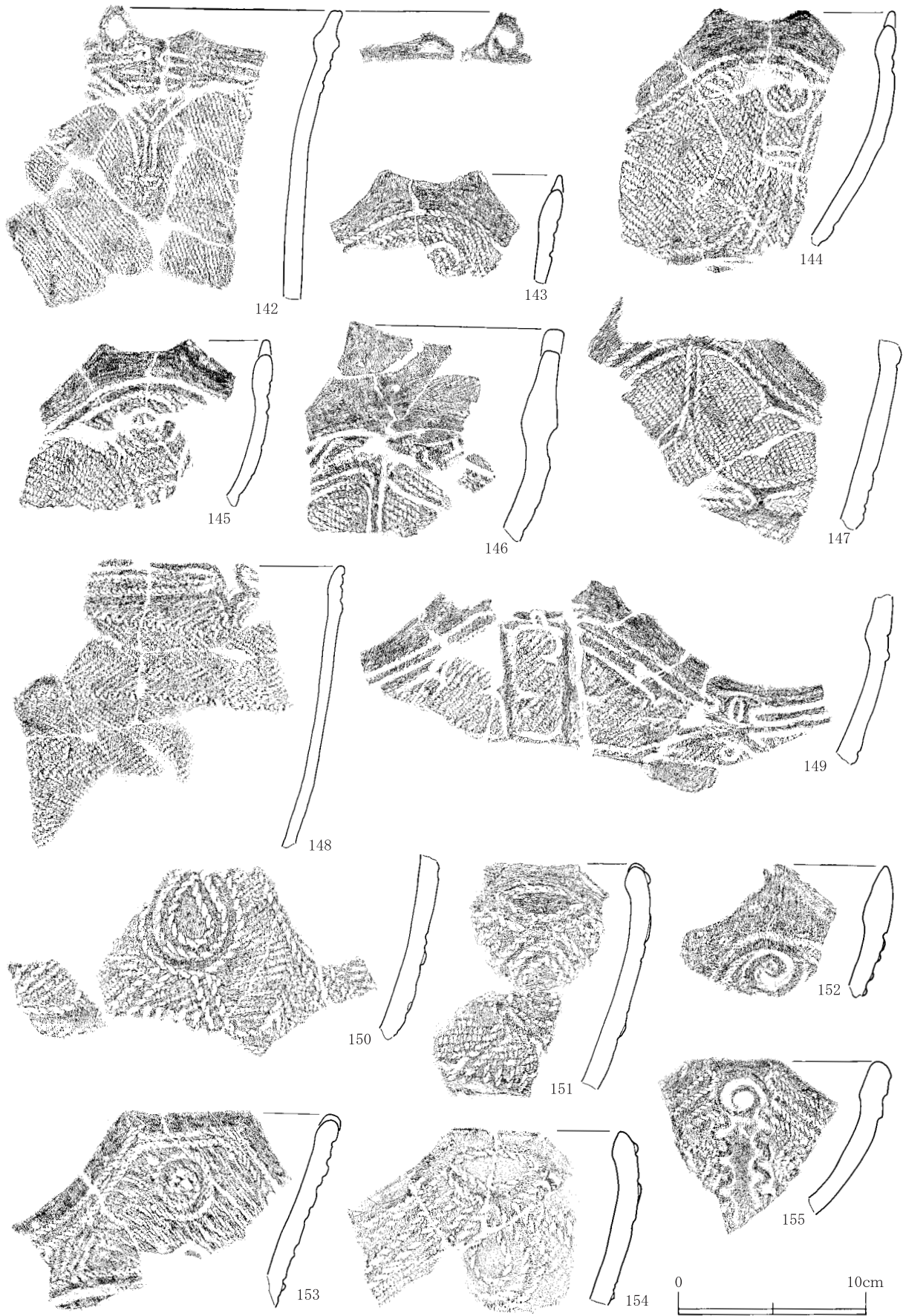


第20図 捨て場出土土器(5)

第21圖 捨て場出土器(6)



第3節 捨て場出土遺物



第22図 捨て場出土土器(7)



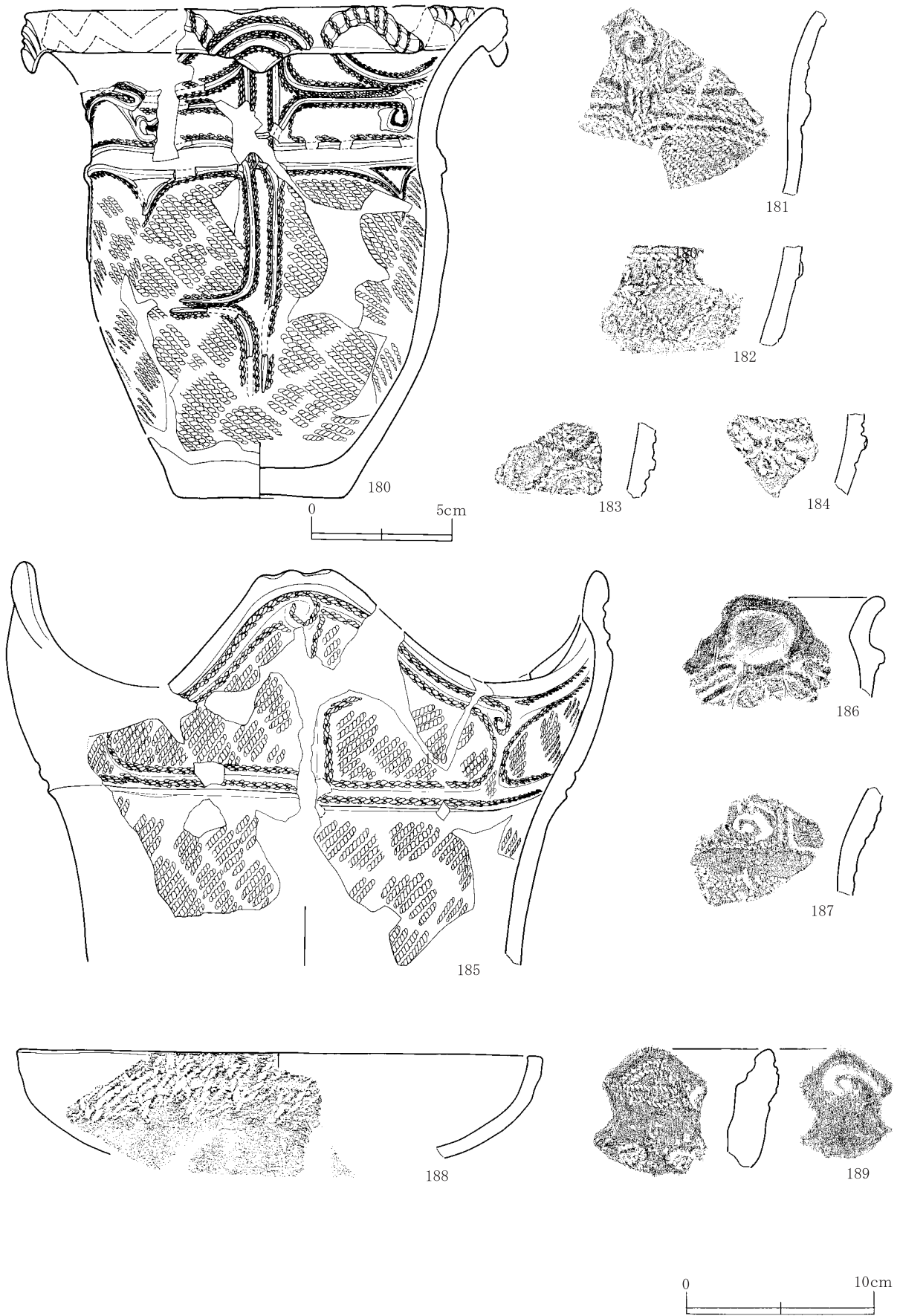
第23圖 捨て場出土土器(8)



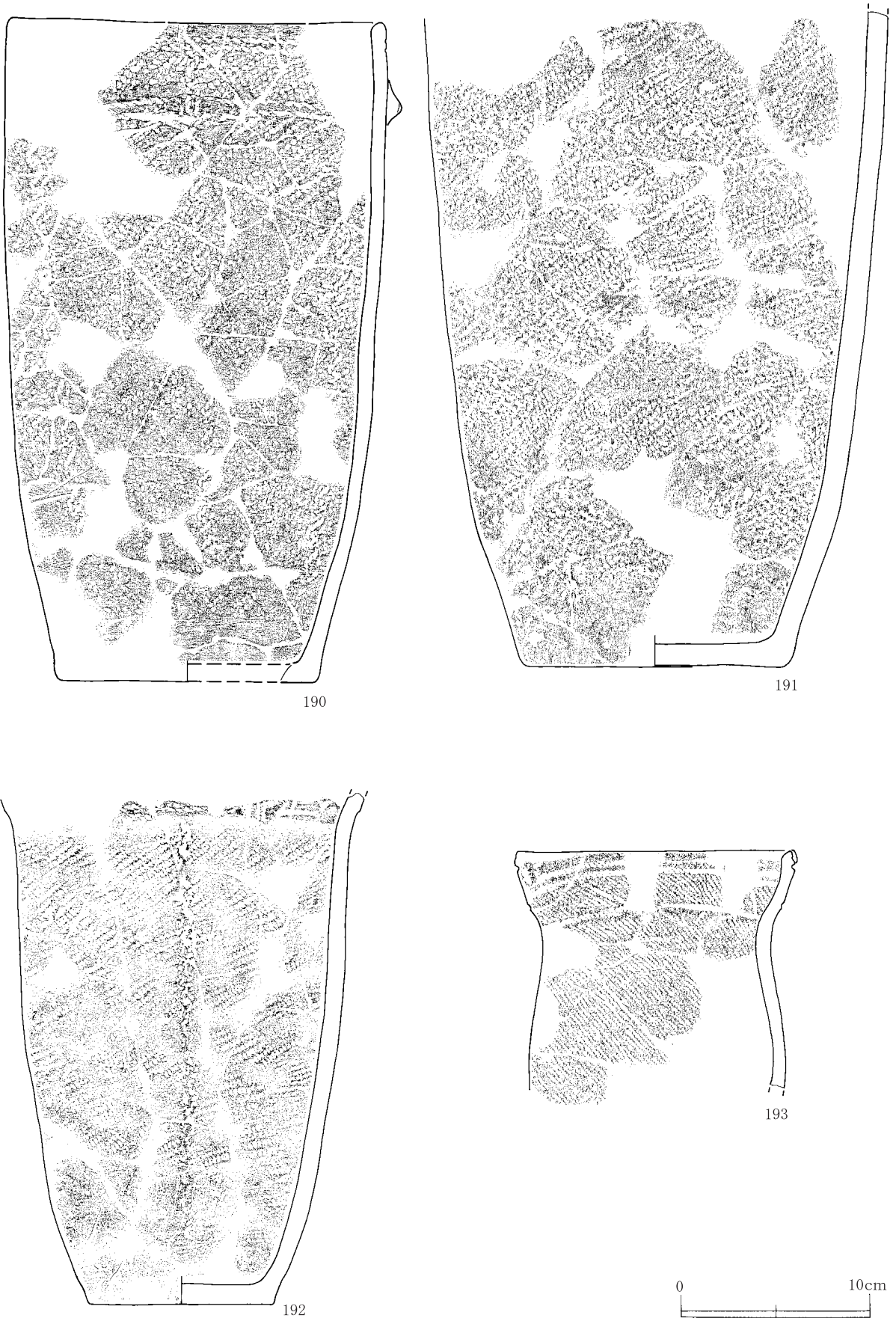
第3節 捨て場出土遺物



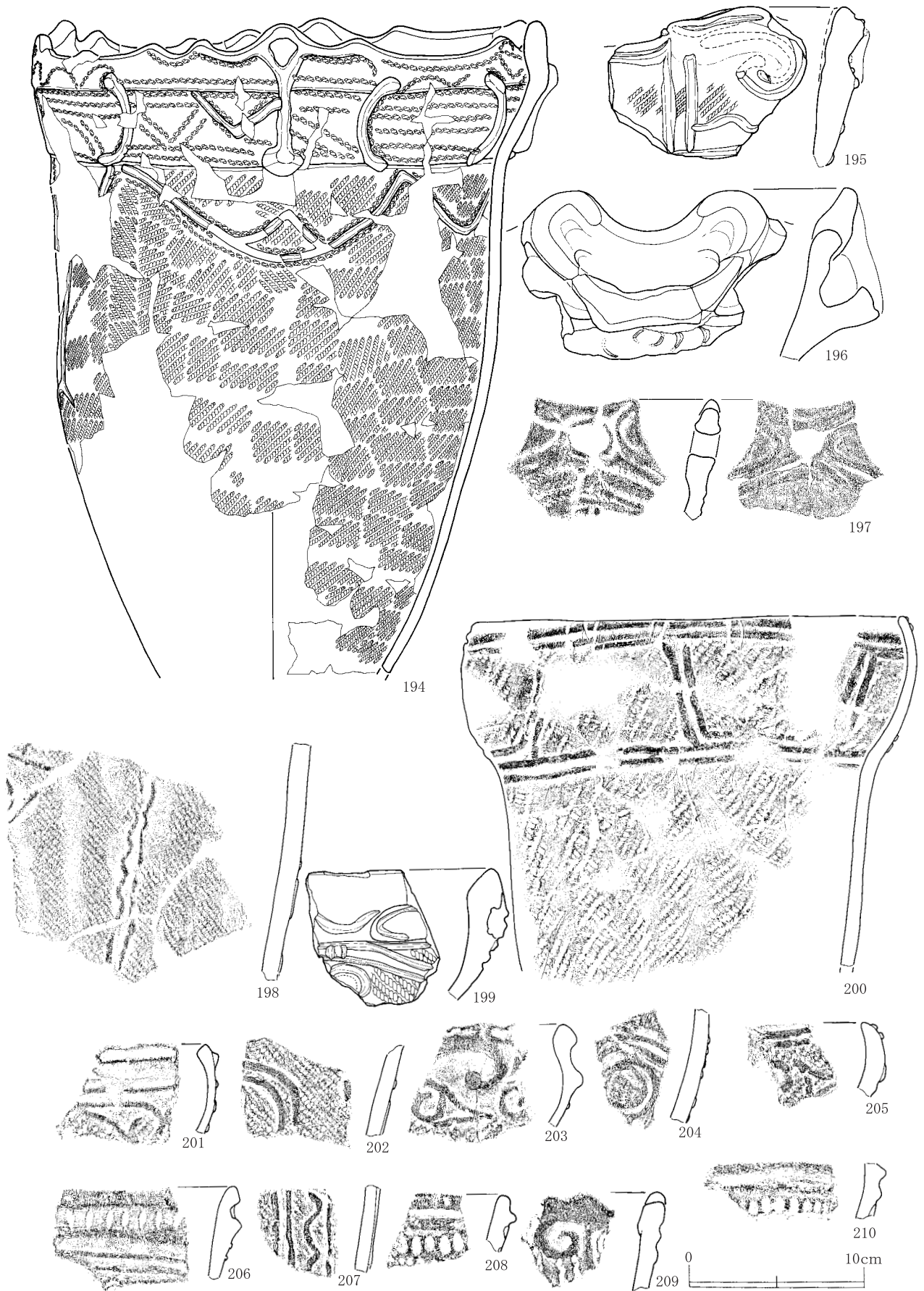
第24図 捨て場出土土器(9)



第25図 捨て場出土土器(10)

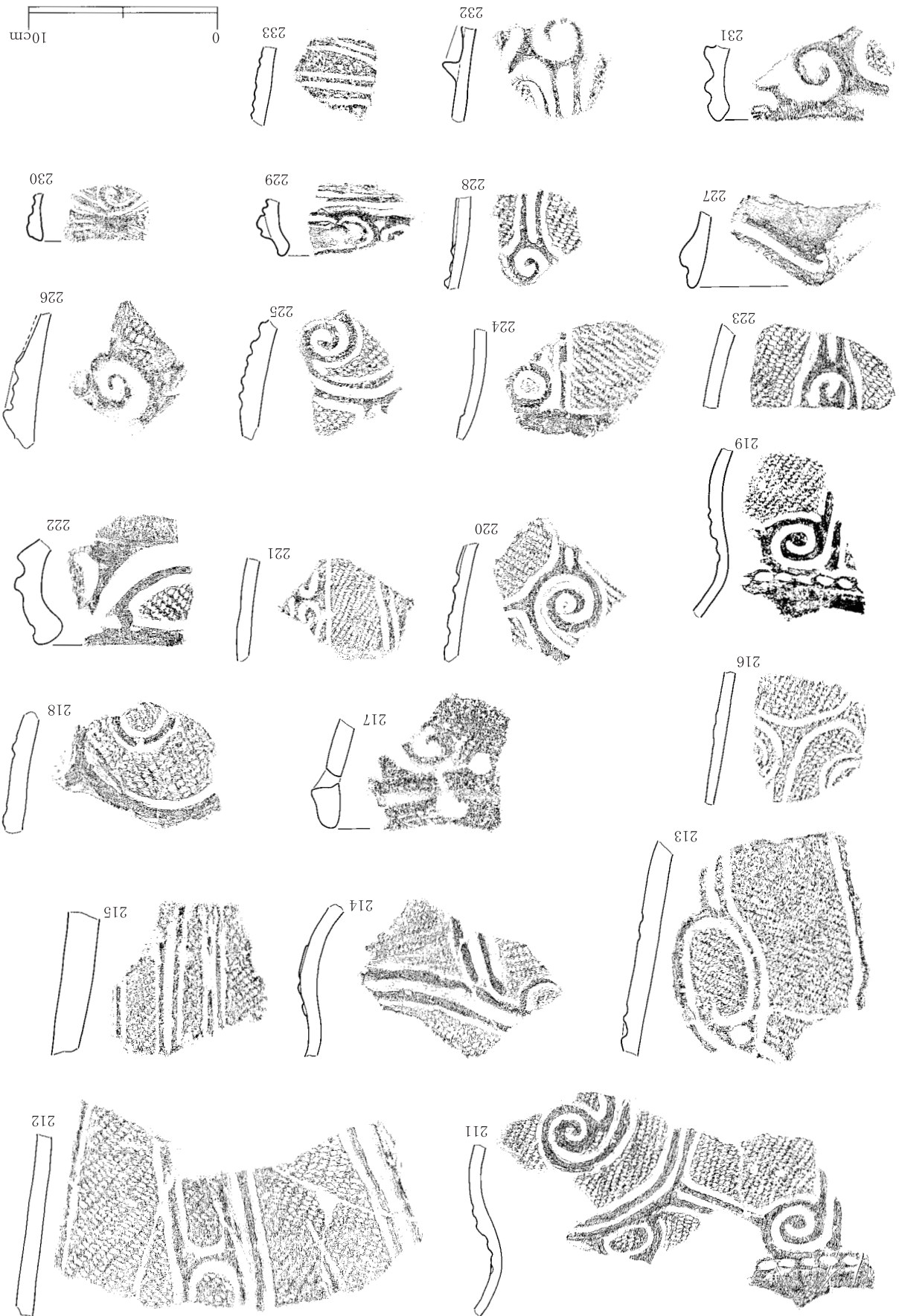


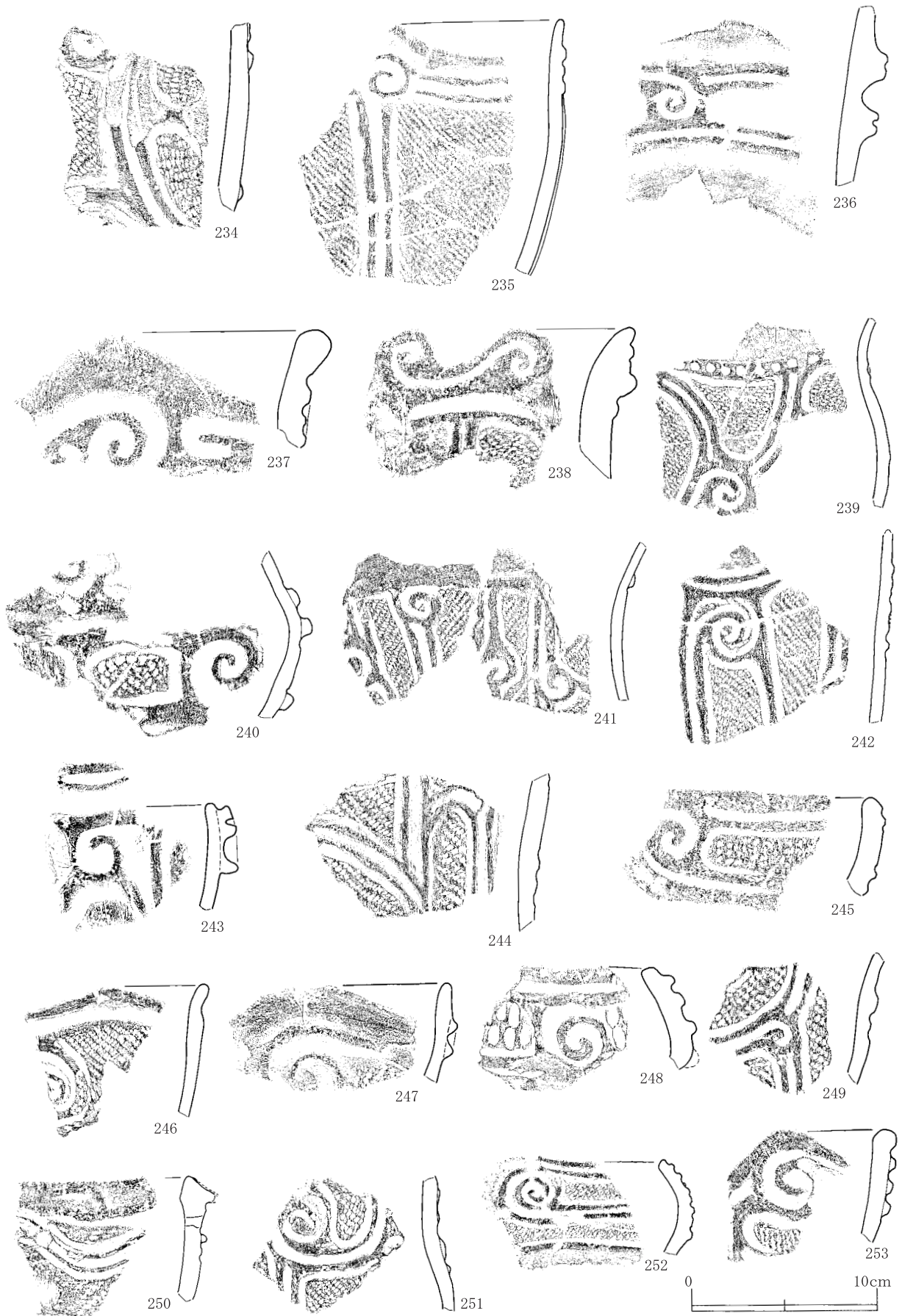
第26図 捨て場出土土器(11)



第27図 捨て場出土土器(12)

第28図 捨て場出土土器(13)



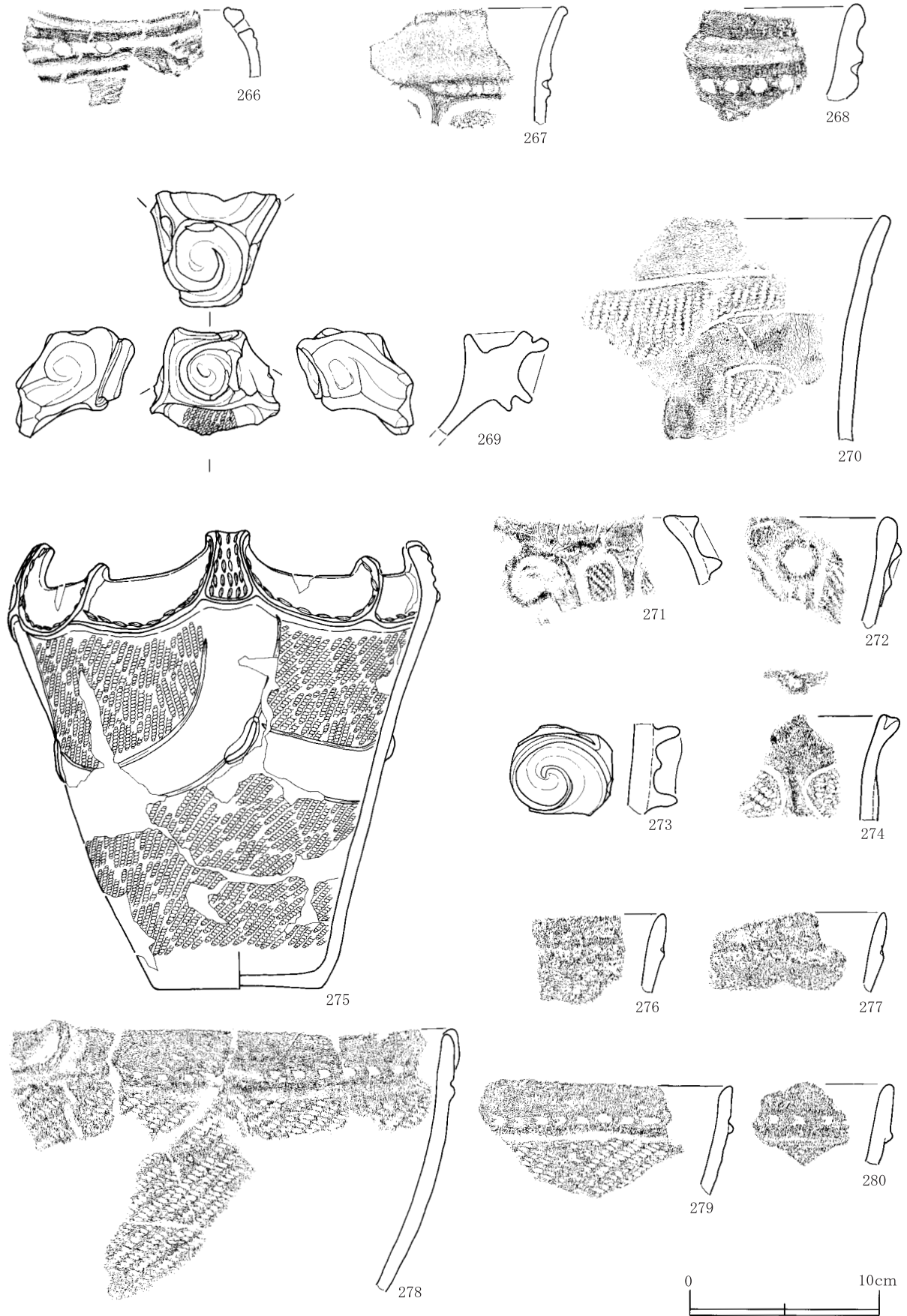


第29図 捨て場出土土器(14)



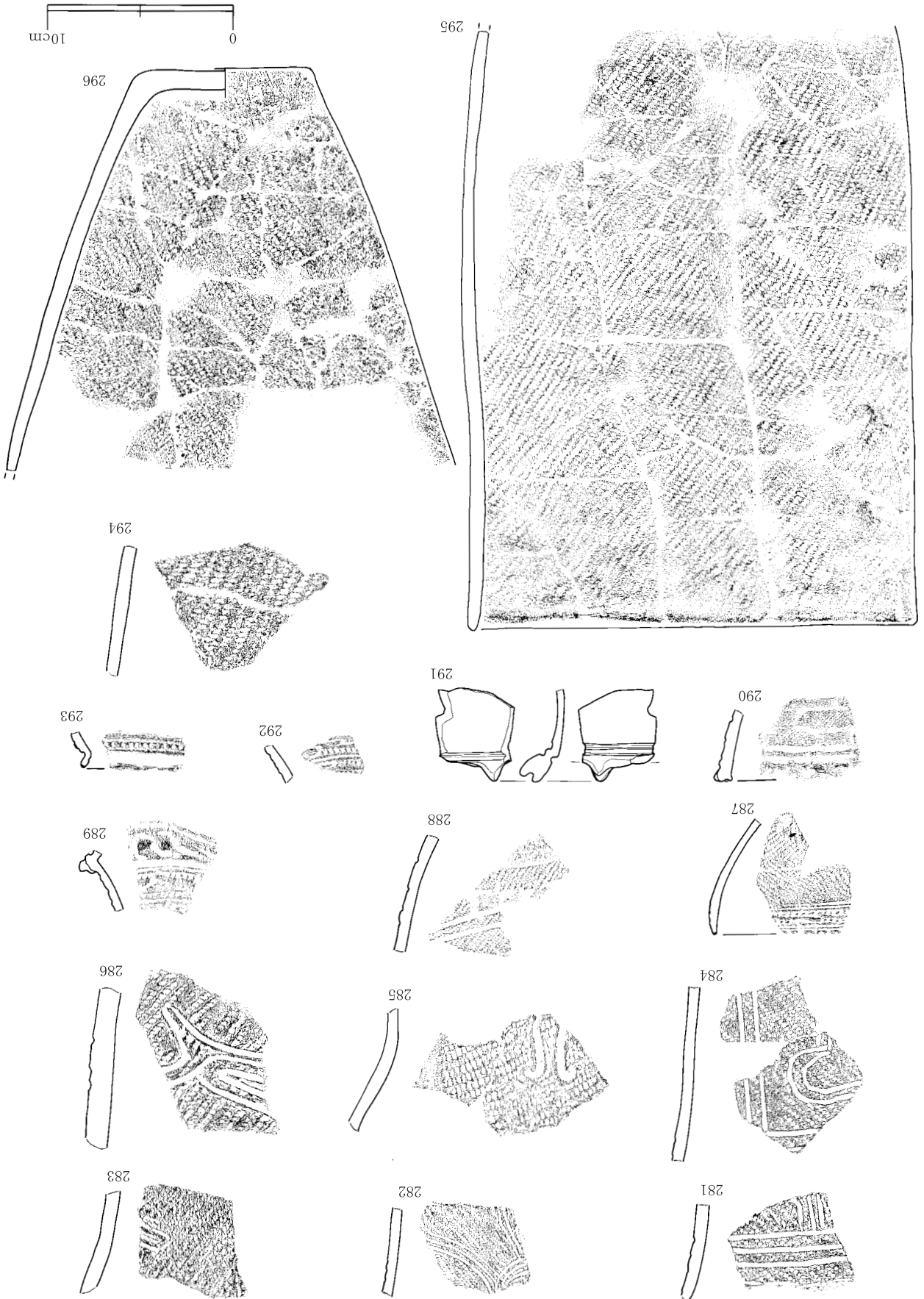
第30図 捨て場出土土器(15)

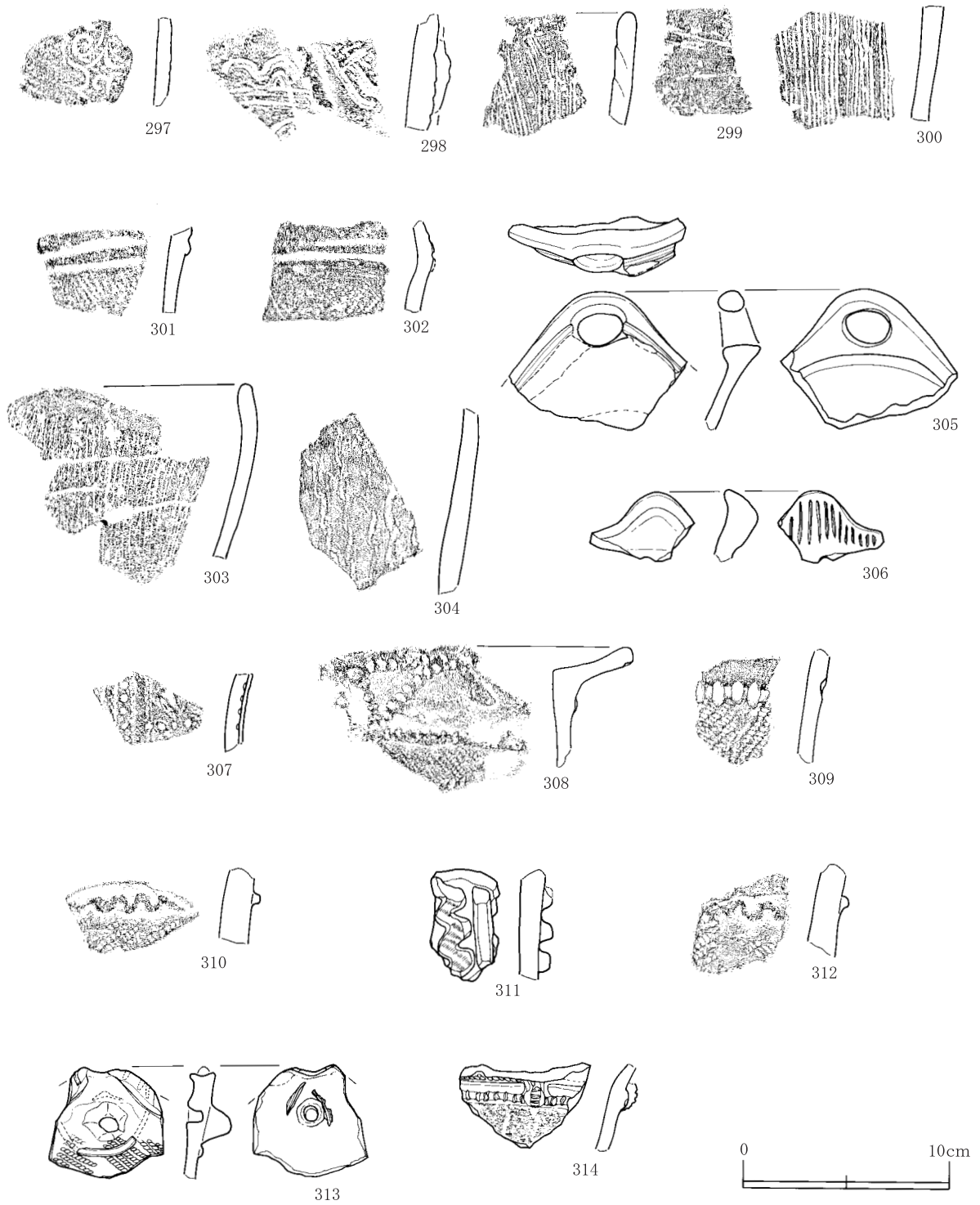




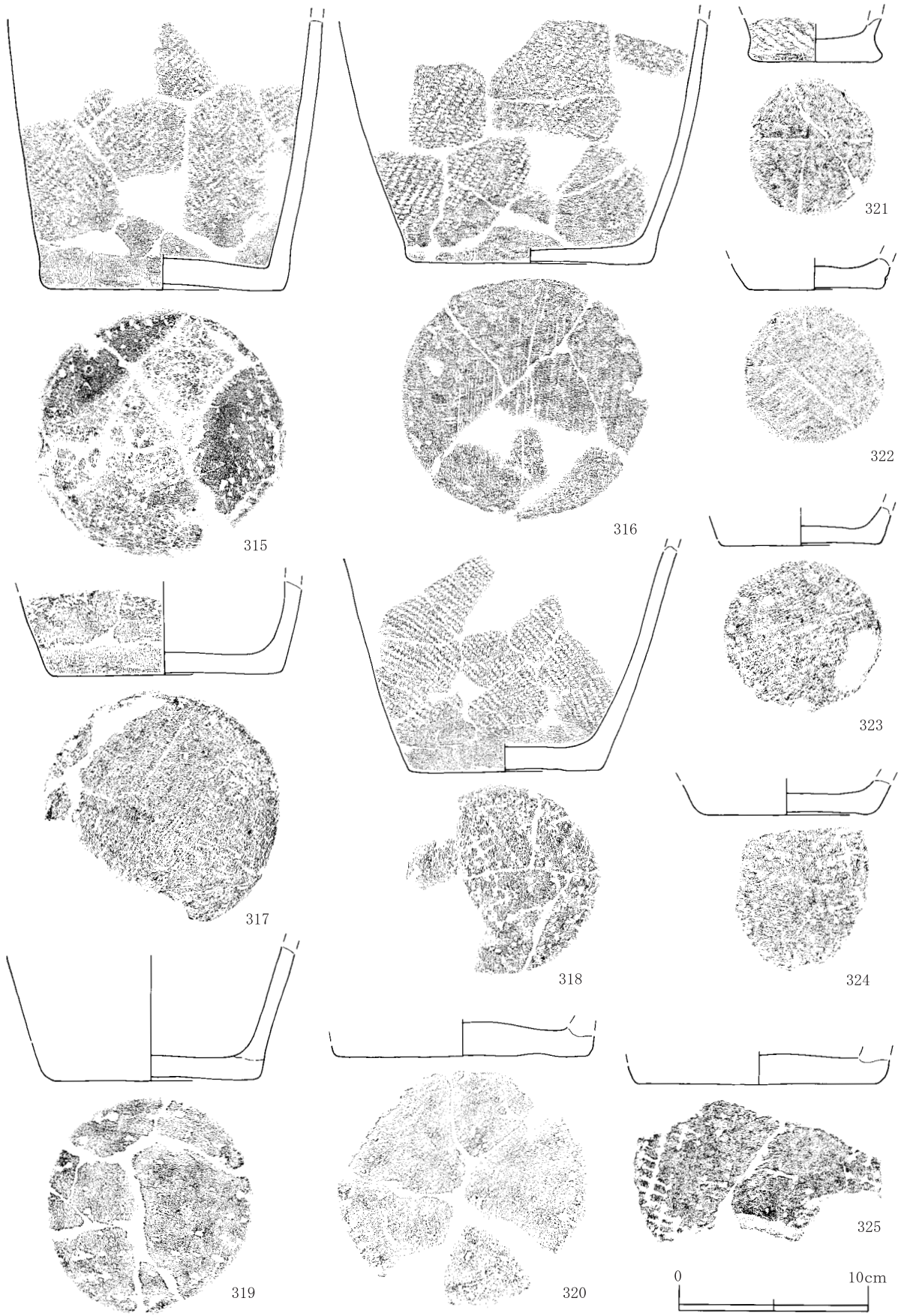
第31図 捨て場出土土器(16)

第32図 捨て場出土土器(17)

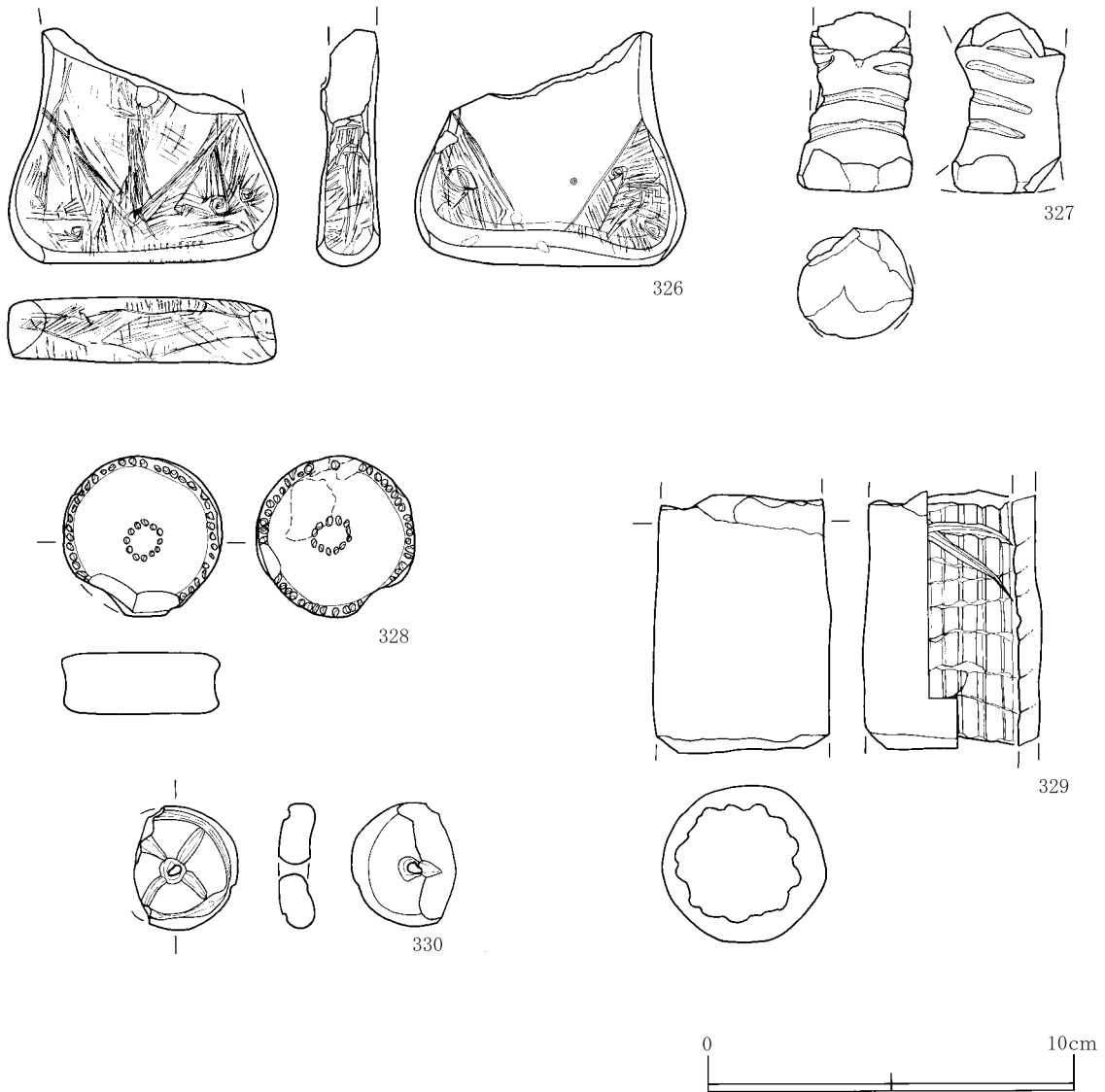




第33図 捨て場出土土器(18)



第34図 捨て場出土土器(19)



第35図 捨て場出土土製品

期の大木10式に比定される土器である。

第Ⅱ群土器：縄文時代後期の土器（第32図281～286、図版6）

平・波状口縁で、胎土にかなり多量の砂粒を含み、縄文地に沈線を施したもので、直線・曲線文を多用するもの（281・282・284・285）がある。

第Ⅲ群土器：縄文時代晩期の土器（第32図287～293）

いずれも磨消縄文と沈線、刺突文で構成されている。291は内面にも平行な沈線文が施されている。

第Ⅳ群土器：時期不明の土器（第32図294～296、第33図297～314）

土器型式が特定できなかった土器群である。①口縁部に波状・平行に粘土紐を貼り付けたもの(298・

第4表 捨て場出土土器観察表(1)

挿図番号	図版番号	出土地点	層位	器種	部位	外面	内面	分類	備考
16-1	-	LR48	II	深鉢	口縁部	口唇：口縁：絡条体圧痕文(横位)、胴：LR縄文(横位)	-	I-1a	
16-2	7-2	LR49	II	深鉢	口縁部	口唇：圧痕、口縁：絡条体圧痕文(横位)、押圧縄文、胴：LR縄文(縦位)	ナデ	I-1a	
16-3	-	MA50	II	深鉢	口縁部～口頸部	口縁：絡条体圧痕文(横位)	ナデ	I-1a	
16-4	-	MA50	II	深鉢	口縁部	口唇：やや内湾、刻目状側面圧痕文、口縁：RL縄文(横位)	ナデ	I-1b	
16-5	-	MA50	II	深鉢	口縁部	口唇：肥圧、刻目状側面圧痕文(RL)、口縁：押圧縄文、隆帯	ナデ	I-1b	
16-6	-	MA49	II	深鉢	口縁部	口唇：肥圧、刻目状側面圧痕文(RL)、口縁：押圧縄文、隆帯+刻目状側面圧痕文(RL)	ナデ	I-1b	
16-7	-	MA50	II	深鉢	口縁部	口唇：肥圧、刻目状側面圧痕(RL)、口縁：隆帯上に刻目状側面圧痕(RL)、押圧縄文	ナデ	I-1b	
16-8	-	LT48	II	深鉢	口縁部	口唇：刻目状側面圧痕(RL)、口縁：山形突起、隆帯+側面圧痕文(RL)、押圧縄文、LR縄文(横位)	ナデ	I-1c	
16-9	-	LM52	II	深鉢	口縁部	口唇：刻目状側面圧痕文(RL)、口縁：波状、隆帯上に刻目状側面圧痕文(RL)、押圧縄文、LR縄文(横位)	ナデ	I-1c	
16-10	7-10	LT49	II	深鉢	口縁部	口唇：肥圧、刻目状側面圧痕(RL)、垂下する粘土紐+刻目状圧痕、口縁：押圧縄文	ナデ	I-1c	
16-11	7-11	LT49	III	深鉢	口縁部	口唇：肥圧、刻目状側面圧痕(RL)、垂下する粘土紐+刻目状圧痕、口縁：押圧縄文	ナデ	I-1c	
16-12	7-12	LT49	III	深鉢	口縁部	口唇：粘土紐+刻目状側面圧痕文(RL)、口縁：波状、粘土紐+側面圧痕(刻み状)	ナデ	I-1c	
16-13	-	LT49	III	深鉢	口縁部	口唇：粘土紐+刻目状側面圧痕文(RL)、口縁：波状、粘土紐+側面圧痕(刻み状)、押圧縄文	ナデ	I-1c	
16-14	-	LS47	III	深鉢	口頸部	口縁：隆帯+刻目状側面圧痕(RL)、押圧縄文、胴：RL縄文(斜位)	ナデ	I-1b	
16-15	-	LT49	III	深鉢	口縁部	口唇：刻目状側面圧痕、口縁：山形突起、隆帯+刻目状側面圧痕文(波状)、押圧縄文	ナデ	I-1c	
16-16	-	LT50	III	深鉢	口縁部	口縁：隆帯間爪形状圧痕文、LR縄文、隆帯上側面圧痕文(RL)	-	I-1c	
16-17	-	LS48	III	深鉢	口縁部	口縁：爪形状捺糸圧痕文(隆帯間)、隆帯+刻目状捺糸圧痕	ナデ	I-1c	
16-18	-	LS48	III	深鉢	口頸部	口縁：爪形状捺糸圧痕文(隆帯間)、口頸：隆帯+刻目状側面圧痕、胴：LR縄文(横位)	ナデ	I-1c	
16-19	-	LS46	III	深鉢	口縁部	口縁：隆帯+刻目状捺糸圧痕文	ナデ	I-1c	
16-20	-	LT51	III	深鉢	口縁部	口唇：刻目状側面圧痕、口縁：隆帯+刻目状側面圧痕文(波状)、押圧縄文	ナデ	I-1c	
16-21	-	LT50	III	深鉢	口縁部	口縁：隆帯+刻目状捺糸圧痕文、平行文、ナデ、胴：RL縄文(縦位)	ナデ	I-1b	
16-22	-	MA51	III	深鉢	口縁部	口唇：隆帯(波状)+刻目状捺糸圧痕、口縁：隆帯+刻目状捺糸圧痕、粗製	-	I-1c	
16-23	7-23	LT50	III	深鉢	口縁部	口唇：刻目状捺糸圧痕、波状の隆帯+刻目状側面圧痕、口縁：爪形状捺糸圧痕文、押圧縄文、焼成不良	ナデ	I-1c	
17-24	4-24	LT49	III	深鉢	口縁部～胴部	口唇・口頸：粘土紐貼付+刻目状・C字状側面圧痕文で区画、口縁：小波状、押圧縄文、渦巻文、刻みのある粘土紐による波状・平行文、胴：複節縄文、粘土紐(刻目)が波状に	ナデ	I-1c	大木式土器の影響
17-25	-	LT49	III	深鉢	口縁部	口唇：肥圧、隆帯+刻目状側面圧痕、押圧縄文、渦巻文、胴：LR縄文(横位)	ナデ	I-1c	
18-26	-	LQ49	III	深鉢	口縁部	口縁：押圧縄文、粘土紐+刻目状捺糸圧痕、ボタン状突起	ナデ	I-1c	
18-27	-	LT49	III	深鉢	口縁部	口唇：粘土紐+刻目状側面圧痕文(RL)、口縁：粘土紐+側面圧痕(刻み状)	ナデ	I-1c	
18-28	-	LS48	II	深鉢	口縁部	口縁：刻目状側面圧痕文+粘土紐貼付、押圧縄文	ナデ	I-1c	
18-29	-	LT50	II	深鉢	口縁部	口縁：隆帯+刻目状側面圧痕(RL)、押圧縄文	ナデ	I-1c	
18-30	-	LT49	II	深鉢	口縁部	口縁：隆帯+刻目状側面圧痕(RL)、胴：縄文RL縄文(横位)	ナデ	I-1c	
18-31	-	MA51	III	深鉢	口縁部	口唇：波状の隆帯+側面圧痕(RL)、口縁：側面圧痕(RL)+隆帯	ナデ	I-1c	
18-32	-	LT49	III	深鉢	口縁部	口縁：刻目状側面圧痕文+隆帯、押圧縄文	ナデ	I-1c	
18-33	-	LS47	II	深鉢	口縁部	口唇：粘土紐貼付、口縁：波状、LR縄文(横位)	-	I-1c	

第5表 捨て場出土土器観察表(2)

挿図番号	図版番号	出土地点	層位	器種	部位	外面	内面	分類	備考
18-34	-	MA50	Ⅲ	深鉢	口縁部	口縁：爪形捺糸圧痕文、平行沈線文、押圧縄文、隆帯	ナデ	I-1c	
18-35	-	MA50	Ⅲ	深鉢	口縁部	口縁：爪形・馬蹄形捺糸圧痕文、平行沈線文	ナデ	I-1c	
18-36	-	MA50	Ⅲ	深鉢	口縁部	口縁：粘土紐貼付、円形刺突文	ナデ	I-1d	
18-37	-	LT53	Ⅲ	深鉢	口縁部	口縁：隆帯+刻目状捺糸圧痕、爪形刺突文	ナデ	I-1d	
18-38	-	MB51	Ⅲ	深鉢	口縁部	口唇：刻み、口縁：波状、隆帯+刻目状捺糸圧痕、]状刺突文	ナデ	I-1d	
18-39	7-39	MA51	Ⅲ	深鉢	口縁部	口縁：隆帯+刻目状捺糸圧痕、]状連続刺突文	ナデ	I-1d	
18-40	-	MB52	Ⅲ	深鉢	口縁部	口縁：隆帯+刻目状捺糸圧痕、]状刺突文(隆帯間)	ナデ、側面穿孔	I-1d	
18-41	-	MA51	Ⅲ	深鉢	口頸部	口縁：爪形刺突文、隆帯+刻目状捺糸圧痕、胴：LR縄文(横位)	ナデ、沈線	I-1d	
18-42	-	MA51	Ⅲ	深鉢	口縁部	口縁：隆帯+刻目状捺糸圧痕、]状連続刺突文	ナデ	I-1d	
18-43	-	LT50	Ⅲ	深鉢	口縁部	口縁：隆帯、]状刺突文	ナデ	I-1d	
18-44	-	LS48	Ⅲ	深鉢	口縁部	口縁：隆帯+刻目状捺糸圧痕、]状刺突文	ナデ	I-1d	
18-45	-	LT50	Ⅱ~Ⅲ	深鉢	口縁部	口縁：隆帯+刻目状捺糸圧痕、]状刺突文	ナデ	I-1d	
18-46	-	LT50	Ⅱ	深鉢	口縁部	口縁：粘土紐+刻目状捺糸圧痕、]状刺突文	ナデ	I-1d	
18-47	-	LT53	Ⅱ	深鉢	口縁部	口唇：隆帯(斜位連続)上側面圧痕文(RL)、押圧縄文	ナデ	I-1d	
19-48	7-48	LT50	Ⅲ	深鉢	口縁部	口唇：隆帯+三角形刺突文、口縁：三角形刺突文、連続W字文、口頸：三角形刺突+隆帯、胴：綾絡文(縦)、RL縄文(横位)	ナデ	I-2a	
19-49	-	LT50	Ⅱ	深鉢	口縁部	口唇：隆帯+三角形刺突文、口縁：三角形刺突文、連続W字文	ナデ	I-2a	
19-50	-	LI47	Ⅲ	深鉢	口頸部	口頸：櫛目、逆くの字状に内傾	-	I-2a	
19-51	-	L053	Ⅲ	深鉢	口頸部	口頸：櫛目、孤線文、平行文	-	I-2a	
19-52	-	MA50	Ⅲ	深鉢	口縁部	口縁：口縁部から垂下する刻み目隆帯、櫛目	-	I-2a	
19-53	-	LR49	Ⅲ	深鉢	口縁部	口縁：半截竹管、口頸：隆帯+圧痕文、胴：RL縄文(横位)	ナデ	I-2a	
19-54	-	MA51	Ⅲ	深鉢	口縁部	口唇：肥圧、押圧縄文、口縁：連続W字文、複合口縁?	ナデ	I-2a	
19-55	-	MJ41	Ⅲ	深鉢	口頸部?	口頸：半截竹管・孤線文	-	I-2a	
19-56	-	LJ52	Ⅱ	深鉢	口縁部	口縁：櫛目、刺突文、LR縄文(横位)、複合口縁	ナデ	I-2a	
19-57	-	LR49	Ⅱ	深鉢	口縁部	口縁：櫛目平行文、胎土：砂含む	ナデ	I-2a	
19-58	-	LT49	Ⅲ	深鉢	口縁部	口唇：肥圧、口縁：三角形陰刻文、半截竹管、刺突文	ナデ	I-2a	
19-59	-	MA50	Ⅲ	深鉢	口縁部	口縁：櫛目、平行文、刺突文	ナデ	I-2a	
19-60	-	MA50	Ⅲ	深鉢	口縁部	口縁：半截竹管、隆帯、RL縄文(横位)	ナデ、櫛目	I-2a	
19-61	7-61	LS47	Ⅲ	深鉢	口頸部	口頸：隆帯(波状)+刺突文	ナデ	I-2a	
19-62	7-62	MA50	Ⅲ	深鉢	口縁部	口縁：交互刺突文(2単位で)、弧状の沈線、LR縄文(横位)	ナデ	I-2a	
19-63	-	MA50	Ⅲ	深鉢	口縁部	口縁：弧線文、刺突文、隆帯、連続W字文	ナデ	I-2a	
19-64	-	LK51	Ⅲ	深鉢	口縁部	口縁：平行沈線文、刺突文、刻み、胎土：砂含む	ナデ	I-2a	
19-65	-	MA50	Ⅱ	深鉢	口頸部	口頸：半截竹管(縦、横)	-	I-2a	
19-66	-	LS47	Ⅱ	深鉢	口頸部	口頸：竹管文、刻みのある隆帯、	ナデ	I-2a	
19-67	-	MA51	Ⅱ	深鉢	口頸部	口頸：隆帯、刺突文	-	I-2a	
19-68	-	LT50	Ⅲ	深鉢	口縁部	口縁：半截竹管(縦)、隆帯	ナデ	I-2a	
19-69	-	LS48	Ⅲ	深鉢	胴部	胴：隆帯(縄状)、LR縄文(横位)	ナデ	I-2a	
19-70	-	MA50	Ⅲ	深鉢	口頸部	口頸：連続円形刺突文、竹管平行沈線文(横)、胴：LR縄文(横位)、竹管平行沈線文(縦)、胎土：砂含む	ナデ	I-2a	
19-71	-	MA50	Ⅲ	深鉢	口縁部	口縁：波状、(山形突起)、半截竹管、胎土：砂多量に含む	ナデ	I-2a	
19-72	-	LS48	Ⅲ	深鉢	口縁部	口縁：押圧縄文、隆帯、波状文、胎土：砂含む	ナデ	I-2a	
19-73	-	LT50	Ⅲ	深鉢	口頸部	口頸：半截竹管・波状文	ナデ	I-2a	
19-74	-	LJ52	Ⅱ	深鉢	口頸部	口頸：隆帯+刺突文、隆帯の両側に刺突文、	ナデ	I-2a	
19-75	-	LQ49	Ⅱ	深鉢	口縁部	口縁：半截竹管、刺突文、胎土：砂含む	刺突	I-2a	

第6表 捨て場出土土器観察表(3)

挿図番号	図版番号	出土地点	層位	器種	部位	外面	内面	分類	備考
19-76	-	LQ49	II	深鉢	-	半截竹管(格子状)	-	I-2a	
19-77	-	LT50	III	深鉢	口縁部	口縁: 押圧縄文、LR縄文(横位)	ナデ	I-2a	
19-78	-	LT50	III	深鉢	口頸部	口頸: 半截竹管・爪形文	ナデ	I-2a	
19-79	-	LT50	III	深鉢	口縁部	口縁: 半截竹管、胎土: 砂含む	-	I-2a	
19-80	-	LT50	III	深鉢	口縁部	口縁: 竹管文、胎土: 砂含む	-	I-2a	
19-81	-	MA50	III	深鉢	口縁部	口縁: 半截竹管、胴: LR縄文(横位)	ナデ	I-2a	
19-82	-	LT50	III	深鉢	口縁部	口縁: 隆帯と両側に沈線、竹管文、胎土: 砂含む	-	I-2a	
19-83	7-83	LT50	III	深鉢	胴部?	胴: 半截竹管による楕円形・波状文(縦)、LR縄文(横位)	ナデ	I-2a	北陸系の要素
20-84	-	LT50	II	深鉢	口縁部	口縁: 波状、山形突起(刻み隆帯で渦巻文)、隆帯(刻み目)、垂下する刻みのある粘土紐、LR縄文(横位)、平行沈線文、押圧縄文、胎土: 砂多量	渦巻状の粘土紐貼付・ナデ	I-2a	円筒土器の影響
20-85	-	MA51	II	深鉢	口縁部	口縁: 半截竹管・爪形文(馬蹄形)、LR縄文(横位)、隆帯に刻みあり	-	I-2a	
20-86	7-86	LT50	III	深鉢	口縁部	口縁: 竹管平行・波状文、連続爪形文、刻み状圧痕	ナデ	I-2a	
20-87	-	LS47	III	深鉢	口縁部	口唇: 粘土紐+刻み状側面圧痕、口縁: 平行沈線文、LR縄文(横位)、垂下する隆帯、胎土: 砂多量	ナデ	I-2a	円筒土器の影響
20-88	-	LS46	III	深鉢	口縁部	口唇: 隆帯+刻み状側面圧痕、口縁: 波状、LR縄文(横位)、平行沈線文、刻み状側面圧痕された隆帯、胎土: 砂含む	ナデ	I-2a	
20-89	7-89	MA51	III	深鉢	口縁部	口唇: 粘土紐、口縁: 平行沈線文、鋸歯文、爪形文	ナデ	I-2a	
20-90	-	LT50	III	深鉢	口縁部	口唇: 刻み状側面圧痕、口縁: 波状(山形突起)、垂下する隆帯+側面圧痕文(RL)、沈線による波状・弧状文、胎土: 砂多量	ナデ	I-2a	円筒土器の影響
20-91	-	MA51	III	深鉢	口縁部	口唇: 外側に開く、刻み目、口縁: 櫛目、圧痕文、胎土: 砂多量に含む	-	I-2a	
20-92	-	MA50	III	深鉢	口縁部	口縁: 交互刺突文、半截竹管、LR縄文(横位)、胎土: 砂多量	ナデ	I-2a	
20-93	-	MA51	III	深鉢	口縁部	口縁: 交互刺突文、平行沈線、LR縄文(横位)	-	I-2a	
20-94	7-94	MA50	III	深鉢	口縁部	口縁: 半截竹管、LR縄文(横位)	-	I-2a	
20-95	-	LS48	III	深鉢	口縁部	口縁: 平行沈線、爪形文	-	I-2a	
20-96	7-96	MA50	III	深鉢	口縁部	口縁: 平行沈線、交互刺突文、LR縄文(横位)	-	I-2a	
20-97	-	MB46	III	深鉢	口縁部	口唇: 肥圧、口縁: 刺突文、V字状の隆帯、隆線の両側に沈線、複合口縁	ナデ	I-2a	
20-98	-	MB52	III	深鉢		口縁: 隆線と両側の沈線による波状文(竹管)	ナデ	I-2a	
20-99	-	LT47	III	深鉢	口縁部	口縁: 半截竹管、磨滅	すず	I-2a	
20-100	-	LS46	III	深鉢	口頸部	口頸: 外反、鋸歯文、交互三角形刺突文、平行沈線、隆帯	ナデ	I-2a	
20-101	-	MA51	III	深鉢	口縁部	口縁: 隆帯(波状)に垂下、RL縄文(横位)	ナデ	I-2a	
20-102	7-102	LT51	III	深鉢	口縁部	口縁: 隆帯、隆線と沈線による三角形・弧状文、爪形文、胎土: 砂多量含む	ナデ	I-2a	
20-103	-	LT51	III	深鉢	口頸部	口頸: 平行沈線(縦)、胴: LR縄文(横位)、磨滅激しい、胎土: 砂含む	ナデ	I-2a	
20-104	-	MB52	II	深鉢	口頸部	口頸: 平行沈線(横)、胴: 沈線、磨滅激しい、胎土: 砂含む	ナデ	I-2a	
20-105	-	LS48	II	深鉢	口縁部~口頸部	口縁: 隆線と両側の沈線による波状・平行文(竹管)、隆帯	ナデ	I-2a	
20-106	-	LT51	II	深鉢	胴部	胴: 沈線による渦巻文、平行文、胎土: 砂含む	ナデ	I-2a	
20-107	-	LS48	II	深鉢	胴部	胴: LR縄文(横位)、隆帯(波状)	ナデ	I-2a	
20-108	-	LS48	III	深鉢	胴部	胴: LR縄文(横位)、垂下する隆帯(縄状、側面圧痕)、押圧縄文	ナデ	I-2a	
20-109	-	KQ57	III	深鉢	口縁部	口縁: LR縄文(横位)、垂下する隆帯	ナデ	I-2a	
21-110	-	LR48	III	深鉢	口縁部~胴部	口縁: 押圧縄文、刻み状押圧縄文、胴: LR縄文(横位)	ナデ	I-2b	
21-111	-	MA50	III	深鉢	口縁部~胴部	口唇: 肥圧、口縁: 側面圧痕による楕円形区画、胴: 羽状縄文	ナデ	I-2b	
21-112	-	MA50	III	深鉢	口縁部	口唇: 肥圧、口縁: 側面圧痕	ナデ	I-2b	
21-113	-	MA50	III	深鉢	口縁部	口唇: 肥圧、口縁: 内湾、隆帯と側面圧痕、胴: RL縄文(縦位)	ナデ	I-2b	



第7表 捨て場出土土器観察表(4)

挿図番号	図版番号	出土地点	層位	器種	部位	外面	内面	分類	備考
21-114	-	MB52	III	深鉢	口縁部	口縁：隆帯と側面圧痕の区画、渦巻文、LR縄文、胴：LR縄文(横位)、キャリパー形	ナデ	I-2 b	
21-115	-	MA50	III	深鉢	口縁部	口縁：側面圧痕によるW字文、胴：LR縄文(横位)、胎土：砂含む	ナデ	I-2 b	
21-116	-	MA50	III	深鉢	口縁部	口縁：隆帯と側面圧痕の区画、LR縄文(横位)、胴：RL縄文(横位)	ナデ	I-2 b	
21-117	-	LT50	II	浅鉢?	口縁部	口縁：隆帯と側面圧痕による区画、渦巻文、LR縄文(横位)	ナデ	I-2 b	
21-118	-	MB50	II	深鉢	口縁部	口縁：平行・横V字状の側面圧痕文、補修孔、胎土：砂含む	ナデ	I-2 b	
21-119	-	LT51	II	深鉢	口縁部	口縁：側面圧痕と隆帯による楕円形区画、山形突起	ナデ	I-2 b	
21-120	-	MB52	II	深鉢	口縁部	口唇：肥圧、口縁：隆帯と側面圧痕	ナデ	I-2 b	
21-121	-	MB53	II	深鉢	口縁部	口唇：肥圧、口縁：隆帯と側面圧痕	ナデ	I-2 b	
21-122	-	LM50	III	深鉢	口縁部	口縁：隆帯と側面圧痕の区画、LR縄文(縦位)、胎土：砂含む	ナデ	I-2 b	
21-123	-	MA51	III	深鉢	口縁部	口唇：肥圧、粘土紐貼付、口縁：隆帯と側面圧痕の区画、内部押圧縄文	ナデ	I-2 b	
21-124	-	LT51	III	深鉢	胴部	胴：渦巻懸垂文(側面圧痕)	ナデ	I-2 b	
21-125	-	MB52	III	深鉢	口縁部	口唇：肥圧、口縁：波状(山形突起)、側面圧痕と隆帯、胴：RL縄文(横位)、胎土：砂含む	ナデ	I-2 b	
21-126	-	LT51	III	深鉢	口縁部	口縁：波状、側面圧痕と隆帯、垂下する波状隆帯、押圧縄文、胎土：砂含む	ナデ	I-2 b	
21-127	-	LS47	III	深鉢	口縁部	口縁：波状、側面圧痕と隆帯、押圧縄文、胎土：砂含む	ナデ	I-2 b	
21-128	-	LS48	III	深鉢	胴部	胴：側面圧痕と隆帯、刻み状側面圧痕、LR縄文(横位)	ナデ	I-2 b	
21-129	-	LA59	III	深鉢	口縁部	口唇：肥圧、口縁：隆線による渦巻文、押圧縄文	ナデ	I-2 b	
21-130	-	MA49	III	深鉢	口縁部	口縁：隆帯上に縄文の側面圧痕、渦巻文	ナデ	I-2 b	
21-131	-	MA51	III	深鉢	胴部	胴：Y字状懸垂文、RL縄文(横位)	ナデ	I-2 b	
21-132	-	MA50	III	深鉢	口頸部?	口唇：肥圧、口縁：隆帯と側面圧痕	ナデ	I-2 b	
21-133	-	MA50	III	深鉢	口縁部	口縁：波状懸垂文、側面圧痕文	ナデ	I-2 b	
21-134	-	MA51	III	深鉢	口縁部	口唇：肥圧、無文、口縁：波状、側面圧痕、隆帯、胴：RL縄文(斜位)	ナデ	I-2 b	
21-135	-	LS48	III	深鉢	口縁部	口縁：側面圧痕文、口頸：隆帯と側面圧痕、地文：LR縄文(横位)	ナデ	I-2 b	
21-136	-	LS46	III	深鉢	口縁部	口唇：肥圧、無文、口縁：側面圧痕、隆帯、渦巻文、胎土：砂多量に含む	ナデ	I-2 b	
21-137	-	MA51	III	深鉢	口縁部	口縁：側面圧痕文、渦巻文、キャリパー形	ナデ	I-2 b	
21-138	-	MB52	III	深鉢	口頸部?	口頸：LR縄文(横位)、側面圧痕と波状隆線	ナデ	I-2 b	
21-139	-	MA51	II	浅鉢?	口縁部	口縁：平行側面圧痕文、胴：羽状縄文、胎土：砂含む	ナデ	I-2 b	
21-140	-	LT49	II	深鉢	口縁部	口縁：肥圧、平行側面圧痕文、胎土：砂含む	ナデ	I-2 b	
21-141	-	LT49	II	深鉢	口縁部	口縁：隆帯と側面圧痕の区画、LR縄文(横位)、ボタン状突起	ナデ	I-2 b	
22-142	8-142	LT51	II	深鉢	口縁部	口縁：山形突起、渦巻文、隆帯と側面圧痕の楕円形区画文、Y字状懸垂文、三角形文、RL縄文(横位)	ナデ	I-2 b	
22-143	-	LT51	II	深鉢	口縁部	口唇：肥圧、無文、口縁：山形突起、側面圧痕、渦巻文	ナデ	I-2 b	
22-144	-	LT51	II	深鉢	口縁部	口唇：肥圧、無文、口縁：山形突起、側面圧痕、渦巻文、楕円形区画文	ナデ	I-2 b	
22-145	-	LT51	III	深鉢	口縁部	口唇：肥圧、無文、口縁：山形突起、側面圧痕、渦巻文、楕円形区画文	ナデ	I-2 b	
22-146	-	MA51	III	深鉢	口縁部	口唇：肥圧、無文、口縁：山形突起、側面圧痕と隆帯による区画	ナデ	I-2 b	
22-147	-	MA50	III	深鉢	口縁部	口唇：肥圧、無文、口縁：山形突起、側面圧痕と隆帯による区画、RL縄文(横位)	ナデ	I-2 b	
22-148	-	MA50	III	深鉢	口縁部	口縁：側面圧痕と隆線の楕円形区画文、隆線によるY字状懸垂文、羽状縄文(横)、胎土：砂含む	ナデ	I-2 b	
22-149	-	MA50	III	深鉢	口縁部	口唇：肥圧、無文、口縁：波状(山形突起)、側面圧痕と隆帯による区画文、LR縄文(横位)	ナデ	I-2 b	
22-150	-	LS48	III	深鉢	胴部	胴：渦巻状懸垂文、刻み状圧痕文、側面圧痕と隆帯、LR縄文(横位)	ナデ	I-2 b	

第8表 捨て場出土土器観察表(5)

挿図番号	図版番号	出土地点	層位	器種	部位	外面	内面	分類	備考
22-151	-	LT48	III	深鉢	口縁部	口唇：肥圧、無文、口縁：山形突起、渦巻状懸垂文、刻み状圧痕文、側面圧痕と隆帯、LR縄文(斜位)	ナデ	I-2 b	
22-152	-	MA51	III	深鉢	口縁部	口唇：肥圧、口縁：山形突起、側面圧痕と隆帯、渦巻文、胎土：砂含む	ナデ	I-2 b	
22-153	8-153	LT48	III	深鉢	口縁部	口唇：肥圧、無文、口縁：山形突起、渦巻文、側面圧痕と隆帯、撚糸文	ナデ	I-2 b	
22-154	-	LT48	III	深鉢	口縁部	口唇：肥圧、無文、口縁：山形突起、渦巻状懸垂文、刻み状圧痕文、側面圧痕と隆帯、LR縄文(横位)	ナデ	I-2 b	
22-155	8-155	LT48	III	深鉢	口縁部	口唇：肥圧、口縁：山形突起、側面圧痕と隆帯、渦巻文、波状懸垂文、胎土：砂含む	ナデ	I-2 b	
23-156	-	MA50	II	深鉢	口縁部	口唇：肥圧、無文、口縁：波状(山形突起)、隆帯上に側面圧痕文、隆帯による渦巻文、胴：RL縄文(縦位)	ナデ	I-2 b	
23-157	-	MA50	II	深鉢	口縁部	口唇：肥圧、無文、口縁：隆帯と側面圧痕文、胴：LR縄文(横位)	ナデ	I-2 b	
23-158	8-158	LT48	III	深鉢	口縁部	口唇：肥圧、無文、口縁：隆帯と側面圧痕文による垂下するV字状文、胴：LR縄文(横位)	ナデ	I-2 b	
23-159	-	LT50	III	深鉢	口縁部	口唇：無文、口縁：波状(山形突起)、突起下から隆帯と側面圧痕文の懸垂文、胴：RL縄文(横位)	ナデ	I-2 b	
23-160	-	MB53	III	深鉢	口縁部～胴部	口縁：隆帯と側面圧痕文による区画、波状口縁、押圧縄文、LR縄文(横位)、胴：羽状縄文	ナデ	I-2 b	
23-161	-	MB52	III	深鉢	口縁部	口縁：隆帯と側面圧痕文、LR縄文(横位)、複合口縁	ナデ	I-2 b	
23-162	-	MB53	III	深鉢	口縁部	口縁：隆帯と側面圧痕文、突起、複合口縁	ナデ	I-2 b	
23-163	8-163	MA50	III	深鉢	口縁部	口唇：側面圧痕文、口縁：波状(山形突起)、隆帯と側面圧痕文による楕円形区画、胴：RL縄文(横位)	ナデ	I-2 b	
23-164	-	LS47	III	深鉢	口縁部	口唇：無文、口縁：波状(山形突起)、隆帯と側面圧痕文による区画、LR縄文(横位)、胎土：砂含む	ナデ	I-2 b	
23-165	-	MA50	III	深鉢	口縁部	口唇：無文、口縁：隆帯と側面圧痕文による区画、RL縄文(横位)、キャリパー形、胎土：砂含む	ナデ	I-2 b	
23-166	-	LS48	III	深鉢	口縁部	口縁：隆帯と側面圧痕文による楕円形区画、V字状文、胴：羽状縄文	ナデ	I-2 b	
23-167	-	LT50	III	深鉢	口縁部	口唇：肥圧、無文、口縁：波状(山形突起)、隆帯と側面圧痕文、RL縄文(横位)、胎土：砂含む	ナデ	I-2 b	
23-168	8-168	LT50	III	深鉢	口縁部	口唇：肥圧、無文、口縁：波状(山形突起)、隆帯と側面圧痕文、口頸：刻み目のある隆帯、胴：RL縄文(横位)、キャリパー形、胎土：砂含む	ナデ	I-2 b	円筒土器の影響
23-169	-	LT50	III	深鉢	口縁部	口縁：隆帯と側面圧痕文による区画、LR縄文(横位)	ナデ	I-2 b	
23-170	-	LT50	II	深鉢	口縁部	口唇：やや肥圧、無文、口縁：波状口縁、隆帯と側面圧痕、LR縄文(横位)	ナデ	I-2 b	
23-171	8-171	MA51	II	深鉢	口縁部	口唇：側面圧痕文、口縁：隆帯と側面圧痕文による楕円形区画、渦巻文、V字状モチーフ、胴：LR縄文(横位)	ナデ	I-2 b	
23-172	-	MA50	II	深鉢	口縁部	口縁：隆帯と側面圧痕文による楕円形区画、V字状文、渦巻文、キャリパー形	ナデ	I-2 b	
23-173	-	MG43	III	深鉢	口縁部	口縁：隆帯と側面圧痕文、三角形刺突文、弧状の懸垂文、RL縄文(横位)、キャリパー形?、胎土：砂含む	ナデ	I-2 b	
23-174	-	MA50	III	深鉢	口縁部～胴部	口縁：隆帯上に刻目状側面圧痕文、側面圧痕文によるモチーフ、胎土：砂含む	ナデ	I-2 b	円筒土器の影響
23-175	-	MA50	III	深鉢	胴部	胴：隆帯と側面圧痕文によるモチーフ、胎土：砂含む	ナデ	I-2 b	
23-176	-	MA51	III	深鉢	口縁部	口縁：隆帯と側面圧痕文による区画、RL縄文(斜位)、キャリパー形?、胎土：砂含む	ナデ	I-2 b	
24-177	-	LS48	III	浅鉢	口縁部～胴部	口縁：隆帯と側面圧痕文による楕円形区画、波状口縁、Y字状懸垂文、押圧縄文、胴：羽状縄文	ナデ	I-2 b	
24-178	-	LT50	III	深鉢	口縁部～胴部	口縁：隆帯と側面圧痕文による楕円形区画、波状口縁、押圧縄文、胴：LR縄文(横位)	ナデ	I-2 b	
24-179	4-179	MA50	III	深鉢	口縁部～胴部	口唇：肥圧、口縁：4波状口縁、側面圧痕文と隆帯による波状・弧状・平行のモチーフ、胴：羽状縄文	ナデ	I-2 b	

第9表 捨て場出土土器観察表(6)

挿図番号	図版番号	出土地点	層位	器種	部位	外面	内面	分類	備考
25-180	5-180	LT50	Ⅲ	深鉢	復元	口縁：外反、刻みを入れた粘土紐を波状に貼付、粘土紐(刻み)、懸垂状に平行な粘土紐、胴：LR縄文(縦位)、胎土：砂多量に含む	ナデ	I-2 b	円筒土器の影響
25-181	-	MA51	Ⅲ	深鉢	口縁部	口縁：波状口縁、渦巻文下に刻みがある小突起、側面圧痕文と隆帯による区画、LR縄文(縦位)	ナデ・すす状炭化物	I-2 b	
25-182	-	LL52	Ⅲ	深鉢	口縁部	口縁：隆帯と側面圧痕文、口頸：刻み目のある隆帯、胴：LR縄文(横位)、胎土：砂含む	ナデ	I-2 b	
25-183	-	LS47	Ⅲ	深鉢	口縁部	口縁：隆帯と側面圧痕文、胎土：砂含む	ナデ	I-2 b	
25-184	-	MB52	Ⅲ	深鉢	口縁部	口縁：隆帯と側面圧痕文、胎土：砂含む	ナデ	I-2 b	
25-185	-	MA50	Ⅲ	深鉢	口縁部 ~胴部	口唇：肥圧、口縁：4波状口縁、側面圧痕文と隆帯による波状・弧状・平行のモチーフ、胴：羽状縄文	ナデ	I-2 b	
25-186	-	KN60	Ⅲ	深鉢	口縁部	粘土紐によるC字状モチーフ、側面圧痕文と隆帯	ナデ	I-2 b	
25-187	-	LS47	Ⅲ	深鉢	口頸部	口縁：隆帯による渦巻文、側面圧痕文、口頸：無文、胴：側面圧痕文によるモチーフ	ナデ	I-2 b	
25-188	-	LT47	Ⅲ	浅鉢	口縁部 ~胴部	口縁：側面圧痕文による連続W字状文、胴：櫛目	ナデ	I-2 b	
25-189	8-189	LS48	Ⅱ	深鉢	口縁部	口縁部山形突起部分、菱形の側面圧痕による文様	ナデ・弧状文	I-2 b	
26-190	-	LT50	Ⅱ	深鉢	復元	口縁：側面圧痕文と粘土紐貼付、胴：LR縄文(横位)	ナデ	I-2 b	
26-191	-	MA50	Ⅱ	深鉢	復元	口縁：側面圧痕文と粘土紐貼付、胴：LR縄文(横位)	ナデ	I-2 b	
26-192	-	LT49	Ⅱ	深鉢	復元	口縁：外反、押圧縄文、胴：縦位綾絡文	ナデ	I-2 b	
26-193	-	MA51	Ⅱ	深鉢	口縁部 ~胴部	口縁：押圧縄文、RL縄文(横位)	ナデ	I-2 b	
27-194	5-194	MA46, 47	Ⅱ	深鉢	復元	本文中	ナデ	I-2 c	
27-195	-	LT47	Ⅱ	深鉢	口縁部	口縁：粘土紐貼付による横位の渦巻文、平行文、LR縄文(横位)、磨減激しい	-	I-2 c	
27-196	-	LT50	Ⅲ	深鉢	口縁部	本文中	ナデ	I-2 c	
27-197	8-197	MA51	Ⅱ	深鉢	口縁部	口縁部山形突起部分、粘土紐による弧状のモチーフ、中央に穿孔	ナデ	I-2 c	
27-198	-	LT50	Ⅱ	深鉢	胴部	胴：粘土紐による綾絡文、LR縄文(縦位)	ナデ	I-2 c	
27-199	-	LT48	Ⅱ	深鉢	口縁部	口唇：無文、肥圧、口縁：隆線と沈線による平行文、渦巻文、RL縄文、キャリパー形	ナデ	I-2 c	
27-200	5-200	LT50	Ⅱ	深鉢	口縁部 ~胴部	本文中	ナデ	I-2 c	
27-201	-	MA51	Ⅱ	深鉢	口縁部	口縁：隆線と沈線による平行文、渦巻文、LR縄文(横位)、キャリパー形	ナデ	I-2 c	
27-202	-	MA51	Ⅱ	深鉢	胴部	胴：粘土紐による弧状文、LR縄文(縦位)	ナデ	I-2 c	
27-203	-	MA51	Ⅰ	深鉢	口縁部	口縁：粘土紐貼付による横位の渦巻文、すす状炭化物、キャリパー形、胎土：砂含む	ナデ	I-2 c	
27-204	-	LS47	Ⅱ	深鉢	口縁部	口縁：粘土紐貼付による横位の渦巻文、胎土：砂含む	ナデ	I-2 c	
27-205	-	LS48	Ⅱ	深鉢	口縁部	口縁：粘土紐貼付、LR縄文(横位)、キャリパー形、胎土：砂含む	ナデ	I-2 c	
27-206	8-206	LS48	Ⅱ	深鉢	口縁部	口唇：無文、口縁：隆線と沈線による平行文、連続刺突文	ナデ	I-2 c	
27-207	-	MA51	Ⅱ	深鉢	口縁部	口縁：粘土紐貼付による横位の波状文、平行文	ナデ	I-2 c	
27-208	-	MA50	Ⅰ	深鉢	口縁部	口縁：隆線と沈線による平行文、連続刺突文	ナデ	I-2 c	
27-209	-	MA51	Ⅱ	深鉢	口縁部	口縁：山形突起、突起下から渦巻文、側面圧痕文	ナデ	I-2 c	
27-210	-	MA51	Ⅱ	深鉢	口縁部	口縁：隆線と沈線による平行文、連続刺突文、胎土：砂含む	ナデ	I-2 c	
28-211	-	MA51	Ⅱ	深鉢	口縁部	口縁：隆線と沈線による連続渦巻文、RL縄文(斜位)、キャリパー形	ナデ	I-2 d	
28-212	-	MA50	Ⅲ	深鉢	胴部	胴：渦巻状懸垂文、LR縄文(横位)	ナデ	I-2 d	
28-213	-	MA50	Ⅱ	深鉢	胴部	胴：渦巻状懸垂文、LR縄文(横位)	ナデ	I-2 d	
28-214	-	MA50	Ⅱ	深鉢	口頸部 ~胴部	口頸：粘土紐貼付、胴：粘土紐と沈線の平行・渦巻文、LR縄文(横位)	ナデ	I-2 d	
28-215	-	MA50	Ⅱ	深鉢	胴部	胴：隆沈線による平行文(縦)、胎土：砂含む	ナデ	I-2 d	
28-216	8-216	LS48	Ⅱ	深鉢	胴部	胴：沈線による渦巻文、弧線文、RL縄文(縦位)	ナデ	I-2 d	
28-217	-	LT50	Ⅱ	深鉢	口縁部	口縁：粘土紐貼付と沈線による渦巻文、波状口縁、補修孔	ナデ	I-2 d	

第10表 捨て場出土土器観察表(7)

挿図番号	図版番号	出土地点	層位	器種	部位	外面	内面	分類	備考
28-218	-	MA50	II	深鉢	口縁部	口縁：粘土紐貼付と沈線による横位渦巻文、LR縄文(縦位)、胎土：砂含む	ナデ	I-2 d	
28-219	9-219	MA50	II	深鉢	口縁部	口縁：粘土紐貼付と沈線による横位渦巻文、RL縄文(縦位)、胎土：砂含む	ナデ	I-2 d	
28-220	-	MA50	II	深鉢	胴部	胴：粘土紐の隆線と沈線による渦巻文、RL縄文(横位)	ナデ	I-2 d	
28-221	-	LS48	II	深鉢	胴部	胴：沈線による渦巻文、隆線と沈線の平行文、LR縄文(横位)	ナデ	I-2 d	
28-222	-	LK53	II	深鉢	口縁部	口縁：隆線と沈線、RL縄文(横位)、キャリパー形	ナデ	I-2 d	
28-223	-	LS46	II	深鉢	胴部	胴：渦巻状懸垂文、LR縄文(横位)	ナデ	I-2 d	
28-224	-	LT50	II	深鉢	胴部	胴：粘土紐の隆線と沈線による渦巻文、RL縄文(横位)、胎土：砂含む	ナデ	I-2 d	
28-225	-	LT50	II	深鉢	胴部	胴：渦巻状懸垂文、RL縄文(縦位)	ナデ	I-2 d	
28-226	-	LT50	II	深鉢	口縁部	口縁：粘土紐貼付と沈線による渦巻文、RL縄文(横位)、胎土：砂含む	ナデ	I-2 d	
28-227	-	LT50	II	深鉢	口縁部	口縁：波状口縁山形突起部分、沈線による渦巻文、胎土：砂含む	ナデ	I-2 d	
28-228	-	LT50	II	深鉢	胴部	胴：渦巻状懸垂文、RL縄文(横位)	ナデ	I-2 d	
28-229	-	LT50	II	深鉢	口縁部	口縁：粘土紐貼付と沈線による渦巻文、キャリパー形？、胎土：砂含む	ナデ	I-2 d	
28-230	-	LS48	II	深鉢	口縁部	口縁：粘土紐貼付と沈線による渦巻文、胎土：砂含む	ナデ	I-2 d	
28-231	-	LT50	II	深鉢	口縁部	口縁：粘土紐と沈線による渦巻文、区画文、胎土：砂含む	ナデ	I-2 d	
28-232	-	LT50	II	深鉢	胴部	胴：渦巻状懸垂文、LR縄文(横位)、胎土：砂含む	ナデ	I-2 d	
28-233	-	MA46, 47	II	深鉢	胴部	胴：粘土紐の隆線と沈線による平行文	ナデ	I-2 d	
29-234	-	MA50	II	深鉢	胴部	胴：粘土紐の隆線と沈線、渦巻文、RL縄文(斜位)	ナデ	I-2 d	
29-235	-	MA50	II	深鉢	口縁部～胴部	口縁：粘土紐と沈線による懸垂文、渦巻文、波状口縁、胴：RL縄文(横位)	ナデ	I-2 d	
29-236	-	MD45	II	深鉢	口縁部	口縁：粘土紐貼付と内部の沈線による渦巻文	ナデ	I-2 d	
29-237	8-237	MA50	II	深鉢	口縁部	口唇：肥圧、無文、口縁：粘土紐と沈線による渦巻文、波状口縁	ナデ	I-2 d	
29-238	8-238	MA50	II	深鉢	口縁部	口唇：肥圧、口縁：粘土紐と沈線による渦巻状突起、胴：LR縄文(縦位)、胎土：砂含む	ナデ	I-2 d	
29-239	-	MA50	II	深鉢	口頸部～胴部	口頸：円形刺突文、胴：隆線と沈線の渦巻文、RL縄文(縦位)、胎土：砂含む	ナデ	I-2 d	
29-240	-	LT51	III	深鉢	口縁部	口縁：隆線と沈線による渦巻文、区画文、波状口縁、キャリパー形、胎土：砂含む	ナデ	I-2 d	
29-241	9-241	LT51	II	深鉢	口頸部～胴部	口頸：粘土紐貼付、胴：粘土紐と沈線の懸垂状渦巻文(縦)、RL縄文(縦位)、キャリパー形、胎土：砂含む	ナデ・すす状炭化物	I-2 d	
29-242	-	LT51	II	深鉢	胴部	胴：粘土紐の隆線と沈線による懸垂状渦巻文、RL縄文(横位)	ナデ	I-2 d	
29-243	-	LT51	II	深鉢	口縁部	口縁：粘土紐と沈線による渦巻文、区画文、RL縄文(横位)	ナデ	I-2 d	
29-244	-	LT47	II	深鉢	胴部	胴：粘土紐と沈線による平行文、弧状文、LR縄文(縦位)、胎土：砂含む	ナデ	I-2 d	
29-245	-	LT51	II	深鉢	口縁部	口縁：粘土紐と沈線による渦巻文、区画文、磨滅している、LR縄文(縦位)	ナデ	I-2 d	
29-246	-	LT51	III	深鉢	口縁部	口唇：肥圧、口縁：山形突起、LR縄文(縦位)、粘土紐と沈線による渦巻文、やや外反	ナデ	I-2 d	
29-247	-	LT51	II	深鉢	口縁部	口縁：粘土紐と沈線による渦巻文、波状口縁、キャリパー形？、LR縄文(横位)、胎土：砂多量に含む	ナデ	I-2 d	
29-248	-	MA50	II	深鉢	口縁部	口縁：粘土紐の隆線と沈線による渦巻文、区画文、楕円形刺突文、キャリパー形	ナデ	I-2 d	
29-249	-	LS48	III	深鉢	胴部	胴：隆線両側に竹管による沈線、楕円・波状文、LR縄文(縦位)、胎土：砂含む	ナデ	I-2 d	
29-250	-	MA50	II	深鉢	口縁部	口縁：粘土紐と沈線による弧状文、区画文、磨滅している、補修孔、胎土：砂含む	ナデ	I-2 d	
29-251	-	LS48	II	深鉢	口頸部	口頸～胴：粘土紐と沈線の渦巻文、RL縄文(横位)、胎土：砂含む	ナデ	I-2 d	
29-252	-	MA50	II	深鉢	口縁部	口縁：粘土紐貼付と沈線による横位渦巻文、区画文、キャリパー形、胎土：砂含む	ナデ	I-2 d	
29-253	-	LP49	II	深鉢	口縁部	口唇：粘土紐貼付、口縁：粘土紐と沈線による渦巻文、RL縄文(斜位)	ナデ	I-2 d	
30-254	6-254	MA50	II	深鉢	復元	本文中	ナデ	I-2 d	
30-255	-	LT50	II	深鉢	口縁部	渦巻状突起	ナデ	I-2 d	

第11表 捨て場出土土器観察表(8)

挿図番号	図版番号	出土地点	層位	器種	部位	外面	内面	分類	備考
30-256	-	MA50	II	深鉢	口縁部	沈線と粘土紐による把手部分、中央部穿孔	ナデ	I-2 d	
30-257	-	LP50	II	深鉢	口縁部	粘土紐の渦巻文が施された橋状把手部分、胎土：砂多量に含む	-	I-2 d	
30-258	-	LT51	II	深鉢	口縁部	口縁：粘土紐による渦巻状突起、キャリパー形、波状口縁	ナデ	I-2 d	
30-259	-	LT51	II	深鉢	口縁部	口縁：粘土紐貼付と内部の沈線による渦巻文	ナデ	I-2 d	
30-260	-	LT47	II	深鉢	口縁部	渦巻文が施された橋状把手	ナデ	I-2 d	
30-261	-	LT51	II	深鉢	口縁部	渦巻状突起	ナデ	I-2 d	
30-262	-	LS48	II	深鉢	口縁部	渦巻状突起	ナデ	I-2 d	
30-263	-	LT51	II	深鉢	口縁部	口縁：隆線の両側に刺突文	ナデ	I-2 d	
30-264	-	MA50	II	深鉢	口縁部	口縁：粘土紐貼付と内部の沈線による区画文、刺突文、キャリパー形	ナデ	I-2 d	
30-265	-	LT51	II	深鉢	胴部	胴：粘土紐による弧状のモチーフ、RL縄文(横位)	ナデ	I-2 d	
31-266	-	LT47	II	深鉢	口縁部	口縁：粘土紐貼付、キャリパー形、磨滅激しい、補修孔	ナデ	I-2 d	
31-267	-	MA50	II	深鉢	口縁部	口唇：無文、口縁：隆線と沈線による平行文、連続刺突文、外反、LR縄文(横位)	ナデ	I-2 d	
31-268	-	MA50	II	深鉢	口縁部	口縁：粘土紐と沈線、磨滅している、連続刺突文	ナデ	I-2 d	
31-269	-	LT50	II	深鉢	口縁部	口縁：沈線による縦長の楕円形文、区画文、RL縄文(縦位)、胎土：砂含む	ナデ	I-2 e	
31-270	9-270	LT50	II	深鉢	口縁部	口縁：粘土紐による渦巻文、沈線による楕円形文、キャリパー形、胎土：砂含む	ナデ	I-2 e	
31-271	9-271	LT49	II	深鉢	口縁部	把手部分、3面に渦巻状のモチーフが展開する	ナデ	I-2 e	
31-272	-	LT49	II	深鉢	胴部	胴：粘土紐による円形文、沈線、RL縄文(横位)、磨滅激しい	ナデ	I-2 e	
31-273	-	LT48	II	深鉢	口縁部	粘土紐による渦巻状突起	ナデ	I-2 e	
31-274	-	LT49	II	深鉢	口縁部	口唇：突起、口縁：沈線による楕円形文、胎土：砂含む	ナデ	I-2 e	
31-275	6-275	LT50	II	深鉢	復元	本文中	ナデ	I-2 f	
31-276	-	MB52	II	深鉢	口縁部	口縁：連続刺突文、隆帯、胎土：砂多量に含む、RL縄文(縦位)、磨滅激しい	ナデ	I-2 f	
31-277	-	MA52	II	深鉢	口縁部	口縁：連続刺突文、隆帯、胎土：砂多量に含む、RL縄文(縦位)、磨滅激しい	ナデ	I-2 f	
31-278	-	MA52	II	深鉢	口縁部 ~胴部	口縁：連続刺突文、隆帯、胎土：砂多量に含む、胴：RL縄文(縦位)	ナデ	I-2 f	
31-279	-	MA52	II	深鉢	口縁部	口縁：連続刺突文、隆帯、胎土：砂多量に含む、胴：RL縄文(縦位)	ナデ	I-2 f	
31-280	-	MB52	I	深鉢	口縁部	口縁：連続刺突文、隆帯、胎土：砂多量に含む、RL縄文(縦位)、磨滅激しい	ナデ	I-2 f	
32-281	-	LT47	II	深鉢	口縁部	口縁：沈線による平行文(縦・横)、RL縄文(横位)	ナデ	II	
32-282	-	LT50	II	深鉢	胴部	胴：RL縄文(横位)、沈線によるU字状文、キャリパー形、胎土：砂含む	ナデ	II	
32-283	-	LT51	II	深鉢	口縁部	口縁：隆沈線、刺突文、胎土：砂含む	ナデ	II	
32-284	-	LT47	II	深鉢?	胴部	胴：沈線による楕円形文、平行文、孤線文、LR縄文(縦位)	ナデ	II	
32-285	-	LS47	II	深鉢	胴部	胴：LR縄文(斜位)、沈線、胎土：砂含む	ナデ	II	
32-286	-	MB52	II	深鉢?	胴部	胴：弧状沈線、磨消縄文、胎土：砂含む	ナデ	II	
32-287	-	LS48	II	深鉢	胴部	胴：弧状沈線、磨消縄文、胎土：砂含む	ナデ	III	
32-288	-	LS46	II	深鉢	胴部	胴：LR縄文(縦位)、沈線による楕円形文、胎土：砂含む	ナデ	III	
32-289	-	MB52	II	浅鉢	口縁部 ~胴部	口唇：刻み、口縁：雲形文、隆沈線、胴：磨消縄文、胎土：砂多量に含む	ナデ	III	
32-290	-	L050	II	深鉢?	口縁部	隆線と沈線による平行文、磨消縄文、焼成悪い	ナデ	III	
32-291	-	MB52	II	浅鉢?	口縁部	口唇：突起、口縁：隆沈線、無文、胎土：砂含む	ナデ	III	
32-292	-	MA50	II	浅鉢?	口縁部	口縁：隆沈線、連続爪形文、雲形文、胎土：砂含む	ナデ	III	
32-293	-	MA46	II	浅鉢	口縁部 ~胴部	口縁：隆沈線、刺突文、胎土：砂含む	ナデ	III	
32-294	-	MB52	I	深鉢	胴部	胴：RL縄文(縦位)、磨滅激しい、胎土：砂多量含む	ナデ	IV	

第12表 捨て場出土土器観察表(9)

挿図番号	図版番号	出土地点	層位	器種	部位	外面	内面	分類	備考
33-295	6-295	LT48	II	深鉢	口縁部 ~胴部	本文中	ナデ	IV	
33-296	-	MA51	II	深鉢	胴 ~ 底部	本文中	ナデ	IV	
33-297	-	LT49	II	深鉢	胴部	胴：LR縄文(縦位)、隆線と沈線による連続渦巻文	ナデ	IV	
33-298	-	LT51	II	深鉢	口縁部	口縁：波状の沈線、粘土紐貼付、磨滅激しい、胎土：砂含む	ナデ	IV	
33-299	-	MA51	II	深鉢	口縁部	口縁：櫛目、波状口縁	ナデ	IV	
33-300	-	LT51	III	深鉢	胴部	胴：櫛目	ナデ	IV	
33-301	-	MA51	II	深鉢	口縁部	口縁：粘土紐と沈線による平行文、RL縄文(横位)	ナデ	IV	
33-302	-	MA51	II	深鉢	口縁部	口縁：粘土紐と沈線による平行文、LR縄文(横位)	ナデ	IV	
33-303	-	MA47	II	深鉢	口縁部	口縁部吊手状把手	ナデ	IV	
33-304	-	MA51	III	深鉢	口縁部	口縁：櫛目、波状口縁	ナデ・ 櫛目	IV	
33-305	-	MA51	II	深鉢	口縁部	口縁部突起部分、刻みあり	ナデ	IV	
33-306	-	LT50	II	深鉢	口縁部	本文中	ナデ	IV	
33-307	-	KM56	IV	深鉢	口縁部	口縁：連続刺突文(縦・横)、隆線上に側面圧痕文	ナデ	IV	
33-308	-	LT49	II	深鉢	口縁部	口縁：刻目状側面圧痕文+隆帯、押圧縄文、RL縄文(横位)	ナデ	IV	
33-309	-	MA52	II	深鉢	口縁部	口縁：RL縄文(縦位)、刺突文	ナデ	IV	
33-310	-	MA52	II	深鉢	口縁部	粘土紐による波状文、LR縄文(横位)、胎土：砂多量に含む	ナデ	IV	
33-311	-	MA52	II	深鉢	口縁部	粘土紐貼付、波状文	ナデ	IV	
33-312	-	LS48	II	深鉢	口縁部	口縁：粘土紐による波状文	ナデ	IV	
33-313	-	LT50	II	深鉢	口縁部	口縁：隆帯、角状突起、LR縄文(縦位)	ナデ・ 穿孔	IV	
33-314	-	LS47	II	深鉢	口縁部	口縁：爪形状圧痕文、ボタン状突起、胎土：砂多量に含む	ナデ	IV	
34-315	-	LT50	II	深鉢	底部	羽状縄文、無文底面	ナデ	-	
34-316	-	KS56	II	深鉢	底部	LR縄文(縦位)、無文底面	ナデ	-	
34-317	-	MA52	II	深鉢	底部	無文底面	ナデ	-	
34-318	-	LT52	II	深鉢	底部	LR縄文(縦位)、網代痕	ナデ	-	
34-319	-	LT49	II	深鉢	底部	無文底面	ナデ	-	
34-320	-	MA50	II	深鉢	底部	無文底面	ナデ	-	
34-321	-	MA50	II	深鉢	底部	無文底面	ナデ	-	
34-322	-	ME52	II	深鉢	底部	無文底面	ナデ	-	
34-323	-	MA50	II	深鉢	底部	無文底面	ナデ	-	
34-324	-	MA50	II	深鉢	底部	無文底面	ナデ	-	
34-325	-	LT51、 MA51	II	深鉢	底部	網代痕	ナデ	-	

第13表 捨て場出土土器製品観察表

挿図番号	図版番号	遺物No	出土地点	層位	器種	器長(mm)	器幅(mm)	器厚(mm)	特徴	備考
35-326	-	326	LS48	II	版状土偶	64	74	17		
35-327	-	327	MA47	III	土偶	49	32	30	土偶の足と思われる	SR84
35-328	9-328	328	LB56	II	円盤状土器	44	43	17		耳飾り?
35-329	9-329	329	MC46, 45	II	円筒状土製品	70	49			
35-330	-	330	LM50	II	有孔土製品	34	28.5	11		

310・311・312)、②櫛歯状条痕文が施されるもの(299・300・303)、③平行な隆線と両側の沈線によるもの(301・302)、④隆帯上に刺突文が施されたもの(307・308・314) などがある。

復元土器である295は縦位R L縄文を全体に施文した深鉢形土器である。296は胎土に大量の砂粒を含み、かなり磨滅しているが地文に縦位L R縄文が施文された深鉢形土器である。305・306は波状口縁山形突起部分で粘土紐が貼り付けられ、305は山形突起内部を穿孔し、306は内側に刻目状の線刻が見られる。

土器底部：(第34図315～325)

315は羽状縄文が施文される。316は縦位R L縄文が施されている。318は縦位L R縄文、321はやや裾広がりになる底部を持ち、横位L R縄文が横位に施される。底部の編物圧痕では、318・325は網代痕、他は無文底面である。

土製品：(第35図326～330、図版9)

捨て場出土の土製品は版状土偶、土偶の足部分、円盤状土製品、円筒状土製品、有孔土製品の5点である。326は版状土偶の破片であり、線刻による細かな文様が施され、ほぼ中心にへそと思われる突起が付いている。327は土偶の足の部分だと思われ、3本の隆線が付く。328の円盤状土製品は両面の最外部、内部中心付近に模様を持つ。329は円筒状土製品であり、内側部分に入組み状の沈線が施されている。

## 2 石器・石製品

全調査区から見つかった石器・石製品は154点で、これに剥片などの細片が加わる。過去の土地造成や耕作等により細片になったものもあるようである。また、出土地域はほぼ調査区全域に及ぶが、土器・土製品と同様に捨て場からの出土頻度が最も高い。出土層位はⅡ～Ⅲ層がほとんどである。

ここでは捨て場出土の中からその器種ごとに特徴を記述する。

(1)石鏃：(第36図1～23、図版9)

基本的に長さ5cm未満の尖頭部と基部とを作出した剥片石器を石鏃として扱った。

基部と先端部の形状より、Ⅰ類：凹基無茎式〔凹部の大(Ⅰ-a：2・4・10)小(Ⅰ-b：1・3・5・7・8)で細分〕、Ⅱ類：平基無茎式(6・9)、Ⅲ類：凸基有茎式〔先端部が丸みを帯びるもの(Ⅲ-a：21・22)先端部が尖るもの(Ⅲ-b：11～20)〕、Ⅳ類：凸基無茎式(23)に分かれる。4・14・16・21は基部付近に天然アスファルトが付着している。27点出土しており、全石器中の割合は19%で最も高い。23点掲載した。

(2)搔器：(第37図24～32、図版10)

比較的厚手の大小の剥片の一部に、裏面からの二次加工によって急角度をなす分厚い刃部を作出した石器である。Ⅰ類：剥片の一端に刃部を作出したもの(25・26・29・31・32)、Ⅱ類：全周に加撃し、円形に刃部を作出したもの(27・28・30)に2分類した。9点出土した。

(3) 削器：(第37図33～40)

大小の剥片の側縁に連続的な二次調整によって刃部を作出した石器で、二次調整は片面からだけのものが多い。刃部の形状等から、Ⅰ類：細長い剥片の両側縁に弧状もしくは直線状の刃部を作出したもの(33・38・39)、Ⅱ類：不整な楕円形・円形、三角形の剥片の側縁に弧状の刃部を作出したもの(34～37・40)に2分類した。8点出土した。

(4) 石匙：(第38図41～50・第39図51～54、図版10)

基本的に素材剥片の一端に、両側からの二次加工により抉りを入れて、ツマミ部を作出し、片面からの加撃によって刃部が作られた石器である。器中軸線あるいは刃部(側縁)と、ツマミの中軸線の交わる角度によってⅠ類：横型石匙(41～43・46・47)、Ⅱ類：斜型石匙(44・45)Ⅲ類：縦型石匙(48～54)に3分類した。14点出土している。

(5) 篋状石器：(第39図55～60、図版10)

平面形が撥形あるいは短冊形・小判形の各種の所謂「へら」状であり、刃部が作出されたもので、器中軸線で左右対称となり断面形は凸レンズ状である。平面形と刃部平面形状の直刃・丸刃、側面形状の両刃・片刃により、Ⅰ類：平面形が撥形で、直刃・両刃(56)、Ⅱ類：平面形が撥形で、直刃・片刃(59)、Ⅲ類：平面形が撥形で、丸刃・両刃(58)、Ⅳ類：平面形が短冊形で、直刃・片刃(55・57)に3分類した。60は丸刃・片刃であるが、破損しており、平面形が不明である。9点出土している。

(6) 石錐：(第39図61～64、図版10)

先端部の断面が菱形や凸レンズ状になる石器である。Ⅰ類：ツマミが先端に付くもの(61・64)、Ⅱ類：棒状の形態のもの(62)、Ⅲ類：剥片の一部を尖らせて刃部としているもの(63)に3分類した。4点出土している。

(7) 石槍：(第40図65～73、図版10)

篋状石器と類似し分別が困難なものがあるが、先端部と形態による違いにより4分類した。Ⅰ類：木葉形で基部が丸味をもち、幅広で断面形が凸レンズ状であるもの(65・71)、Ⅱ類：木葉形で先端部・基部ともに尖り、表裏とも丁寧な押圧剥離が加えられ、幅が狭く、断面形が凸レンズ状であるもの(66・67・68)、Ⅲ類：棒状で先端部・基部ともに丸く、断面が凸レンズ状であるもの(69・70)、Ⅳ類：先端部・基部が破損しているもの、小型のもの(72・73)である。15点出土している。11点掲載した。

(8) 打製石斧：(第40図74)

撥形の円刃・弱凸強平片刃の石斧である。2点出土している。1点掲載した。

(9) 半円状扁平打製石器：(第41、42図75～87、図版11)

半円状あるいは細長く、扁平もしくは断面逆三角形の礫を素材として、下辺部に機能面を有している石器である。素材の加工部位から7類に分類した。Ⅰ類：素材の1縁辺を打ち欠き刃部としたもの(75・



77・80)、Ⅱ類：素材の1縁辺を打ち欠き刃部とし、側縁に抉りを入れたもの(76・78)、Ⅲ類：素材の1縁辺を擦ったもの(79)、Ⅳ類：素材の下側縁を擦り他の1～2側縁に抉りを入れたもの(81・86)、Ⅴ類：素材の下側縁を擦り他の3側縁を打ち欠き、表裏面を研磨するもの(85)、Ⅵ類：素材の下側縁の一部を擦り他の側縁を打ち欠いたもの(84・87) Ⅶ類：素材の全側縁を打ち欠いたもの(87)である。13点出土している。

(10) 磨石・凹石：(第43～45図88～107、図版11)

自然礫を利用し、「擦る、潰す」といった機能が考えられる石器群である。使用痕によって機能別分類されるが、複合するものも多く、より使用頻度の多いと考えられる機種に含めた。

磨石：(第43図、88～93)

平面形は円形・楕円形である。90は使用面に僅かな凹みが見受けられる。6点出土している。

凹石：(第44、45図94～107)

礫材の面に敲打による凹みを有するもので、Ⅰ類：凹み面が片面のみ、Ⅱ類：凹み面が両面の2分類したが、さらに凹みが1カ所(Ⅰ-a)、2ヶ所以上(Ⅰ-b)のもの、さらに使用面が片面擦られ凹みが1カ所(Ⅰ-c)、使用面が片面擦られ凹みが2ヶ所以上(Ⅰ-d)、使用面が両面擦られ凹みが1カ所(Ⅰ-e)、使用面が両面擦られ凹みが2ヶ所以上のもの(Ⅰ-f)に細分した。Ⅰ類-d、Ⅱ類-c、Ⅱ類-d、Ⅱ類-e、Ⅱ類-fは磨石と凹石の複合と思われる。14点出土している。(Ⅰ類-a：103・105・107、Ⅰ類-d：95、Ⅱ類-a：101・104・106、Ⅱ類-b：102、Ⅱ類-c：96、Ⅱ類-d：94・97、Ⅱ類-e：98、Ⅱ類-f：99・100)

(11) 磨製石斧：(第46、47図108～119、図版11)

打製石斧に比して数が多いが、完形品は少ない。形態が確認できるもののほとんどが側面が平坦な、いわゆる定角式石斧である。素材には緑色凝灰岩、凝灰岩等が用いられ、在地産の可能性のあるものが多い。制作方法と刃部形状から2類7細分した。Ⅰ類：擦切技法により切断・研磨して製作したもので、直刃・弱凸強凸片刃(Ⅰ-a：116)、円刃・両凸刃(Ⅰ-b：113)、円刃・弱凸強凸片刃(Ⅰ-c：112・115・117)、円刃・片凸刃(Ⅰ-d：119)、偏刃・弱凸強凸片刃(Ⅰ-e：118)、刃部破損(Ⅰ-f：108～110)に細分した。Ⅱ類：礫を打撃・研磨して製作したもので、円刃・両凸刃(Ⅱ-a：111)、刃部欠損(Ⅱ-b：114)に細分したが、使用による刃潰れが見られるものもある。12点出土している。

(12) 石錘：(第47図120～124)

平面形が楕円形あるいは円形のほぼ扁平な礫を素材とし、両面から打ち欠きののち敲打を行って抉りを完成させた礫石錘と呼ばれるもので3類に分類した。Ⅰ類：楕円形の素材の短軸の両端に抉りを入れるもの(120・121・123)、Ⅱ類：楕円形の素材の短軸の片端を打ち欠くもの(122)、Ⅲ類：楕円形の素材の長軸の両端打ち欠くもの(124)がある。122は表面が穿孔されており、漁労用の錘としての用途ではなく、浮子等に使われていた可能性もある。5点出土している。

(13) 浮子：（第47図125・126）

比較的丸い石の中央部、又はその周辺を穿孔している。素材は軽石、頁岩製のものである。2点出土している。

(14) 石皿：（第48、49図127～132）

大型で扁平な自然礫を利用しており、中央を凹めた皿形の石器である。火熱を受けた痕跡が見られるものが2点ある。使用面の形状から、Ⅰ類：使用面が浅い皿状にくぼんではいるが、縁取りされていないもの(127・128・131・132)、Ⅱ類：使用面の縁辺が立ち上がり、明確に縁取りされているもの(129・130)に2分類した。6点出土している。

(15) 石冠状石製品：（第49図133・134、図版12）

基底部は不整な楕円形又は方形で、133は側面、基底部に僅かな凹みが認められる。全面が研磨されており、断面形は三角形に近い形状を取る。2点出土している。

(16) 磨製石製品：（第50図135、図版12）

握り部と思われる上位の細長い部分に円形の凹みが作られている。刃部の一部が欠損しているが、ほぼ全面が磨かれている。形態的に磨製石斧又はハンマーに近い形状であると思われるが、装飾と思われる加工がなされていることから、儀器的な使用が想定される。1点出土している。

(17) 垂飾品：（第50図136、図版12）

全面に磨きがかけられている。やや撥形の形態で先端部両側に抉りが認められる。裏面には浅い盲孔が認められ、ケツ状耳飾である可能性がある。1点出土している。

(18) 石刀：（第50図137、図版12）

一側縁が刃となり、通常内反りとなるものである。大部分が破損しており、全体の形状はわかりにくい。1点出土している。

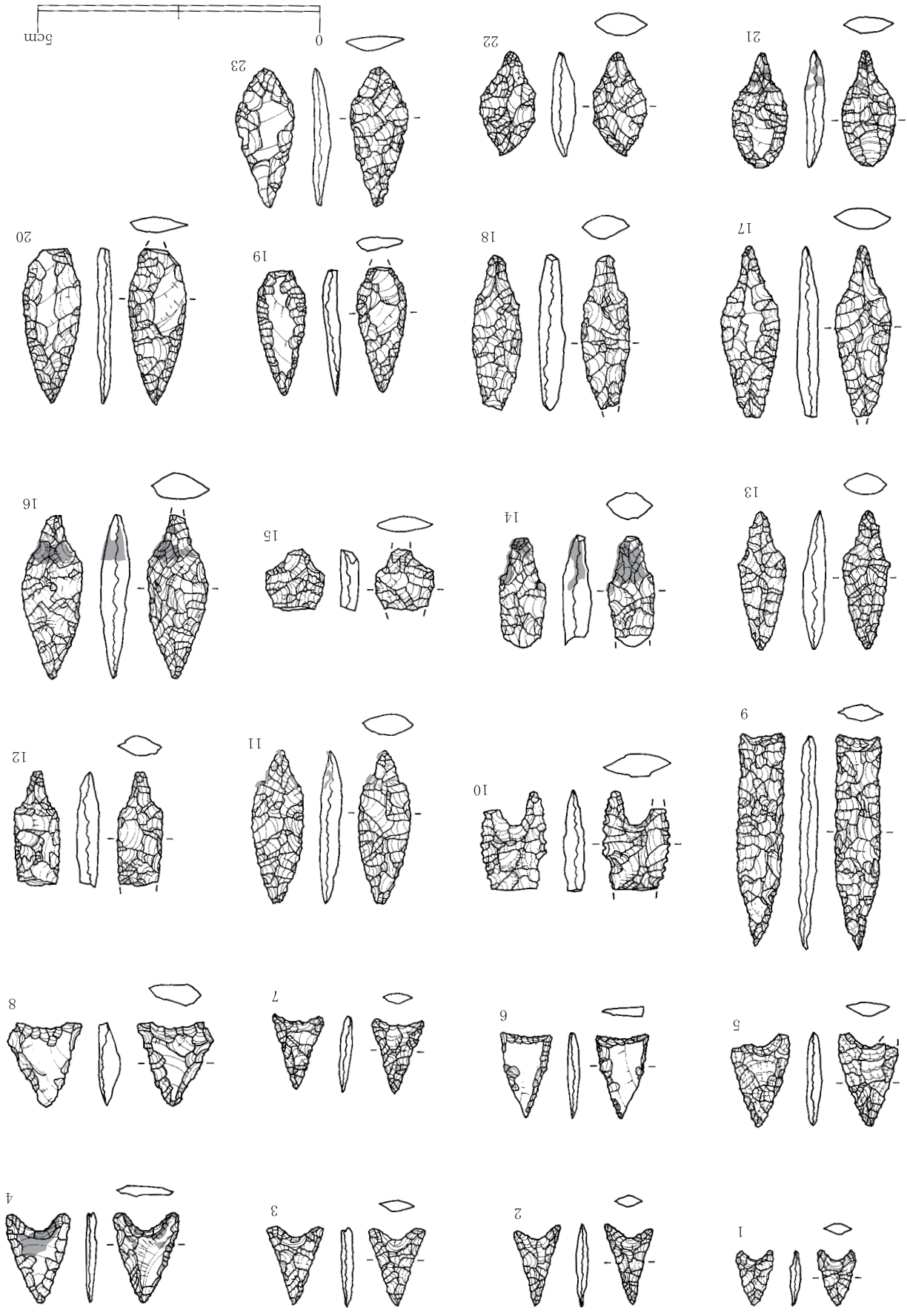
(19) 青竜刀形石器：（第50図138、図版12）

破損しているが、全面が磨かれている。刃状部の一部と思われ、幅がやや広い。断面形は砲弾状である。1点出土している。

(20) 異形石器：（第50図139、図版12）

両面に剥離加工が及んでいる。大小のツマミを持つ。1点出土した。

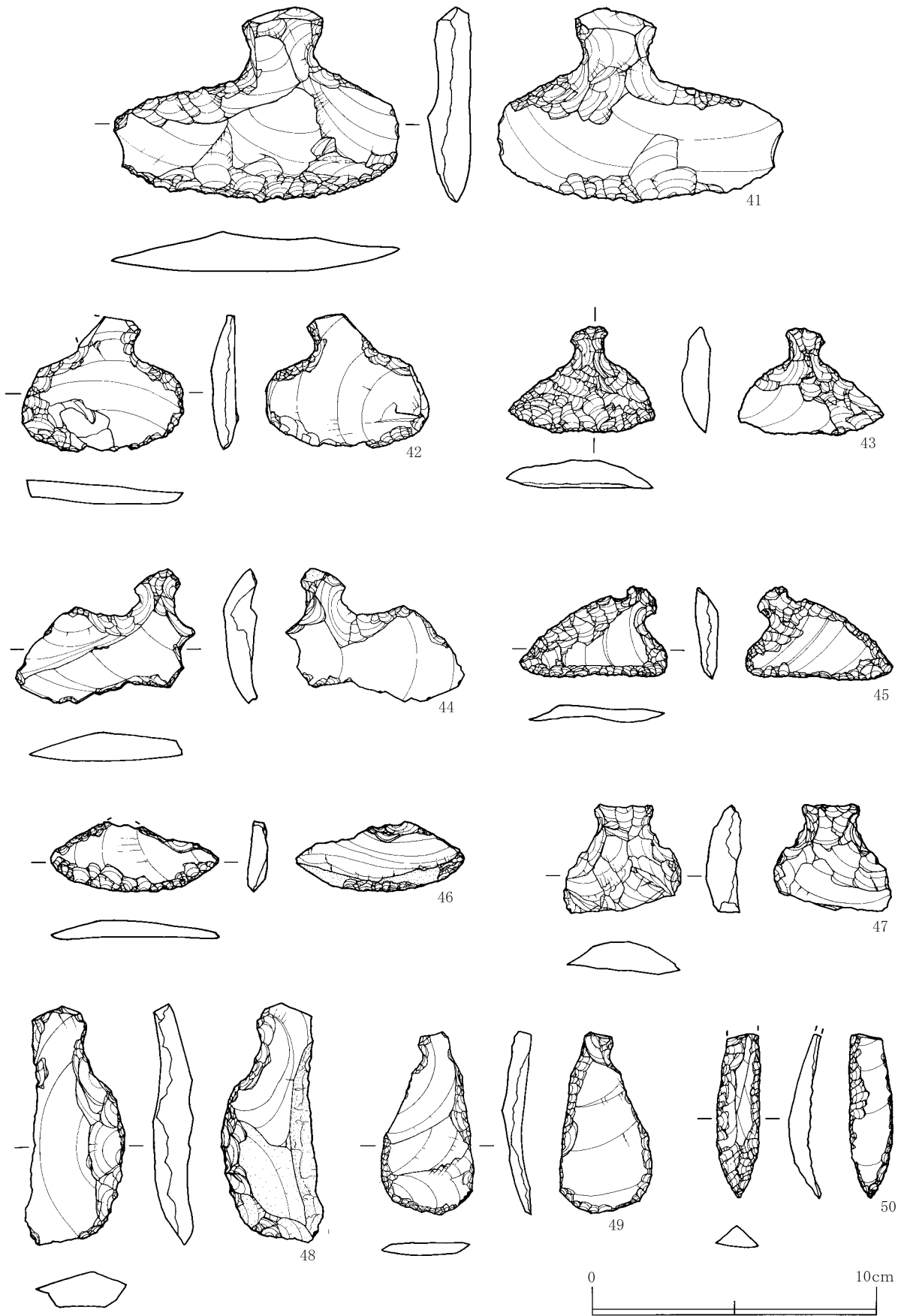
第36図 捨て場出土石器(1)



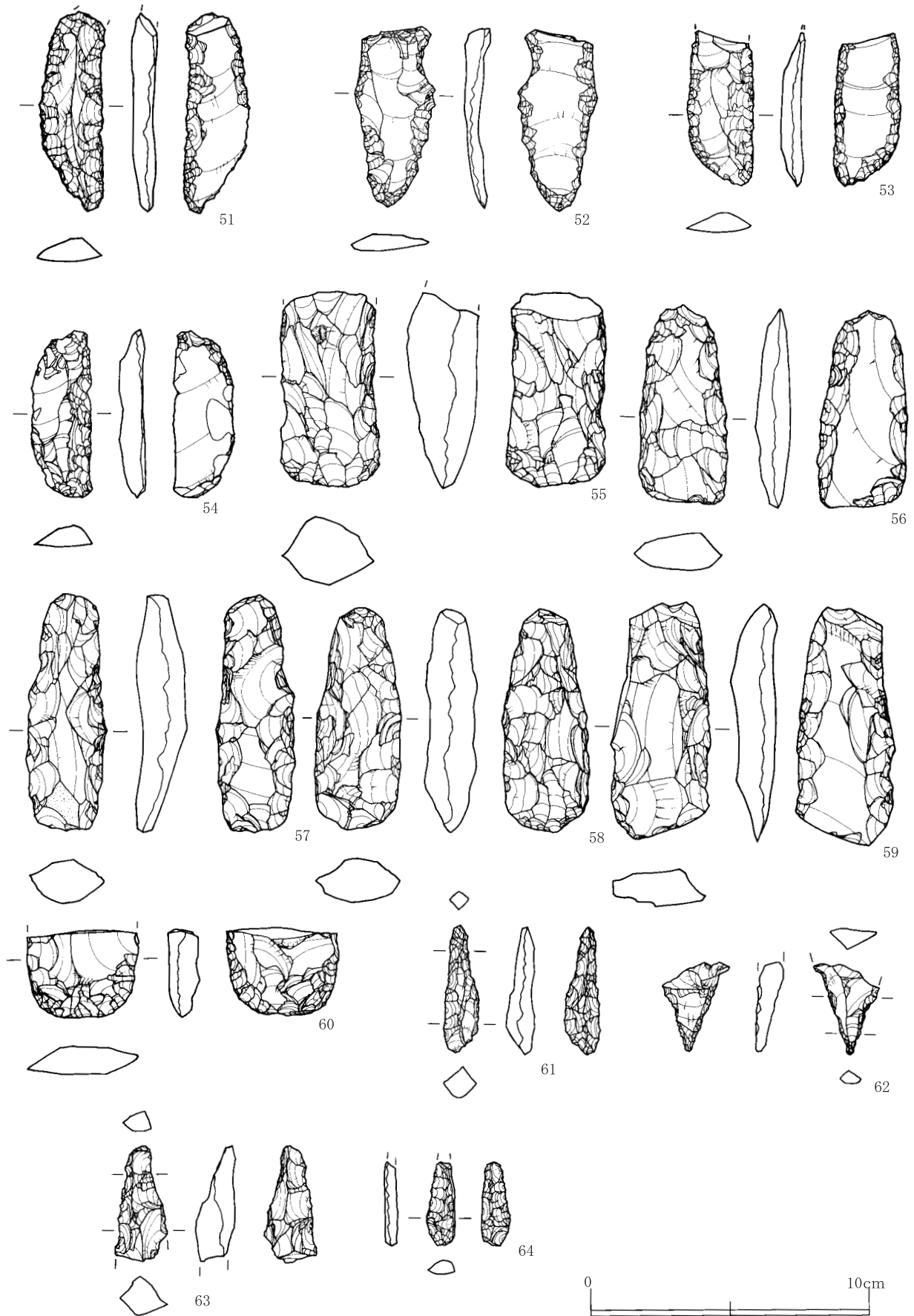
第3節 捨て場出土遺物



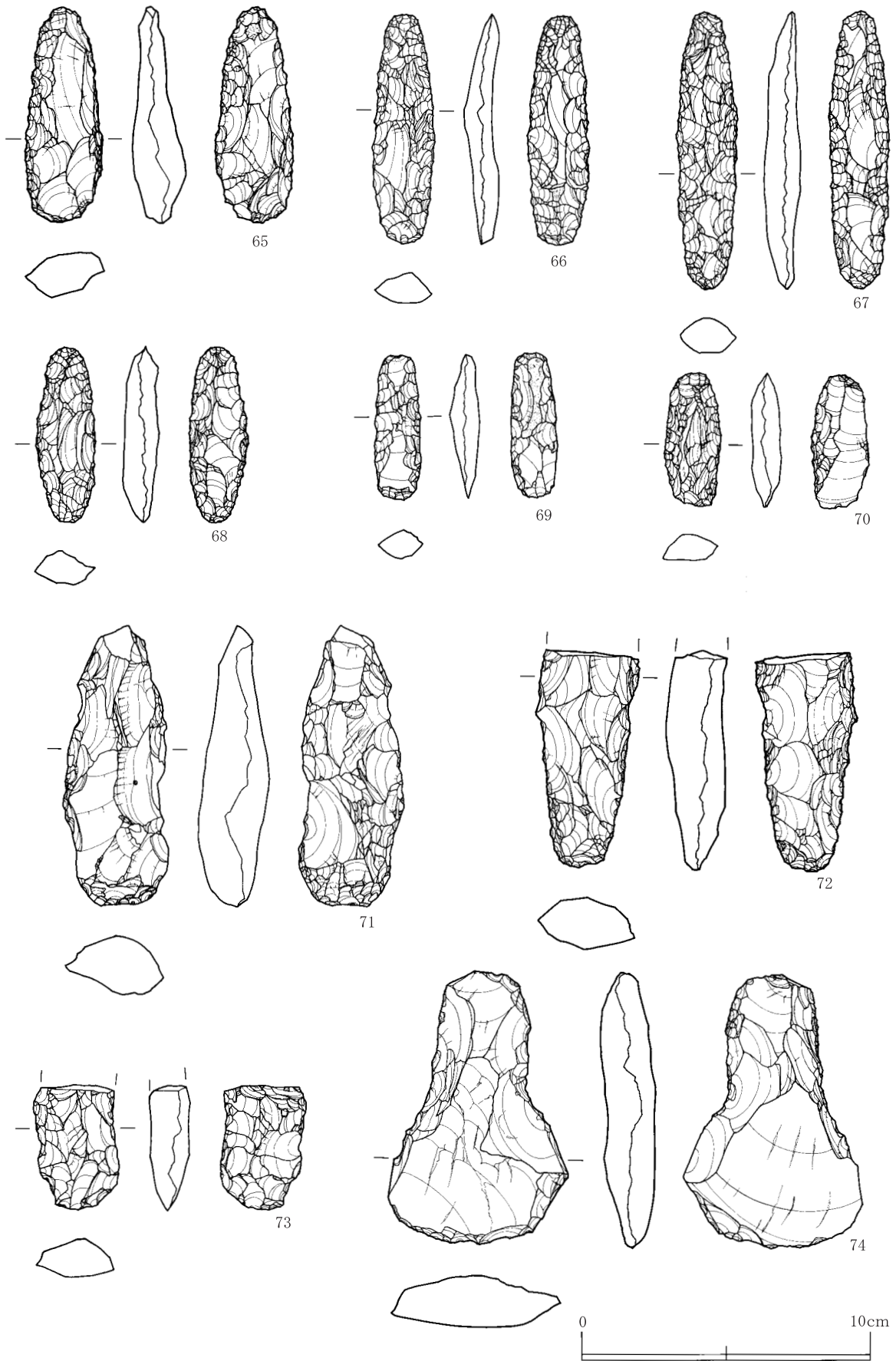
第37図 捨て場出土石器(2)



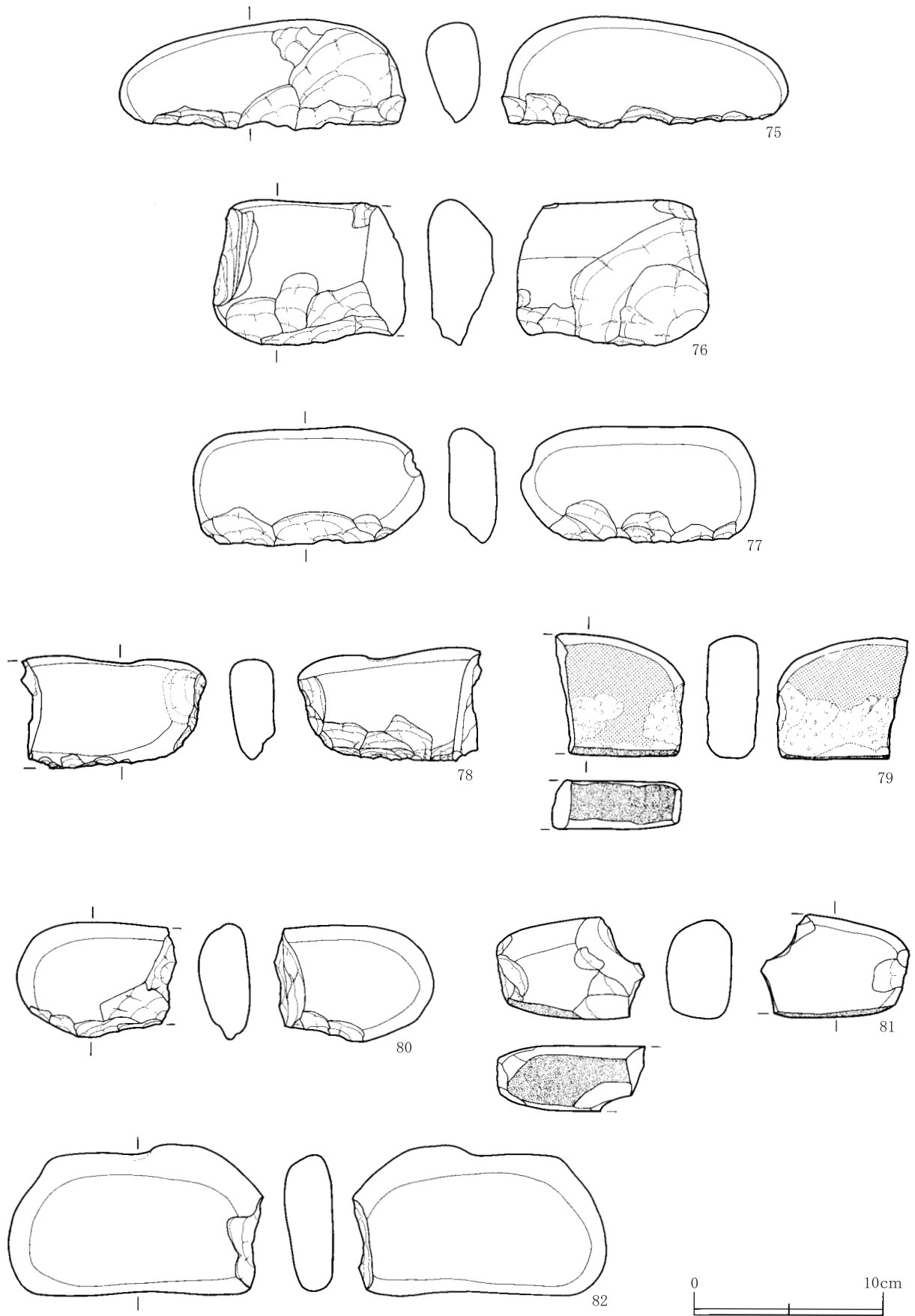
第38図 捨て場出土石器(3)



第39図 捨て場出土石器(4)

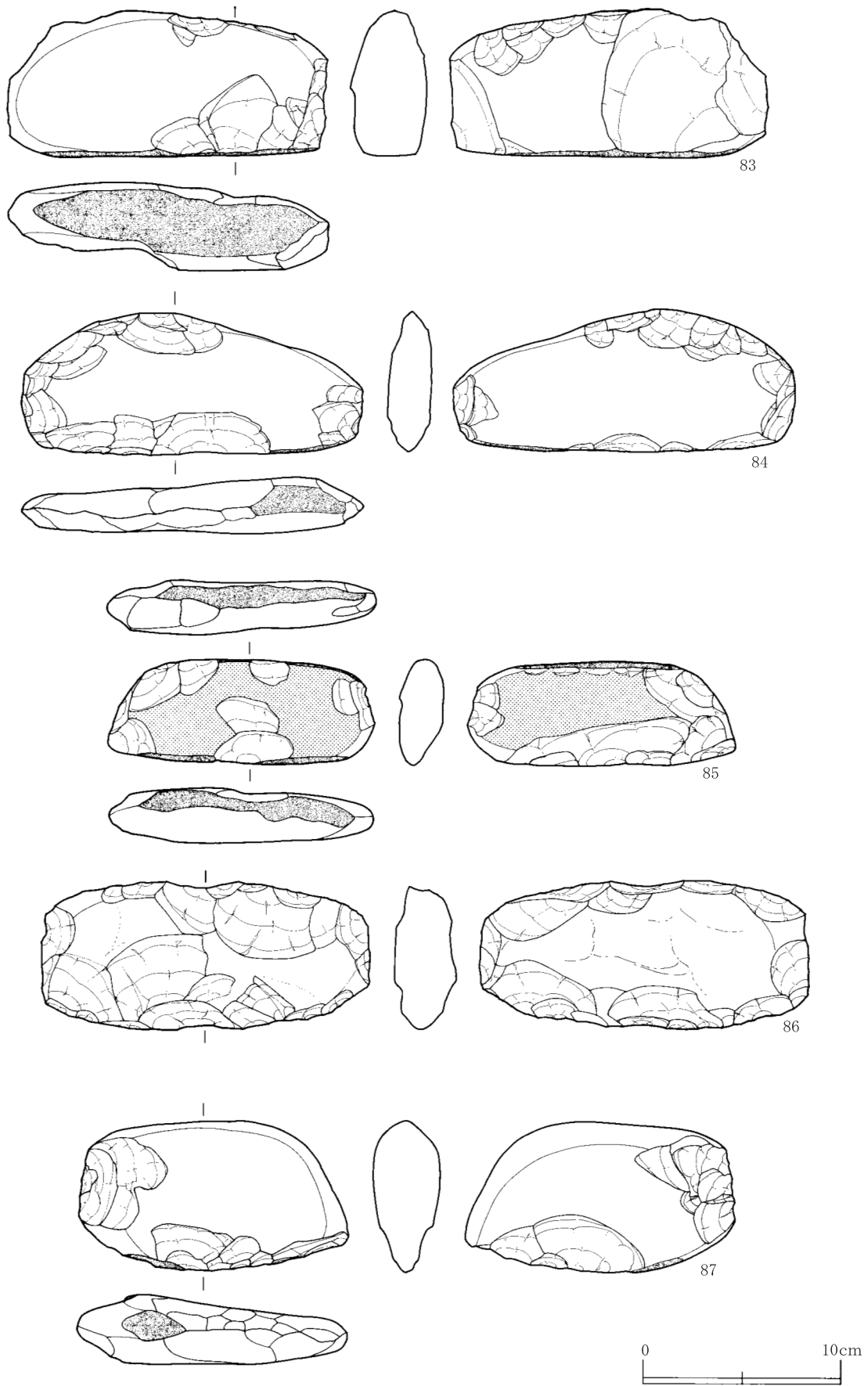


第40図 捨て場出土石器(5)

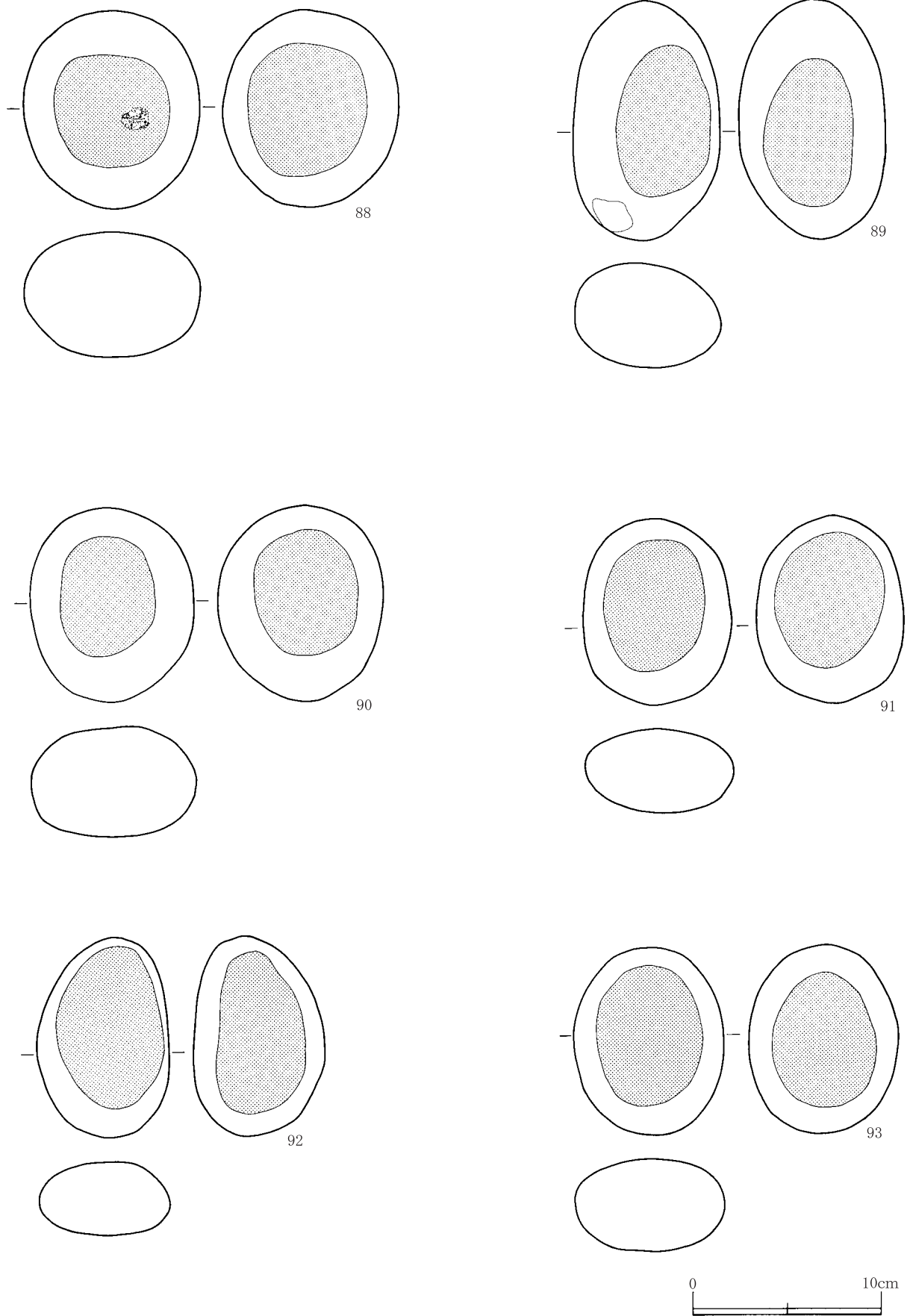


第41図 捨て場出土石器(6)



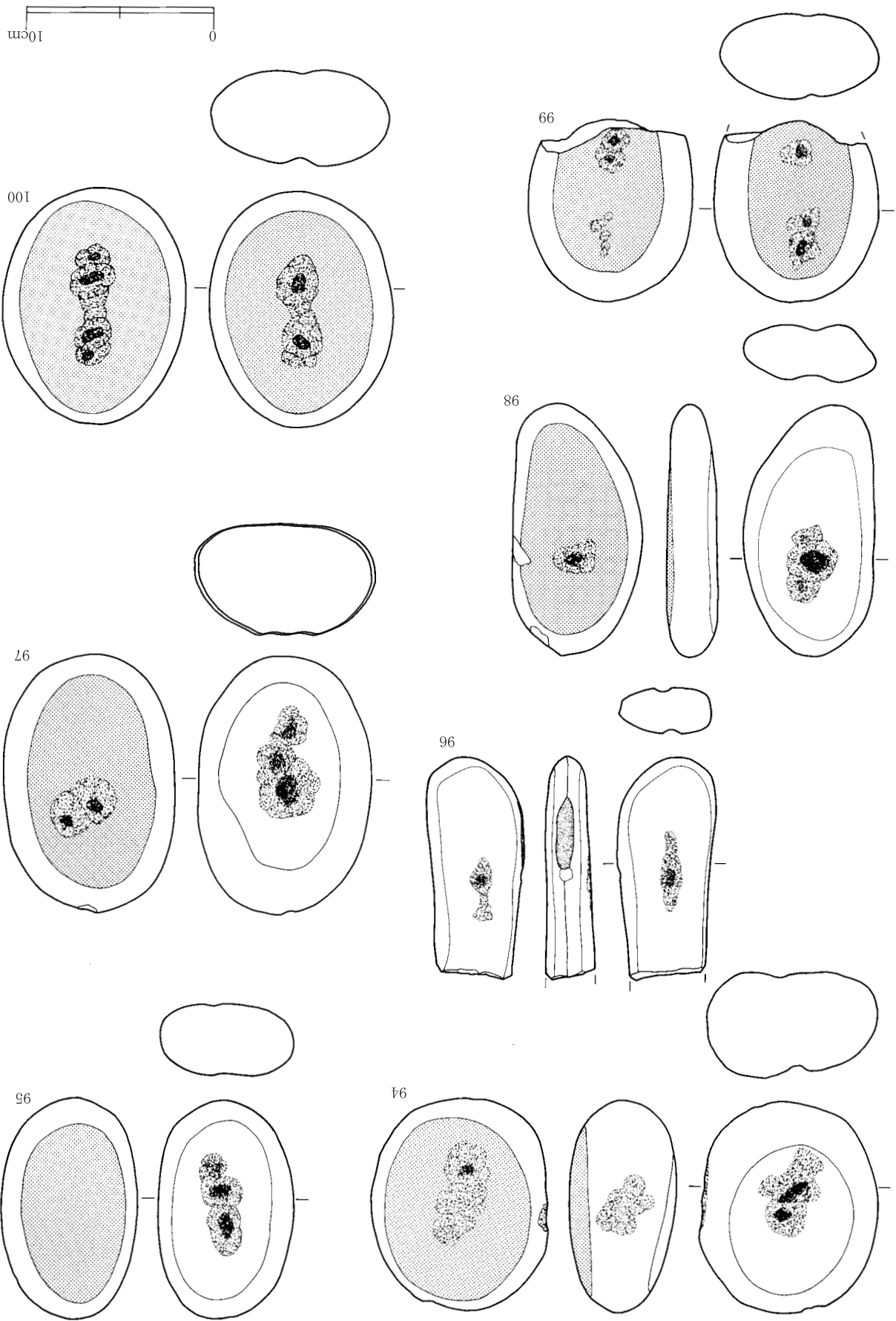


第42図 捨て場出土石器(7)

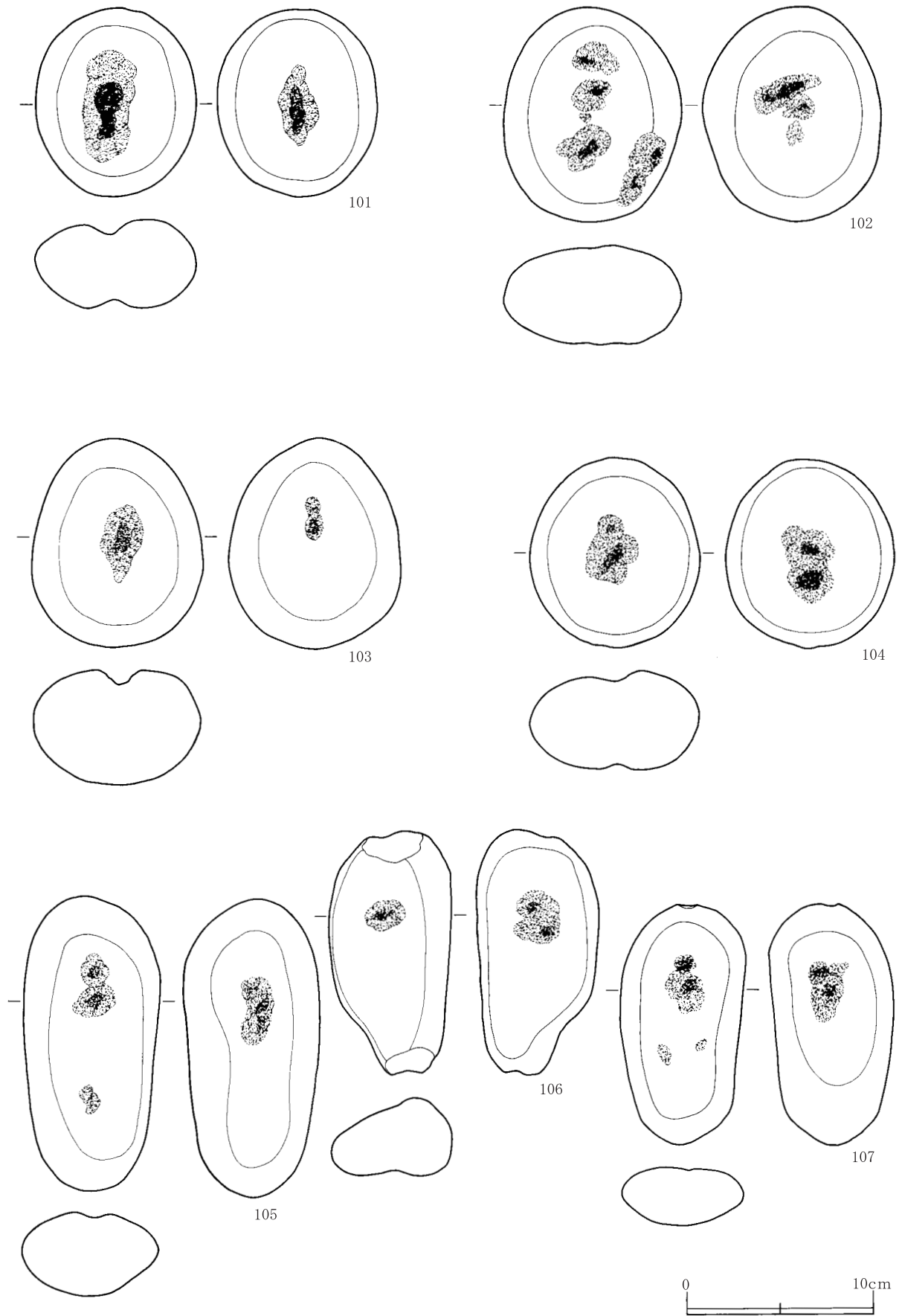


第43図 捨て場出土石器(8)

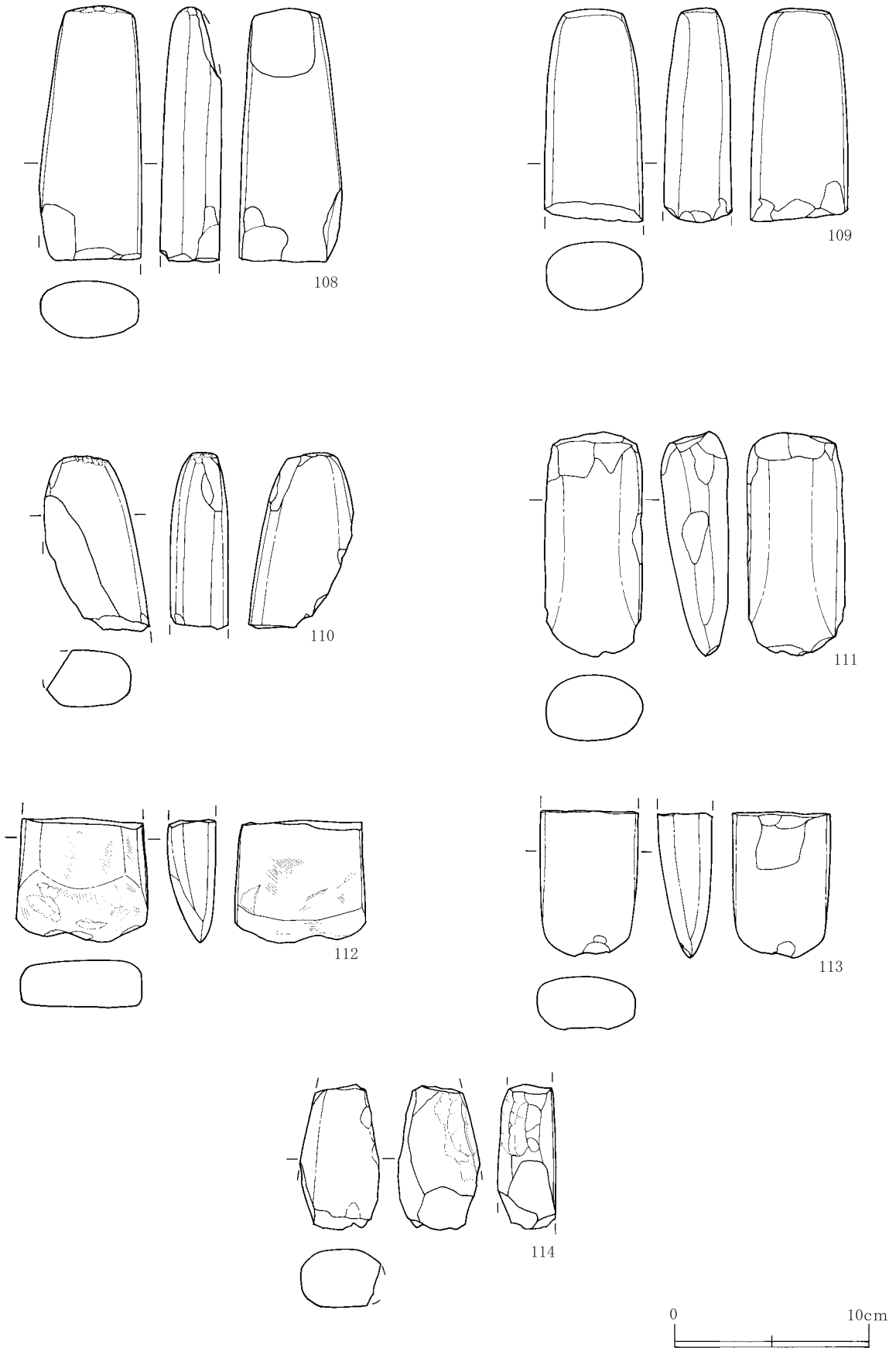
第44図 捨て場出土石器(9)



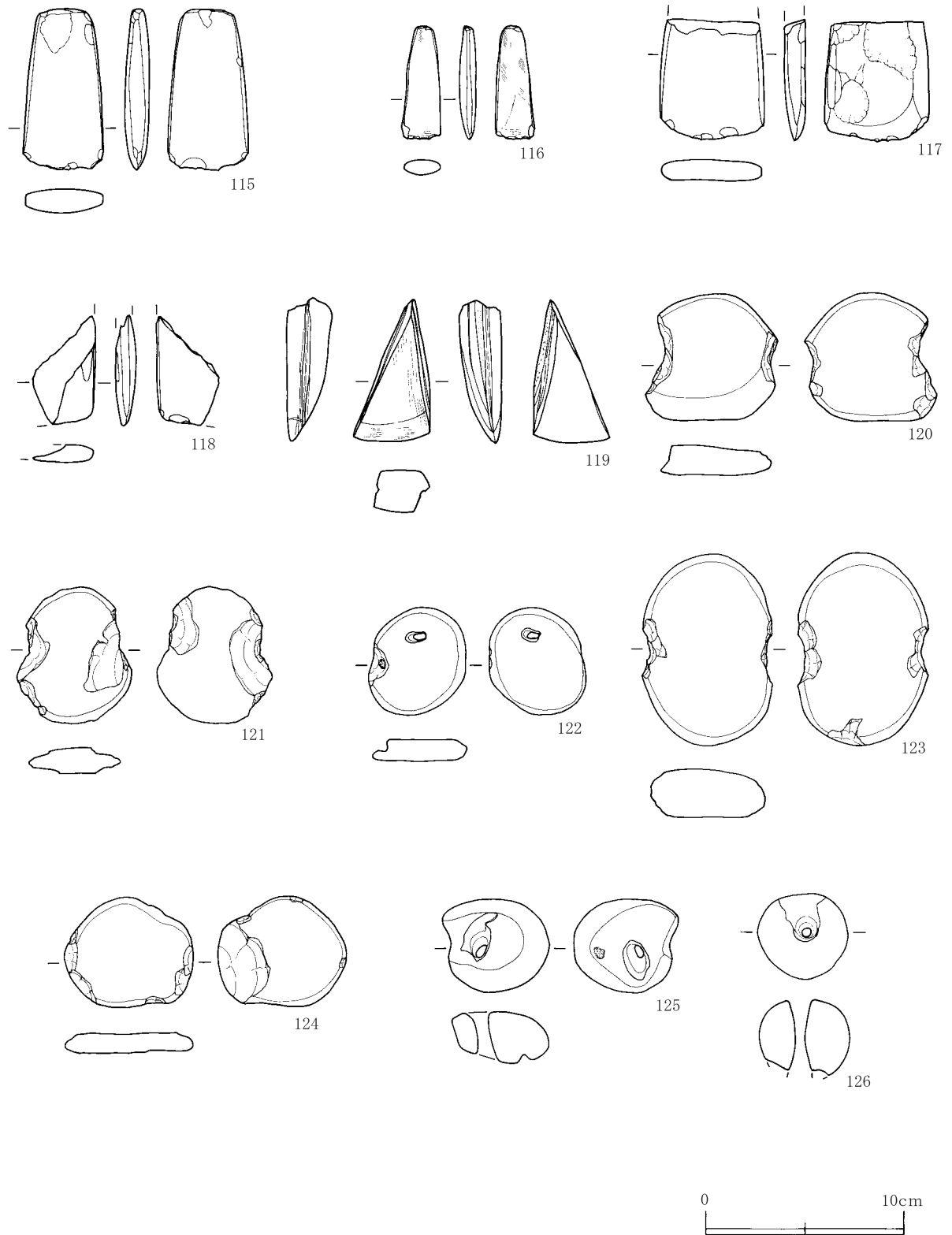
第3節 捨て場出土遺物



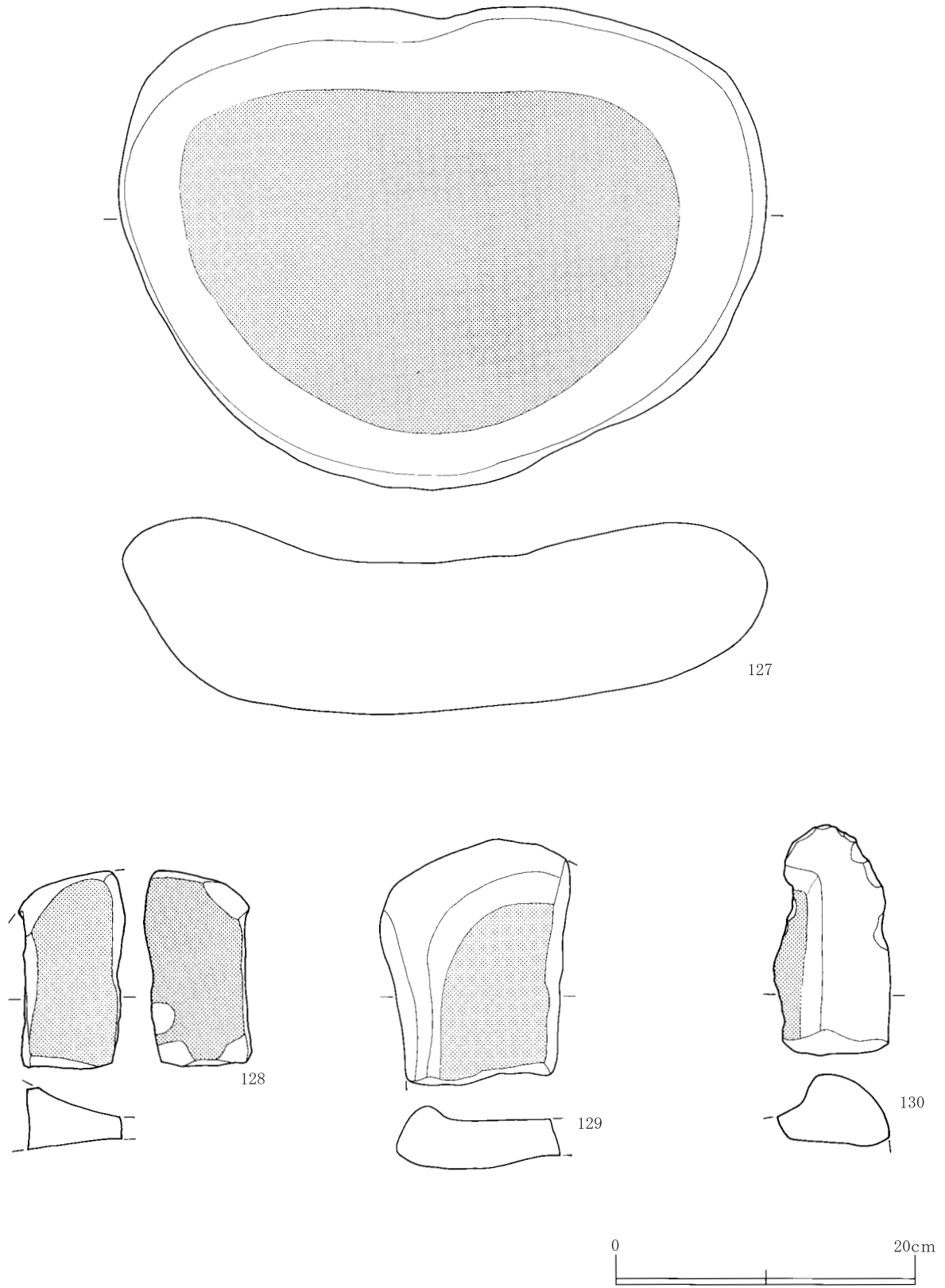
第45図 捨て場出土石器(10)



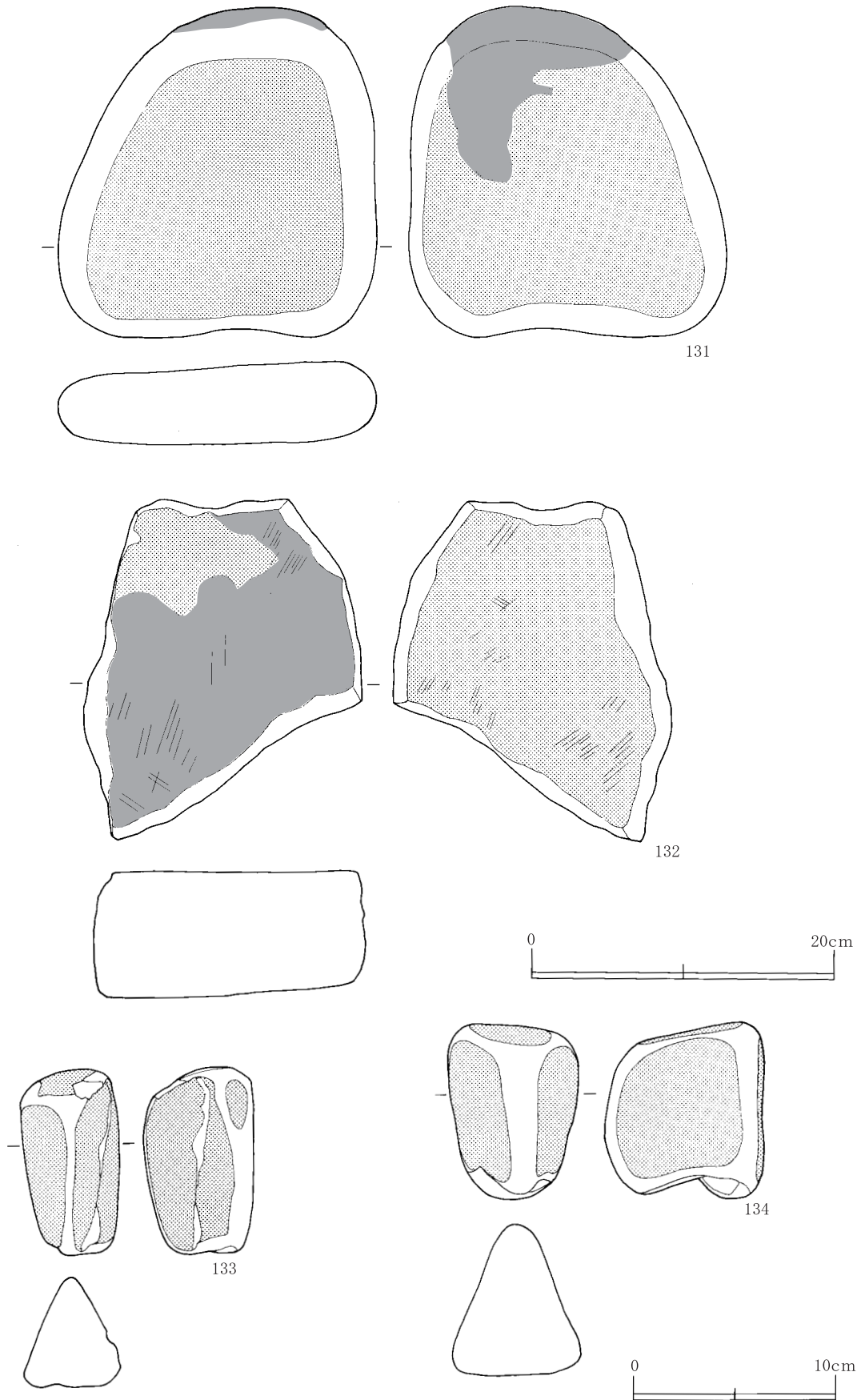
第46図 捨て場出土石器(11)



第47図 捨て場出土石器(12)

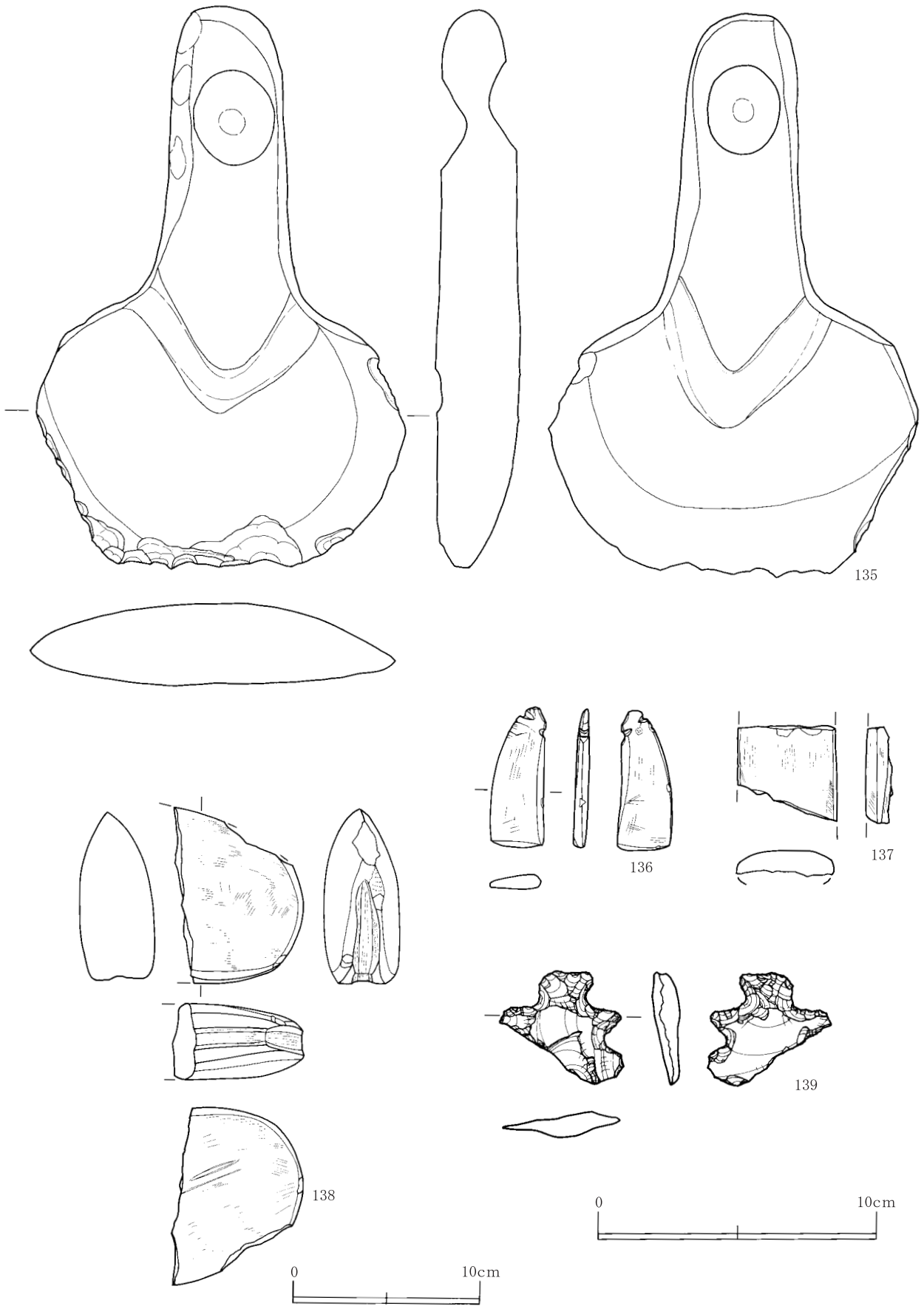


第48図 捨て場出土石器(13)



第49図 捨て場出土石器(14)





第50図 捨て場出土石製品

第14表 捨て場出土石器観察表(1)

挿図番号	図版番号	出土地点	層位	器種	器長(mm)	器幅(mm)	器厚(mm)	重量(g)	石質	備考
36-1	—	LA52	Ⅲ	石鏃	15	10	3	0.5	貢岩	
36-2	9-2	LT49	Ⅲ	石鏃	22	13	4	0.6	貢岩	
36-3	9-3	LT49	Ⅲ	石鏃	21	15	3	1.2	貢岩	
36-4	9-4	LT50	Ⅲ	石鏃	24	12	2	1.6	貢岩	
36-5	—	LT49	Ⅲ	石鏃	25	16	4	1.7	貢岩	
36-6	—	LT49	Ⅲ	石鏃	20	14	3	3.0	貢岩	
36-7	9-7	LT50	Ⅱ	石鏃	20	15	4	0.6	貢岩	
36-8	—	MA51	Ⅱ	石鏃	23	20	5	0.8	貢岩	
36-9	—	L050	Ⅲ	石鏃	57	13	4	0.3	貢岩	
36-10	—	LA52	Ⅳ	石鏃	21	17	6	2.5	貢岩	先端欠・長脚鏃
36-11	9-11	MD55	Ⅱ	石鏃	41	14	5	4.2	貢岩	アスファルト付着
36-12	—	MA51	Ⅲ	石鏃	31	12	6	1.6	貢岩	先端部欠損
36-13	9-13	MA51	Ⅲ	石鏃	37	8	6	1.9	貢岩	
36-14	—	MA51	Ⅲ	石鏃	29	12	8	2.6	貢岩	アスファルト付着
36-15	—	LT50	Ⅱ	石鏃	11	11	4	1.3	貢岩	茎・先端部欠損
36-16	9-16	KN60	Ⅲ	石鏃	44	16	8	3.4	貢岩	アスファルト付着
36-17	9-17	MA51	Ⅳ	石鏃	46	15	6	3.3	貢岩	先端部欠損
36-18	—	LC55	Ⅲ	石鏃	42	13	6	7.3	貢岩	先端部欠損
36-19	—	LA52	Ⅲ	石鏃	33	13	4	2.3	貢岩	茎部欠損
36-20	—	MN70	Ⅱ	石鏃	42	15	4	2.6	貢岩	茎部欠損
36-21	—	LS48	Ⅲ	石錐	30	15	6	2.2	貢岩	アスファルト付着
36-22	—	MA51	Ⅲ	石鏃	27	14	6	2.2	貢岩	
36-23	9-23	K055	Ⅲ	石鏃	37	16	4	2.5	貢岩	
37-24	10-24	LS47	Ⅲ	搔器	129	60	20	103.4	貢岩	
37-25	10-25	LA52	Ⅲ	搔器	114.5	58	27	159.4	貢岩	
37-26	—	MB53	Ⅲ	搔器	57	30	15	17.3	貢岩	
37-27	10-27	LT49	Ⅲ	搔器	127	126	72	146.6	貢岩	
37-28	—	MA49	Ⅲ	搔器	101	48	20	71.9	貢岩	
37-29	10-29	LN52	Ⅲ	搔器	64	84	17	57.1	貢岩	
37-30	10-30	MA50	Ⅲ	搔器	68.5	49	17	61.4	貢岩	
37-31	—	LT49	Ⅲ	搔器	68	29	12.5	28.7	貢岩	
37-32	10-32	LS47	Ⅲ	搔器	54	77.5	16	41.6	貢岩	
37-33	—	MA50	Ⅲ	削器	67	31	10	17.6	貢岩	
37-34	—	MA50	Ⅲ	削器	34	10.5	45.5	16.5	貢岩	
37-35	—	LN51	Ⅲ	削器	54	63.5	9.5	23.2	貢岩	
37-36	—	LT50	Ⅱ	削器	40	33	5	6.0	貢岩	
37-37	—	LM52	Ⅲ	削器	38	55	10	21.2	貢岩	
37-38	—	LS47	Ⅲ	削器	38.5	28	10.5	10.9	貢岩	
37-39	—	LJ53	Ⅲ	削器	49	23	7.5	8.2	貢岩	
37-40	—	LS48	Ⅲ	削器	23	35	9	7.8	貢岩	
38-41	10-41	LT49	Ⅲ	石匙	69	100	15	72.0	貢岩	横型
38-42	10-42	KP61	Ⅲ	石匙	47.5	57	9	20.3	貢岩	横型 つまみ部欠損
38-43	10-43	LS47	Ⅲ	石匙	38	51	10	13.2	貢岩	横型
38-44	—	KQ53	Ⅲ	石匙	47	63	12	22.9	貢岩	横型
38-45	10-45	LJ52	Ⅲ	石匙	33	52	8	10.8	貢岩	横型
38-46	—	LK51	Ⅲ	石匙	29.5	59	7	9.3	貢岩	横型 つまみ部欠損
38-47	10-47	MA50	Ⅲ	石匙	38	41	12	17.1	貢岩	横型
38-48	10-48	LT50	Ⅱ	石匙	84	35	14	36.8	貢岩	縦型
38-49	—	LT50	Ⅱ	石匙	65	33	10	12.9	貢岩	縦型
38-50	10-50	MA50	Ⅲ	石匙	58	15	11.5	6.2	貢岩	縦型 つまみ部欠損
39-51	10-51	MA51	Ⅲ	石匙	70	23	9	14.4	貢岩	縦型 つまみ部欠損
39-52	10-52	LT50	Ⅲ	石匙	64.5	28.5	9.5	12.4	貢岩	縦型 つまみ部欠損
39-53	—	LT50	Ⅱ	石匙	55	24	8	11.1	貢岩	縦型 つまみ部欠損
39-54	10-54	MA51	Ⅲ	石匙	60	22	9	13.3	貢岩	縦型 つまみ部欠損

第15表 捨て場出土石器観察表(2)

挿図番号	図版番号	出土地点	層位	器種	器長(mm)	器幅(mm)	器厚(mm)	重量(g)	石質	備考
39-55	10-55	LT50	II	籠状石器	70	35	25	68.2	貢岩	欠損
39-56	10-56	MA51	III	籠状石器	71	32	13	33.6	貢岩	
39-57	—	LR49	III	籠状石器	85	29	18.5	40.4	貢岩	
39-58	10-58	LT50	III	籠状石器	79.5	31	19	42.3	貢岩	
39-59	10-59	LT50	III	籠状石器	85	36	16.5	51.0	貢岩	
39-60	—	LT50	III	籠状石器	31	41	11	18.3	貢岩	欠損
39-61	10-61	MA49	II	石錐	46	12	11	4.6	貢岩	
39-62	—	MA51	II	石錐	30	10	5	1.7	貢岩	
39-63	10-63	LT51	II	石錐	41	19	14	7.7	貢岩	
39-64	—	LS47	II	石錐	32	24	10	3.0	貢岩	
40-65	—	LT51	III	石槍	74.5	27	18	28.0	貢岩	
40-66	10-66	MA49	III	石槍	79	21.5	12	17.9	貢岩	
40-67	10-67	MA51	III	石槍	96	21	12.5	24.6	貢岩	
40-68	10-68	LT51	III	石槍	60	21	13	15.4	貢岩	
40-69	—	LT51	III	石槍	50	16	10.5	8.0	貢岩	
40-70	—	LS47	III	石槍	46.5	20	10.5	9.9	貢岩	
40-71	—	LT51	III	石槍	97	36.5	24.5	74.0	貢岩	
40-72	—	LT51	II	石槍	75	36	20	53.5	貢岩	欠損
40-73	—	MA49	III	石槍	4.3	2.9	1.4	20.0	貢岩	欠損
40-74	—	MG43	III	打製石斧	27	19	11	4.1	貢岩	
41-75	11-75	MA49	III	半円状扁平打製石器	150	59	27	275.8	安山岩	
41-76	—	LT49	III	半円状扁平打製石器	102	77	35	432.2	安山岩	
41-77	—	LT50	II	半円状扁平打製石器	123	62.5	29	296.5	安山岩	
41-78	11-78	MA49	III	半円状扁平打製石器	97	60	24	183.1	貢岩	
41-79	—	MA49	III	半円状扁平打製石器	64	67	27	213.0	砂岩	擦り有り
41-80	—	LR48	III	半円状扁平打製石器	84	60	26	188.7	安山岩	
41-81	—	LT49	II	半円状扁平打製石器	55	78	34	206.5	砂岩	
41-82	—	LT49	II	半円状扁平打製石器	80	133	29	460.4	貢岩	打ち欠き有り 石錘か?
42-83	11-83	LS46	III	半円状扁平打製石器	162	74	44	611.2	砂岩	
42-84	11-84	LT50	III	半円状扁平打製石器	172	71	27	400.6	安山岩	
42-85	11-85	LT50	II	半円状扁平打製石器	134.5	53	27	239.9	砂岩	
42-86	—	LS47	II	半円状扁平打製石器	165	76	31	594.8	安山岩	
42-87	11-87	LT50	II	半円状扁平打製石器	136	75	34	434.3	安山岩	
43-88	—	LS47	III	磨石	98	93	65	839.5	安山岩	
43-89	11-89	LT50	III	磨石	127	77	58	189.6	安山岩	
43-90	—	MC53	II	磨石	104	87	58	661.3	安山岩	
43-91	11-91	LP50	III	磨石	99	78	49	552.8	安山岩	
43-92	—	LS47	II	磨石	106	69	37	416.9	安山岩	
43-93	11-93	LS47	II	磨石	100	78	51	572.5	安山岩	
44-94	—	LT50	III	凹石	102	94	57	798.0	流紋岩	
44-95	—	LT50	III	凹石	117	72	37	430.5	安山岩	
44-96	—	LT50	III	凹石	119	52	26	225.1	安山岩	凹みと擦り有り 乳棒状
44-97	—	LT49	II	凹石	137	93	60	1093.3	安山岩	
44-98	—	LT49	II	凹石	133	70	28	299.3	安山岩	
44-99	—	LT49	III	凹石	97	87	54	641.5	安山岩	

第16表 捨て場出土石器観察表(3)

挿図番号	図版番号	出土地点	層位	器種	器長(mm)	器幅(mm)	器厚(mm)	重量(g)	石質	備考
44-100	11-100	LT49	II	凹石	126	97	52	750.4	砂岩	
45-101	11-101	LT54	II	凹石	100	85	47	459.5	砂岩	
45-102	—	LS47	III	凹石	114	95	53	781.7	安山岩	
45-103	—	LT47	III	凹石	100	91	62	718.5	流紋岩	
45-104	11-104	MA50	III	凹石	100	90	52	496.2	安山岩	
45-105	—	MA50	III	凹石	157	47	47	648.0	砂岩	
45-106	—	LT49	III	凹石	128	65	41	498.7	閃緑岩	
45-107	—	MA50	III	凹石	127	67	32	382.6	安山岩	
46-108	11-108	LT49	III	磨製石斧	130	52	30	335.5	凝灰岩	乳棒状
46-109	11-109	LT49	III	磨製石斧	109	50.5	35	364.2	凝灰岩	乳棒状
46-110	11-110	MA50	III	磨製石斧	90	54	30	186.6	緑色凝灰岩	乳棒状 SQ87付近
46-111	11-111	MA50	III	磨製石斧	114	50	34	269.5	砂岩	乳棒状 SQ87付近
46-112	11-112	MA50	II	磨製石斧	63	67	24	151.8	貢岩	定角式 欠損
46-113	11-113	MA50	III	磨製石斧	73	50	28	152.8	緑色凝灰岩	定角式 欠損
46-114	—	LS47	III	磨製石斧	74	41	30	136.9	凝灰岩	欠損 SQ87付近
47-115	11-115	LS47	III	磨製石斧	81	41	12	70.3	緑色凝灰岩	定角式
47-116	—	MA51	III	磨製石斧	56.5	20	7	11.1	凝灰岩	定角式(ミニチュア)
47-117	11-117	LS47	III	磨製石斧	61	53	11	63.7	緑色凝灰岩	擦切
47-118	—	MA51	II	磨製石斧	54	32	10	18.0	凝灰岩	欠損 SQ87付近
47-119	—	LS46	III	磨製石斧	48	26	15	183.0	緑色凝灰岩	擦切 SQ87付近
47-120	—	LS47	III	石錘	65	67	15	88.1	砂岩	打欠き石錘
47-121	—	MA51	III	石錘	69	58	14	60.6	安山岩	打欠き石錘
47-122	—	MA51	III	石錘	54	50	12	41.5	安山岩	穴
47-123	—	MA51	III	石錘	95	66	25	191.6	安山岩	打欠き石錘
47-124	—	MA51	III	石錘	55	65	11	52.4	安山岩	打欠き石錘
47-125	—	LS46	II	浮子	42	45	43	29.8	軽石	球型 穴
47-126	—	MA51	II	浮子	47	46	26	68.0	貢岩	穴
48-127	—	MA49	III	石皿	320	432	138.5	24000.0	安山岩	
48-128	—	MA49	III	石皿	140	71	41	434.4	安山岩	
48-129	—	MC53	III	石皿	165	128	44	819.5	安山岩	
48-130	—	MA49	II	石皿	153	79	58	559.9	安山岩	
49-131	—	MF58	III	石皿	218	210	55	4200.0	砂岩	
49-132	—	MA49	III	石皿	225.5	183.5	83	5000.0	砂岩	
49-133	12-133	L056	III	石冠状石器製品	92	49	55	309.6	安山岩	SQ87付近
49-134	12-134	LS47	III	石冠状石器製品	75	65	77	576.8	砂岩	SQ87付近
50-135	12-135	LS46	III	磨製石製品	202	132	30	784.0	安山岩	
50-136	12-136	LS46	III	垂飾品	50	20	5	8.1	緑色凝灰岩	裏に浅い盲孔有り ケツ状耳飾?
50-137	12-137	LC52	III	石刀	35	36	9.5	15.7	貢岩	上・下・側欠損
50-138	12-138	LT50	III	青竜刀形石器	71	114	40	319.9	安山岩	SQ87付近
50-139	12-139	LS46	III	異形石器	40	45	10	9.2	貢岩	

## 第5章 自然科学的分析

### 第1節 放射性炭素年代測定

山形 秀樹 (パレオ・ラボ)

#### 1 はじめに

高野遺跡より検出された炭化材の加速器質量分析法 (AMS法) による放射性炭素年代測定を実施した。

#### 2 試料と方法

試料は、SK92埋土中から採取した炭化材1点、SK141埋土中から採取した炭化材1点、SI104埋土中から採取した炭化材1点の併せて3点である。

これら試料は、酸・アルカリ・酸洗浄を施して不純物を除去し、石墨(グラファイト)に調整した後、加速器質量分析計 (AMS) にて測定した。測定された $^{14}\text{C}$ 濃度について同位体分別効果の補正を行なった後、補正した $^{14}\text{C}$ 濃度を用いて $^{14}\text{C}$ 年代を算出した。

#### 3 結果

表1に、各試料の同位体分別効果の補正值 (基準値-25.0‰)、同位体分別効果による測定誤差を補正した $^{14}\text{C}$ 年代、 $^{14}\text{C}$ 年代を暦年代に較正した年代を示す。

$^{14}\text{C}$ 年代値 (yrBP) の算出は、 $^{14}\text{C}$ の半減期としてLibbyの半減期5,568年を使用した。また、付記した $^{14}\text{C}$ 年代誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、計数値の標準偏差  $\sigma$  に基づいて算出し、標準偏差 (One sigma) に相当する年代である。これは、試料の $^{14}\text{C}$ 年代が、その $^{14}\text{C}$ 年代誤差範囲内に入る確率が68%であることを意味する。

なお、暦年代較正の詳細は、以下の通りである。

#### 暦年代較正

暦年代較正とは、大気中の $^{14}\text{C}$ 濃度が一定で半減期が5,568年として算出された $^{14}\text{C}$ 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の $^{14}\text{C}$ 濃度の変動、および半減期の違い ( $^{14}\text{C}$ の半減期5,730 $\pm$ 40年) を較正し、より正確な年代を求めるために、 $^{14}\text{C}$ 年代を暦年代に変換することである。具体的には、年代既知の樹木年輪の詳細な測定値を用い、さらに珊瑚のU-Th年代と $^{14}\text{C}$ 年代の比較、および海成堆積物中の縞状の堆積構造を用いて $^{14}\text{C}$ 年代と暦年代の関係を調べたデータにより、較正曲線を作成し、これを用いて $^{14}\text{C}$ 年代を暦年代に較正した年代を算出する。

$^{14}\text{C}$ 年代を暦年代に較正した年代の算出にCALIB 4.3 (CALIB 3.0のバージョンアップ版) を使用した。なお、暦年代較正值は $^{14}\text{C}$ 年代値に対応する較正曲線上の暦年代値であり、 $1\sigma$  暦年代範囲はプログラム中の確率法を使用して算出された $^{14}\text{C}$ 年代誤差に相当する暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値はその $1\sigma$  暦年代範囲の確からしさを示す確率であり、10%未満についてはその表示を省略した。 $1\sigma$  暦年代範囲のうち、その確からしさを示す確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示した。

表17 放射性炭素年代測定および暦年代較正の結果

測定番号	試料データ	$\delta$ 13CPDB	$^{14}\text{C}$ 年代	$^{14}\text{C}$ 年代を暦年代に較正した年代	
				暦年代較正值	1 $\sigma$ 暦年代範囲
PLD-1687	炭化材 No. 1	-25.4	1135 $\pm$ 30	cal AD 895 cal AD 925 cal AD 940	cal AD 890 - 905 (19.7%)
PLD-1688	炭化材 No. 2	-25.6	1135 $\pm$ 30	cal AD 895 cal AD 925 cal AD 940	cal AD 890 - 905 (19.7%)
PLD-1689	炭化材 No. 3	-25.1	4455 $\pm$ 35	cal BC 3095	cal BC 3315 - 3230 (48.7%)

#### 4 考察

各試料は、同位体分別効果の補正および暦年代較正を行なった。暦年代較正した1 $\sigma$ 暦年代範囲のうち、その確からしさの確率が最も高い年代範囲に注目すると、それぞれより確かな年代値の範囲として示された。

#### 引用文献

中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の $^{14}\text{C}$ 年代、p. 3-20.

Stuiver, M. and Reimer, P. J. (1993) Extended  $^{14}\text{C}$  Database and Revised CALIB3.0  $^{14}\text{C}$  Age Calibration Program, Radiocarbon, 35, p. 215-230.

Stuiver, M., Reimer, P. J., Bard, E., Beck, J. W., Burr, G. S., Hughen, K. A., Kromer, B., McCormac, F. G., v. d. Plicht, J., and Spurk, M. (1998) INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, 24,000-0 cal BP, Radiocarbon, 40, p. 1041-1083.

## 第6章 まとめ

本遺跡の発掘調査では、県営ほ場整備事業地内の主に水路部分3,300㎡という限られた範囲にもかかわらず、縄文時代の竪穴住居跡1軒、土坑14基、土坑墓3基、土器埋設遺構2基、配石遺構1基、捨て場2箇所、平安時代の竪穴住居跡1軒、土坑3基などを検出した。また、遺構内外から、縄文時代中期～晩期、平安時代の遺物が出土した。個別の遺構と遺物については、前章で述べているが、ここでは発掘調査の成果と今後の課題を抽出してみたい。

### 遺構について

本遺跡で竪穴住居跡としたのはS I 104で、炉埋設土器と周囲の柱穴を検出した。炉内部、及び周辺は焼けており、特に炉埋設土器西側は硬くしまっていたことから、床面の一部であったと思われる。時期は、埋設土器から大木8a式前後と推定できる。本遺跡と非常に近い位置にあり、集落跡である黒倉B遺跡では、中期中葉頃の竪穴住居跡に伴う炉跡が数多く検出されている。そのほとんどが石囲炉・複式炉であり、同時期の大木式土器文化圏の特徴を示しているが、本遺跡の炉の形態は土器埋設炉であり、黒倉B遺跡とは異なる特徴を示している。土器埋設炉の形態は円筒土器文化圏に多く見られ、本遺跡の遺物（第17図24・第25図180）でも見られる大木・円筒両文化の折衷型が遺構の形態に現れたものであろうか。しかし、1例のみということで推測の域を出ない。S I 104は位置的には、大木8a式の土器が多量に出土した捨て場の近くにあり、周囲の土器埋設遺構の位置からみても、捨て場の周辺に中期中葉～後葉にかけての居住域が形成されていた可能性が考えられる。

一方で、捨て場が前述のように、多量の遺物を包含し、土器は、基本土層I層中に大木9～10式、II～III層中に大木7a・7b・8a・8bに比定される土器を含むことから、長期間の使用が考えられる。また、II層で確認された配石遺構は、捨て場が継続的に形成される途中で構築されたと考えられる。先述した黒倉B遺跡では、本遺跡と同様、捨て場ともいえる多量の土器・石器が出土した地域に大小の自然石を使用した配石遺構が構築されていたが、「配石下部に土坑を伴わず、特殊な遺物も伴出しなことから、この遺構自体が墓あるいは祭祀を目的として構築された遺構であるとは見なし難い」としている。本遺跡のS Q 87配石遺構の場合はどうか。縦40cm×横20cm×厚さ15cmほどの円柱形・板状の礫を主体に、縦長の長方形に礫を組んでいるが、周辺に散らばる礫などから、後世による攪乱を受けたことが推測できる。構築方法として、大きな礫を下に配置し、その上に小型・中型の礫を積み重ねたと推定され、そのように考えると、配石構築の際に一定の形にする意図が見受けられる。下部に明確な土坑などは伴わないが、断面観察から一部緩やかな落ち込みが確認された。また、周辺から土製品、石冠状石製品、磨製石斧、青竜刀形石器、石皿などが見つかっており、捨て場内においてこれらの遺物は、本配石遺構周辺に出土する傾向にある（第14～16表、第13図参考）。よって、本遺跡の配石遺構は、集落内における祭祀的な意味を持つ構造物と推定し、その周辺は祭祀の場であったと考えることもできる。

東北地方北部、すなわち秋田・岩手・青森県域における中期末葉以降の配石行為がしばしば墓制とより強く結びついたかたちで特異な展開を見せることは、関東甲信越・東海地方における同時期の集落

遺跡が、住居跡・墓・祭祀施設、特に水場遺構のような生産施設にまで石材を持ち込むことで『配石集落』へと展開を果たす一方で、<sup>(註1)</sup>地域的な特色として認識されている。その具体例として、大湯環状列石、伊勢堂岱遺跡、小牧野遺跡等で検出された環状列石、樺山遺跡、立石遺跡、天戸森遺跡等で検出された配石墓が挙げられる。これらの遺跡で特徴的といえることの1つは、配石が集落内において一定の場、すなわち祭祀・墓といった葬送の場を区画する、または直接構成することが指摘できる。ここで、本遺跡で土坑墓と判断した遺構の形態を見てみると、墓坑内に大柄な礫を埋め込む、あるいは小型・中型の礫を敷き詰めるようにしており、配石の方法においてS Q87配石遺構と類似する点が認められ、S Q87は配石墓と考えることも可能である。土坑墓の遺構配置は、配石を伴わない土坑とは明らかに配置が異なっていることが指摘でき、捨て場を挟んで北東、南西側に分かれていることも指摘できる。配石を伴う土坑墓が他の土坑とは異なり、一定の場所に構築された可能性が考えられる。

### 遺物について

主に出土した土器は、縄文時代中期初頭から中葉の土器である、大木7 a、7 b、8 a、8 b 式に比定されるものである。本遺跡は、前に触れたように、東北北部から北海道南部にかけて分布する円筒土器文化圏と東北南部の大木式土器文化圏が重なり合う地帯にあるが、大木式土器が圧倒的に多い。しかし、両者の特徴を兼ね備えたような土器（第17図24・第25図180）もあり、こうした土器は円筒上層 a 式と大木7 a 式（24）、円筒上層 b 式と大木7 b 式（180）の時期に特に散見される。遺構の項で触れたように、土器や住居プランにも両文化の折衷した如き特徴を垣間見ることができる。しかしこのような傾向は、中期中葉から後葉になるにつれて徐々に解消し、大木式土器文化が優勢になったと考えられる。

第4章第3節で触れたが、大木式土器の中には、（第27図194）の深鉢形土器のように口縁部が小波状になり、粘土紐貼付による隆帯と両側に沿う縄文の側面圧痕文により口縁、胴部共に4単位の文様構成がなされているもの、（第30図254）のように粘土紐貼付による横位S字状文を波状口縁部に、隆沈線の渦巻文を含む曲折文を口縁部、胴部に施した深鉢形土器が出土している。このような大木7 b、8 a、8 b 式、所謂中期前葉～中葉にかけての各型式の特徴が入り混じった土器は型式間の変遷を考える上で重要な意味を持つと考えられる。

量的にはかなり少ないが、大木7 a 式に比定される土器の中に、北陸系の要素を持つ土器も見つかっている。半截竹管による縦位の波状・ヘアピン状文などを描くもの（第19図83）であるが、田沢湖町では、同じように北陸系土器が出土した黒倉B遺跡、瀧前遺跡が存在しており、前期末から中期前葉にかけての土器が多い北陸系土器は、彼我の間の頻繁な交流を裏付ける資料となり、本遺跡の土器もこれに付け加えられることとなるだろう。

石器に関しては、石鏃、石槍、石匙、石篋、石錐などの日常的な道具としての機能を持つものの他に、青竜刀形石器、石冠状石製品、石刀、磨製石製品など儀器的な性格を持つ遺物も見つかっている。なお、儀器的な性格を持つ石器は、遺構の項で触れたように、配石遺構周辺の出土がほとんどである。

今回の調査結果から、縄文時代中期初頭において集落内に捨て場が形成され始め、居住域も調査区の周辺にあったものと考えられる。中期前葉～後葉にかけても同じ場所にそれらが作られ続け、集落に



おける祭祀的な場にもなるようである。居住域はその外側に位置し、墓域や祭祀の場と分かれた構造になるものと想定される。平安時代の集落は今回の発掘調査において、遺物・遺構共に微々たるものであり、小規模な集落が考えられる。

代表的な2つの文化圏の接触地にあたる高野遺跡の立地は、両文化圏の特徴を現す遺構、遺物などの存在、また、秋田県南部における中期初頭～後葉にかけての資料を提供し、遠方地域との交流を考えることができる上での条件が整っている。この地域の土器を研究するうえでも、また1つ欠かせない遺跡として認識されるとともに、周辺地域の遺跡との関わりや相互の比較検討をする必要のあることを今後の課題としたい。

註1 神奈川県教育委員会 『下北原遺跡』 神奈川県埋蔵文化財報告第14集 1977（昭和52）年

#### 引用・参考文献

- 田沢湖町教育委員会 『黒倉B遺跡－第1次発掘調査報告－』 1985（昭和61）年
- 田沢湖町教育委員会 『黒倉B遺跡－第2次発掘調査報告－』 1986（昭和62）年
- 村越 潔 『円筒土器文化』 1974（昭和50）年
- 文化財保護委員会 『大湯町環状列石』 1953（昭和29）年
- 秋田県教育委員会 『伊勢堂岱遺跡－県道木戸石鷹巣線建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ－』  
秋田県埋蔵文化財報告書第293集 1999（平成11）年
- 青森市教育委員会 『青森市小牧野遺跡発掘調査報告書（第1次）』 1998（平成10）年
- 北上市教育委員会 『北上市往稲瀬町樺山遺跡緊急発掘調査報告』 1969（昭和45）年
- 大迫町教育委員会 『立石遺跡』 大迫町埋蔵文化財報告第3集 1979（昭和55）年
- 鹿角市教育委員会 『天戸森遺跡』 1986（昭和62）年
- 秋田県教育委員会 『瀧前遺跡（第2次）－県営田沢湖オートキャンプ場整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－』  
秋田県文化財調査報告書第306集 2000（平成12）年
- 丹羽 茂 「大木式土器」 『縄文文化の研究』 第4巻 1981（昭和57）年
- 興野義一 「大木式土器理解のために（Ⅱ）」 『考古学ジャーナル』 第16号 1968（昭和42）年





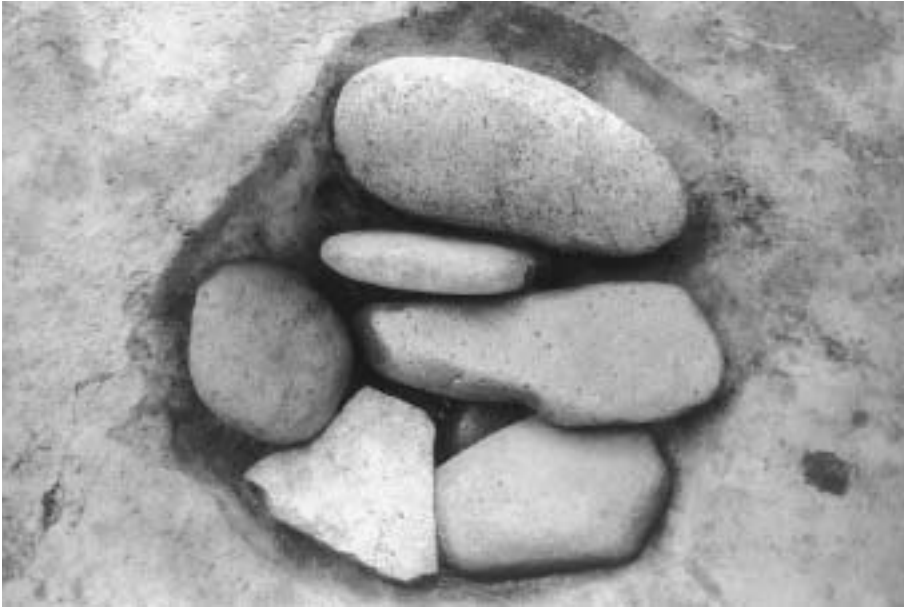
調査区 遠景（北西→）



S T 33 近景（北東→）



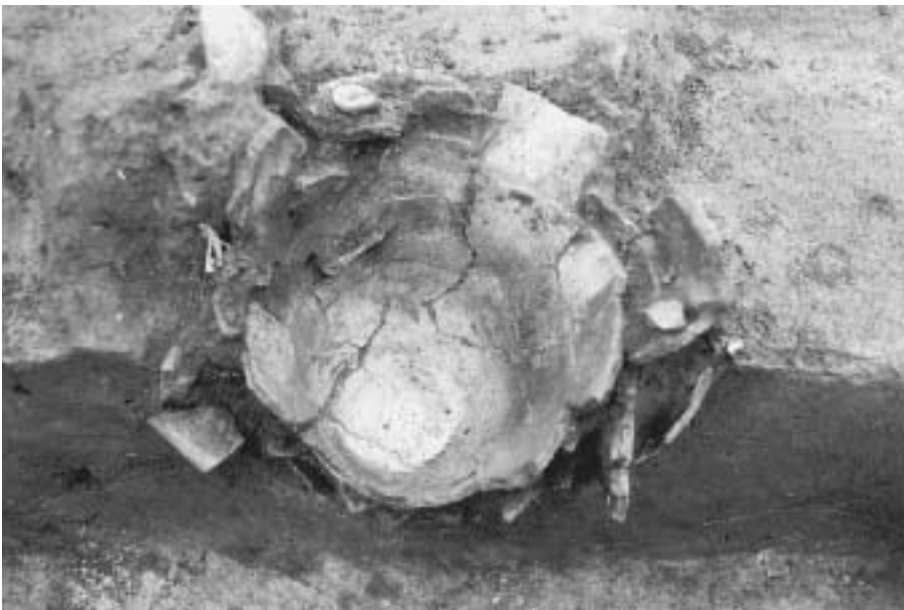
S T 33 状況（南東→）



S K S 30 状況 (東→)



S K S 32 状況 (東→)



S R 27 状況 (東→)



S I 104 炉断面 (南東→)



S T 77・S Q 87 状況  
(南東→)



S I 105 完掘状況  
(南東→)



S I 104 出土土器



捨て場出土土器（1）



捨て場出土土器（2）



捨て場出土土器（3）



捨て場出土土器（4）



捨て場出土土器（5）



捨て場出土土器（6）

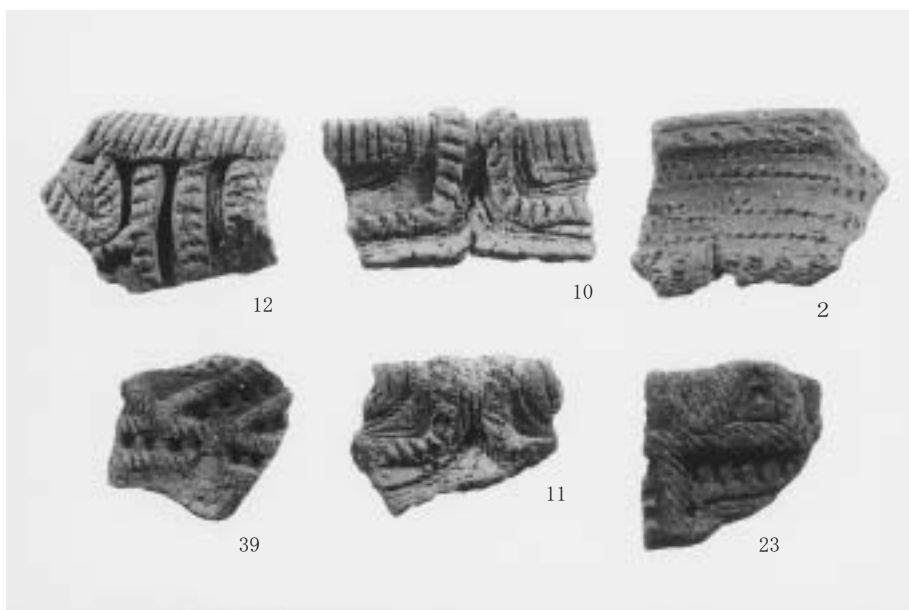


捨て場出土土器（7）

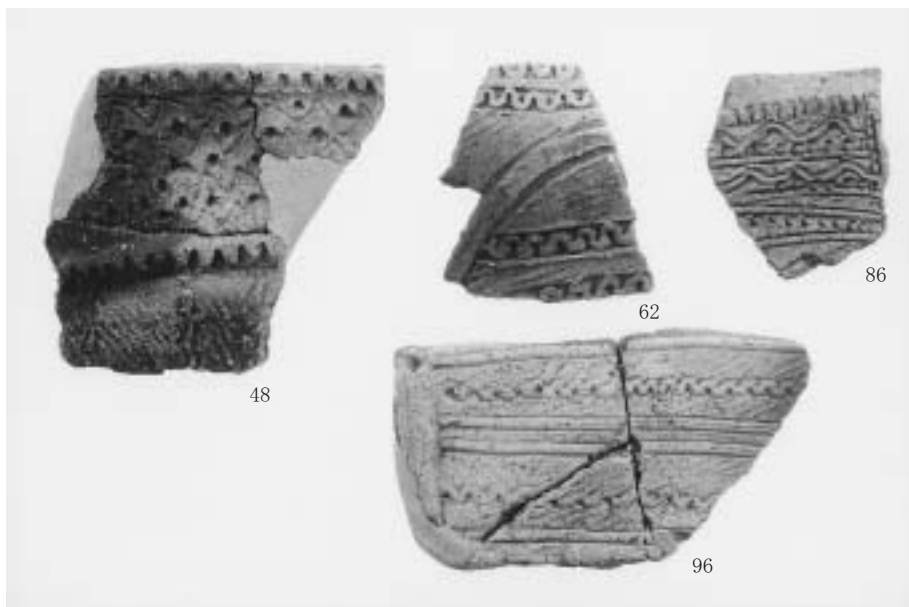


捨て場出土土器（8）





捨て場出土土器 (9)



捨て場出土土器 (10)



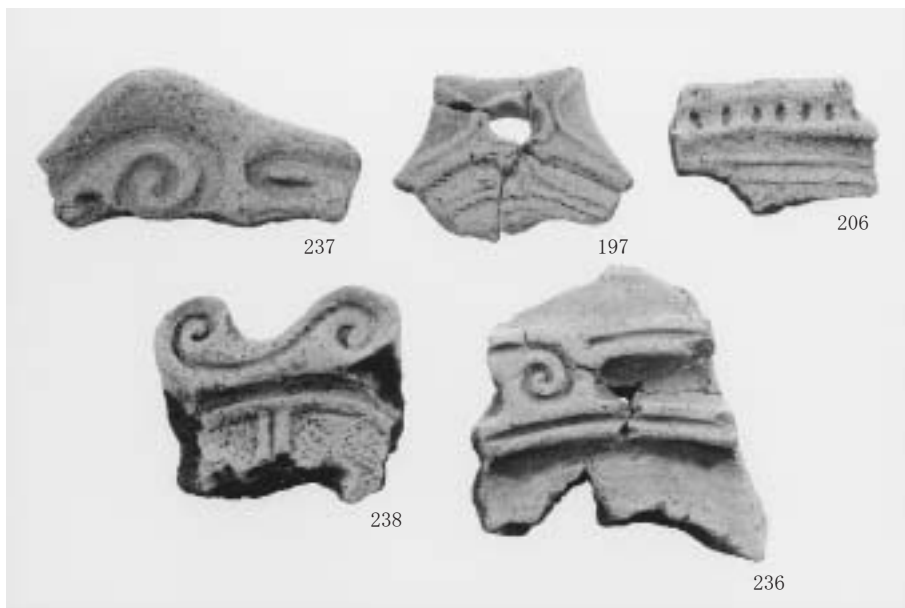
捨て場出土土器 (11)



捨て場出土土器 (12)



捨て場出土土器 (13)



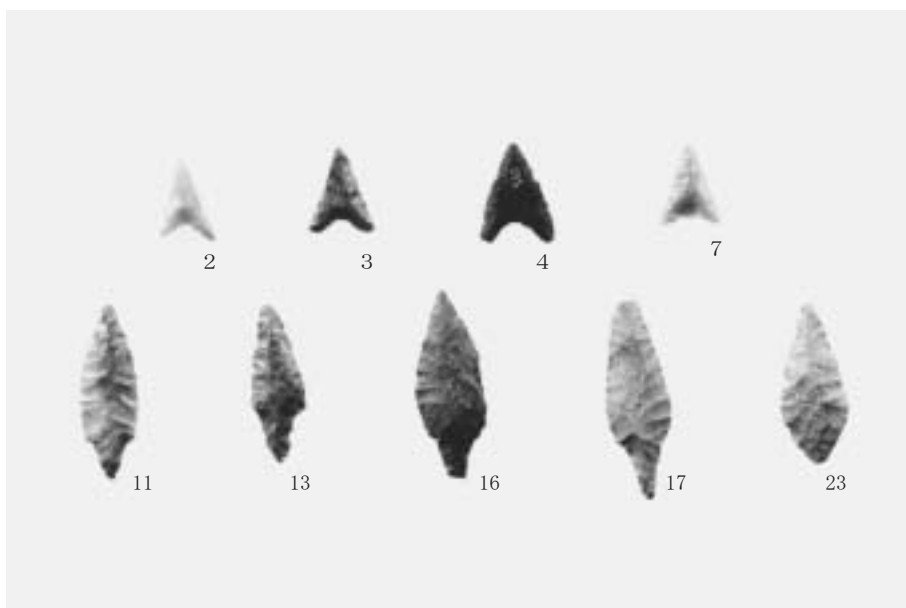
捨て場出土土器 (14)



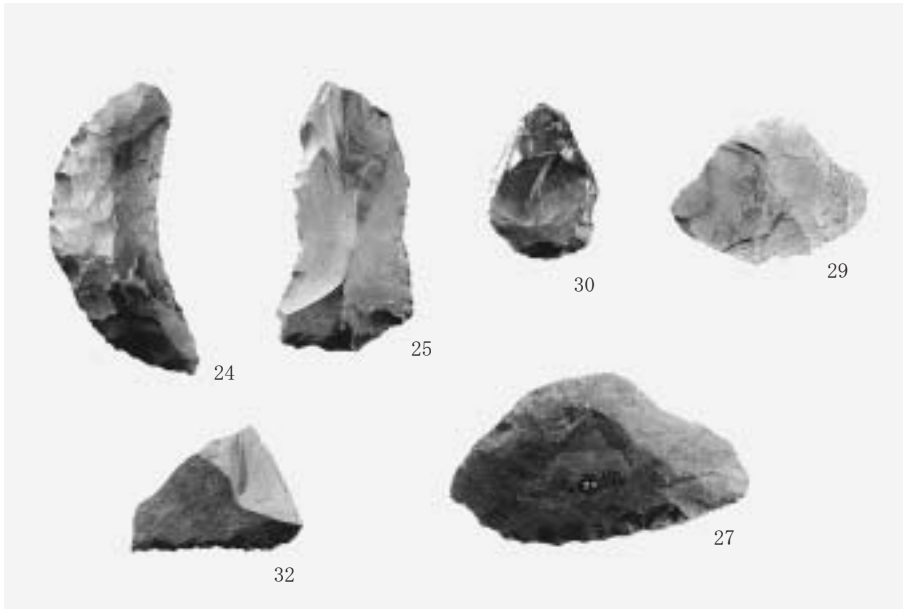
捨て場出土土器 (15)



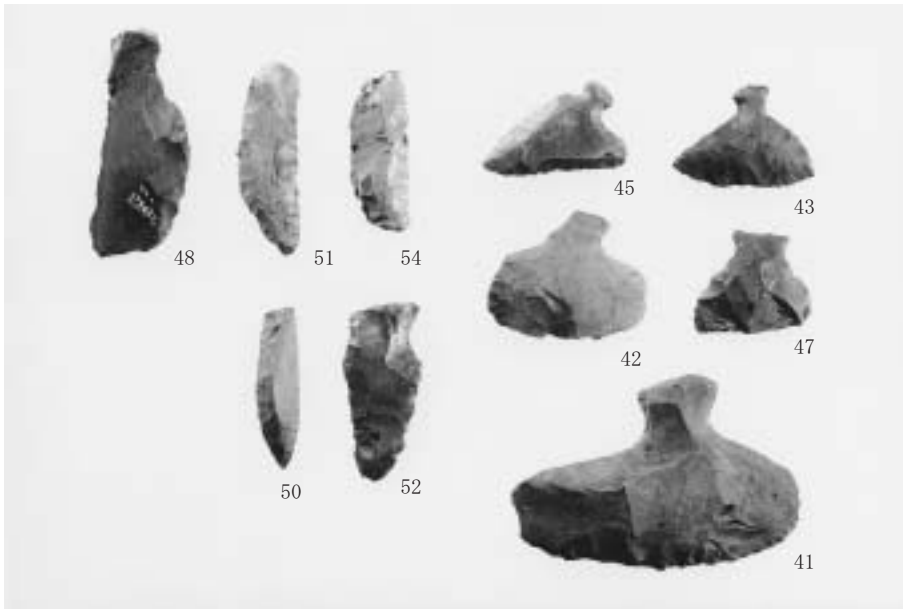
捨て場出土土製品



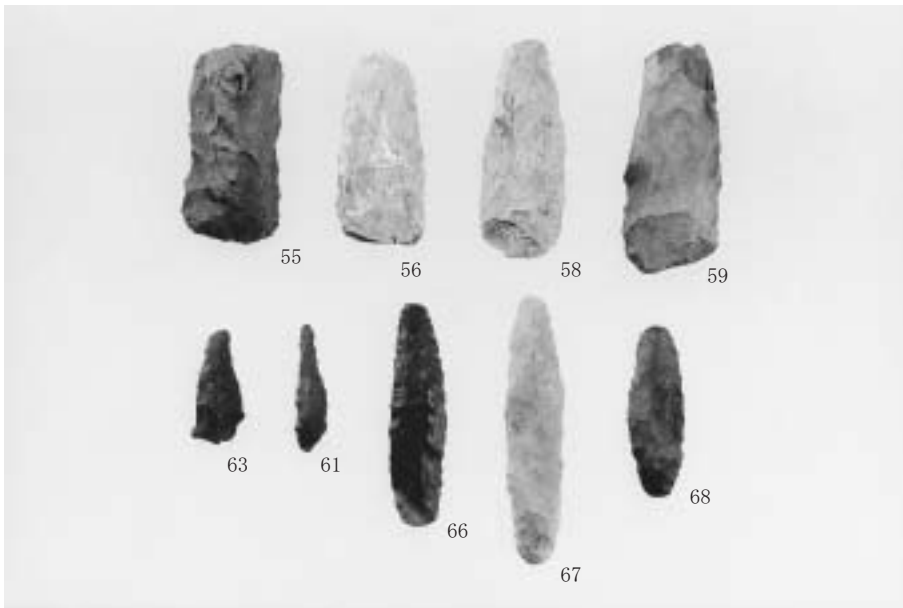
捨て場出土石器 (1)



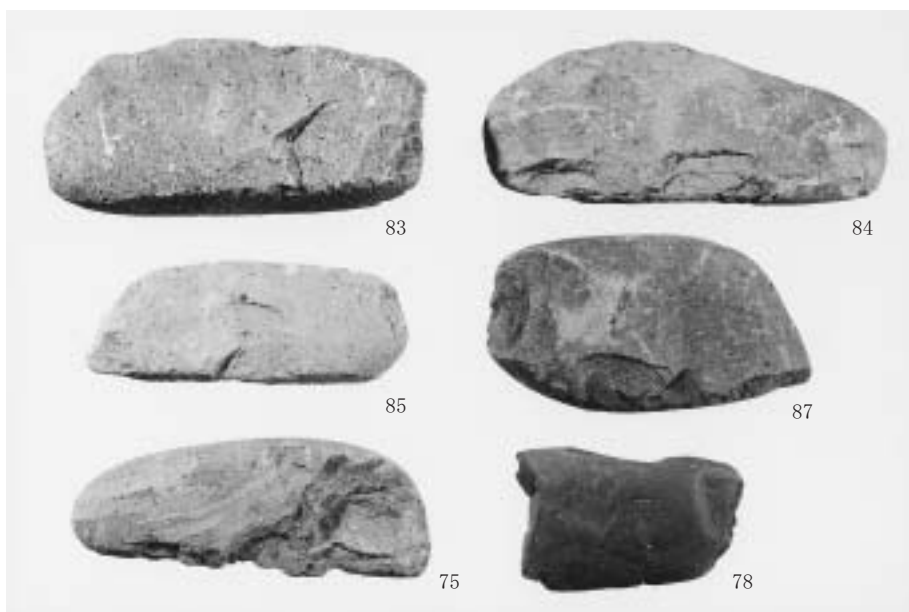
捨て場出土石器 (2)



捨て場出土石器 (3)



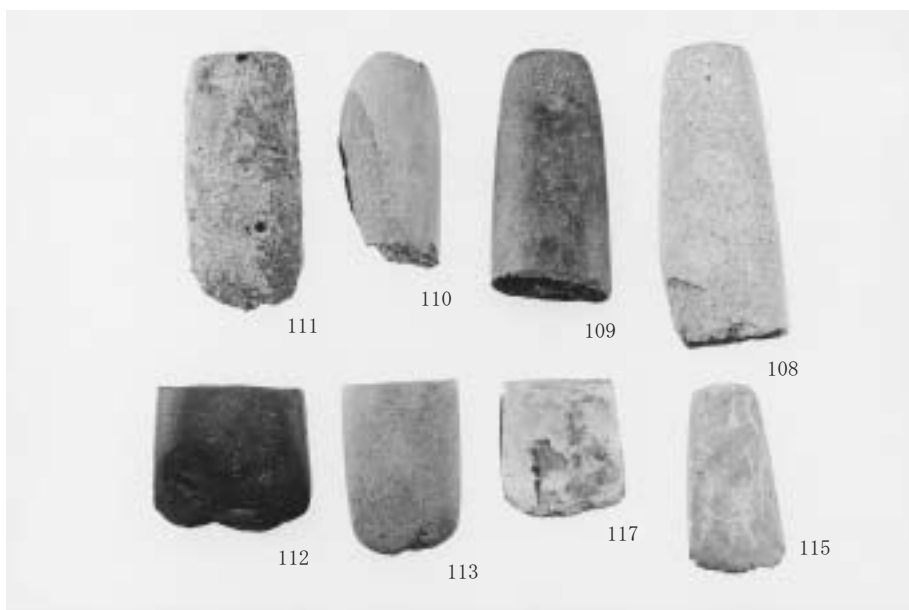
捨て場出土石器 (4)



捨て場出土石器 (5)



捨て場出土石器 (6)



捨て場出土石器 (7)



捨て場出土石製品（1）



捨て場出土石製品（2）

# 報告書抄録

ふりがな	たかの いせき							
書名	高野遺跡							
副書名	県営ほ場整備事業（黒倉堰地区）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	秋田県文化財調査報告書							
シリーズ番号	第372集							
編著者名	赤上 秀人							
編集機関	秋田県埋蔵文化財センター							
所在地	〒014-0802 秋田県仙北郡仙北町払田字牛嶋20 TEL 0187-69-3331							
発行年月日	西暦2004年3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
たかの いせき 高野遺跡	あき た けん せん 秋 田 県 仙 ほくぐん た ざわ 北 郡 田 沢 こ ま ち じん だい 湖 町 神 代 あ ざ た か の 字 高 野  296外	05426	50-75	39° 36' 56"	140° 35' 80"	20020514 { 20020802	3,300m <sup>2</sup>	県営ほ場整備事業 (黒倉堰地区)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
高野遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡 捨て場 配石遺構 土坑墓		縄文土器・石器	縄文中期中葉の集落跡の調査で、捨て場から円筒、大木式の土器が出土した。		
	集落跡	平安時代	竪穴住居跡 土坑		土師器			

秋田県文化財調査報告書第372集

高野遺跡

— 県営ほ場整備事業(黒倉堰地区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 —

印刷・発行	平成16年3月
編集	秋田県埋蔵文化財センター 〒014-0802 秋田県仙北郡仙北町払田字牛嶋20番地 TEL0187-69-3331 FAX0187-69-3330
発行	秋田県教育委員会 〒010-8580 秋田市山王三丁目1番1号 TEL018-860-5193
印刷	(有)高橋活版印刷



